

平成 19 年度 生涯学習・社会教育支援体制に関する調査研究

若年層の生活体験に関する調査研究報告書

平成 20 年 1 月

青森県総合社会教育センター

はじめに

青森県総合社会教育センターでは、本県における生涯学習・社会教育の推進を図るための基礎データを得るため、「生涯学習・社会教育支援体制に関する調査研究」を実施しております。

平成 18 年度は、調査研究テーマを「若年層の職業観と学習活動に関する調査研究」として、若年層の職業観と学習活動の状況を調査し、正規雇用者・非正規雇用者・無業者の比較分析を行った結果、中学時代の欠席日数、友人数、成績などに違いが見られ、学校生活や家庭生活の状況がその後の職業生活に影響を与えている可能性が示唆されました。

このような昨年度の調査結果を踏まえ、平成 19 年度は、調査研究テーマを「若年層の生活体験に関する調査研究」として、若年層の生活体験と職業生活の関連について調査し、小学生・中学生・高校生期の学校生活や家庭生活などにおける様々な生活体験が、その後の職業生活にどのように影響を与えているか研究することとしました。

平成 19 年 5 月、国のキャリア教育等推進会議において「キャリア教育等推進プラン」が策定されました。本県においても、「あおもりを愛する人づくり戦略」を策定し、基本理念とする「ふるさとあおもりを愛し、ふるさとあおもりの元気をつくる人材の育成」に向け、未来を担う子どもたちを「あおもりの未来をつくる人材」、地域産業や地域おこしの担い手を「あおもりの今をつくる人材」として、それぞれ育成していくことを基本目標に掲げ、中長期的な視点に立って具体的な取組を推進していくところです。

本報告書は、本県におけるキャリア教育及び若者のキャリア形成支援に関する生涯学習振興関連施策の在り方を検討するための基礎資料を得るため、本年度に実施しました調査結果を報告するものです。本調査結果が、各学習機会提供機関における生涯学習・社会教育事業の基礎資料としてお役に立てれば幸いに存じます。

最後になりましたが、調査対象者として御回答いただいた数多くの県民の皆様にご心から感謝し、厚く御礼申し上げます。

平成 20 年 1 月

青森県総合社会教育センター
所 長 佐々木 俊 二

目次

第1章	調査の概要	1
1	調査の背景	1
2	調査の目的	1
3	調査対象	2
4	調査方法	2
5	調査期間	2
6	回収結果	2
7	回答者の属性	3
8	本調査報告書の留意点	4
9	調査結果の概要	5
第2章	調査の結果と分析	6
1	基本的属性	7
2	小学生期の生活体験について	11
3	中学生期の生活体験について	21
4	高校生期の生活体験について	28
5	仕事の経験について	34
6	無業者について	49
7	職業観	54
8	誇れるもの	69
第3章	考察	70
1	正規雇用者の傾向	70
2	非正規雇用者の傾向	71
3	無業者の傾向	73
4	中長期的なキャリア教育の在り方について	75
第4章	資料編	79
	調査結果単純集計表	79
	調査票	103
	調査研究組織	119

第1章 調査の概要

1 調査の背景

平成15年以降、「若者自立・挑戦プラン」に基づき、文部科学省においても若年者の雇用に関する様々な取組がなされている。各学校段階を通じた体系的なキャリア教育により、真に自立し社会に貢献する若者の育成に力を入れると同時に、平成18年以降はフリーターやニート等を対象とした「再チャレンジ」の機会の提供にも力が注がれるようになった。

本県においても、雇用環境の低迷、県外流出、早期離職問題等、若者の雇用に関する課題は多い。しかし、雇用環境の改善等、早期には改善や回復が望めない現状の中で生きなければならない以上、この社会の中で自己を理解し、また自己と他者・社会との関係を構築する力を身につけていかなければならない。

文部科学省では、平成8年の中央教育審議会答申以降、家庭・学校・地域社会における様々な体験が「共同作業や共同生活を営むことができる社会性や他者の個性を尊重する態度、日々新たに生じる課題に立ち向かおうとする意欲や問題解決能力、精神力や体力、新しい物事を学ぼうとする意欲や興味・関心、文化活動や自然に親しむ心などの「生きる力」¹⁾を子どもたちに根づかせるとして体験活動の機会の充実を図ることに力を入れてきた。平成15年の「若者自立・挑戦プラン」にも職業体験等の推進が盛り込まれ、平成16年の「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議」の報告書においても、キャリア発達を促す体験活動として、職場体験、インターンシップ、社会人・職業人インタビュー、ボランティア活動等を挙げ、年齢や価値観が異なる多様で幅広い他者と積極的に関わることによる体験の大きな教育効果が述べられている。

本県でも、すでに知事部局等や教育庁、各学校のほか企業、大学、各種団体において体験活動を取り入れた様々なキャリア教育に関する取組が試みられている。「人材育成」を一つの柱とする本県においては、小学校・中学校・高等学校と社会（職業）をつなぐ「継続的なキャリア教育」が、家庭・地域・企業等の理解と協力を得ながらますます進展されることが期待されている。

2 調査の目的

職業体験や自然体験といった体験活動の効果については、小・中学生あるいは高校生を対象としたアンケート調査を基に、すでに様々な研究者や団体によって研究がなされている。しかし、子どもたちの職業生活は未知数であり、体験活動が実際にその後の職業生活とどのようにつながるかということはまだ明らかではない点が多い。そこで、本調査では、若年層の小学生・中学生・高校生期の家庭・学校・地域における様々な生活体験について

¹⁾ 文部省中央教育審議会（1996）「21世紀を展望したわが国の教育の在り方について（第一次答申）」

調査し、かつての生活体験がその後の職業生活とどのようにつながっているのか、その関連性について考察することにより、本県における今後のキャリア教育の在り方や若年層のキャリア形成支援に関する生涯学習振興関連施策の方向性を検討するための基礎資料を得ることを目的とするものである。

3 調査対象

- (1) 母集団 県内の市町村に在住の20歳以上35歳未満の男女
- (2) 標本数 4,000人
- (3) 抽出方法

2段階に層化して抽出を行った。以下の行政区分において、10市(3市...青森市,弘前市,八戸市 7市...黒石市,五所川原市,十和田市,三沢市,むつ市,つがる市,平川市)は地域特性などを考慮して全市を対象地とし、郡部に関しては各郡の人口規模によって、それぞれ1~3町村を無作為に選び、調査対象地域として選出した。更に人口比に応じて配分した人数を、各市町村の選挙人名簿から等間隔抽出した。

【県内行政区分】

東青地区...青森市,東津軽郡

中南地区...弘前市,黒石市,平川市,中津軽郡,南津軽郡

西北地区...五所川原市,つがる市,西津軽郡,北津軽郡

三八地区...八戸市,三戸郡

上北地区...十和田市,三沢市,上北郡

下北地区...むつ市,下北郡

4 調査方法

調査票を郵送し、同封の返信用封筒により無記名で回収する方法により実施した。なお、調査対象者には、事前に調査を予告する挨拶状を送付して、協力依頼を行った。

5 調査期間

平成19年9月5日に事前挨拶状を送付した上で、9月12日に調査票を送付し、回答期限を9月28日とした。

6 回収結果

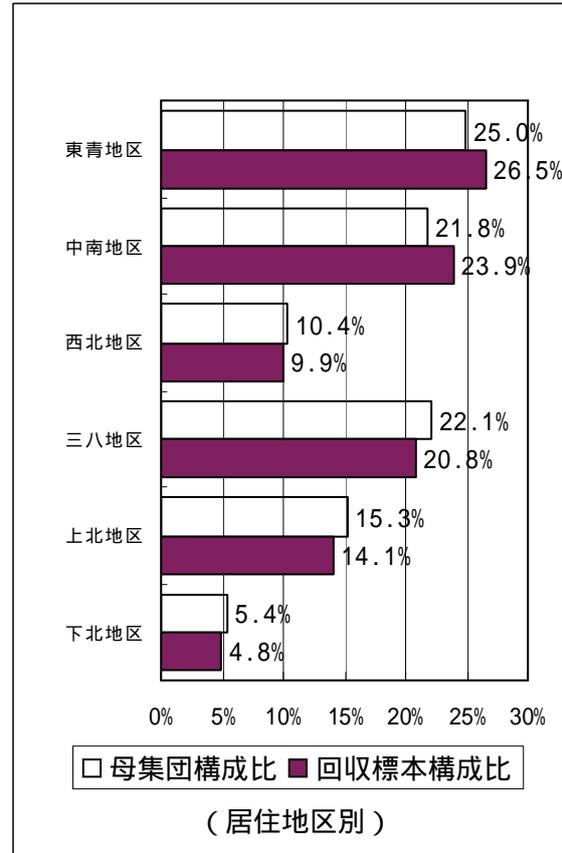
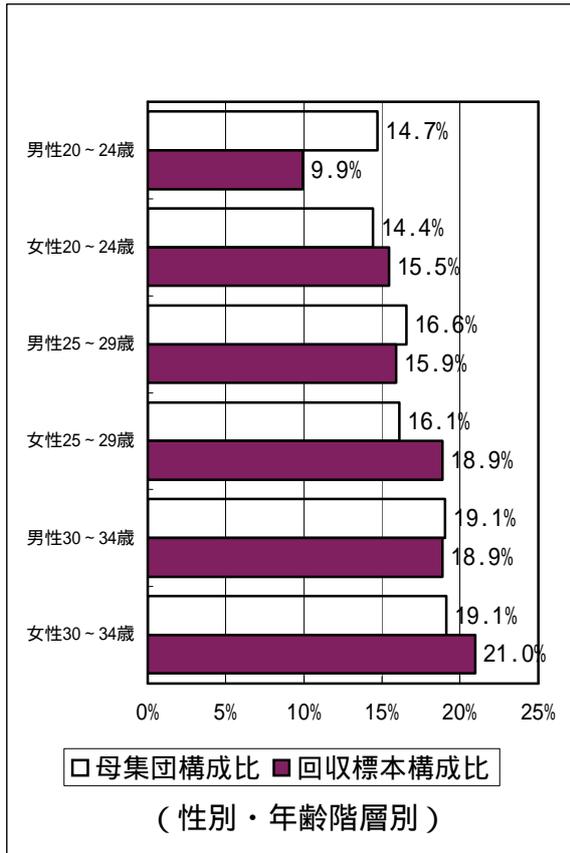
- (1) 有効回収数(率) 1,601人(40.0%)
未記入が多数あった8票を無効とみなして除外した。
- (2) 調査不能数(率) 2,391人(59.8%)
 - 不能内訳 - 住所不明42人(1.1%) 調査拒否3人(0.1%) その他7人(0.2%)
無反応2,339人(58.5%)

第1章 調査の概要

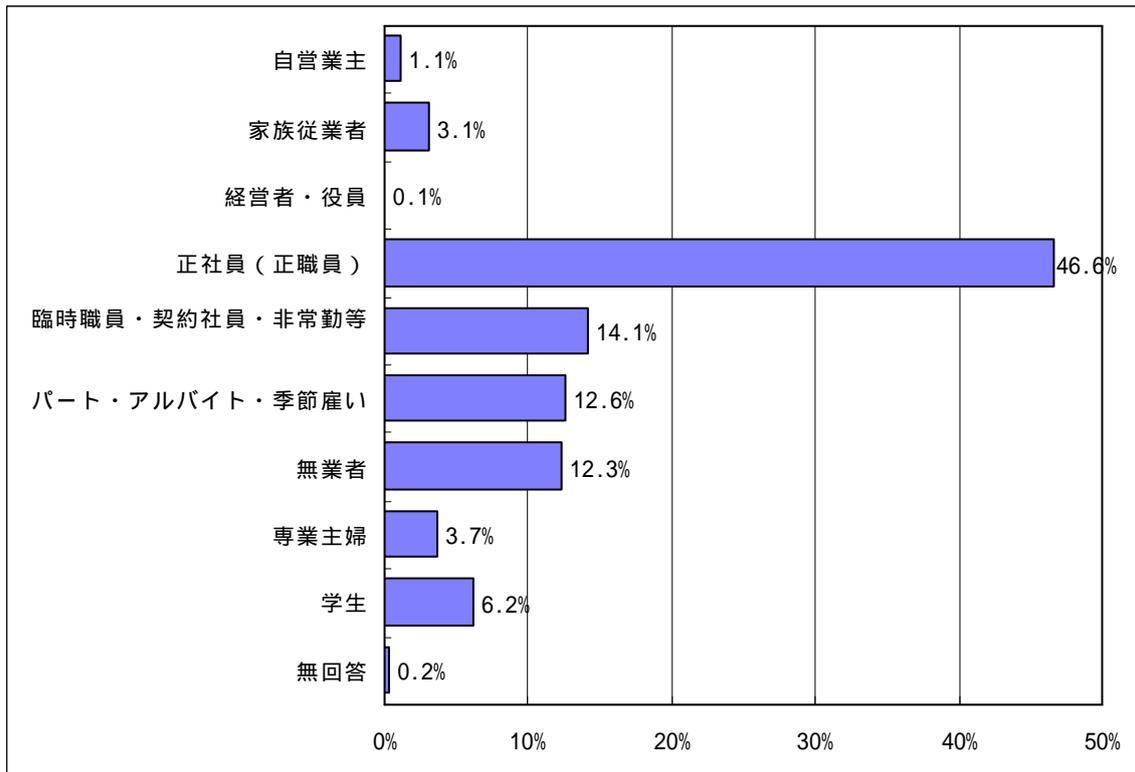
7 回答者の属性

(1) 性別・年齢・地区

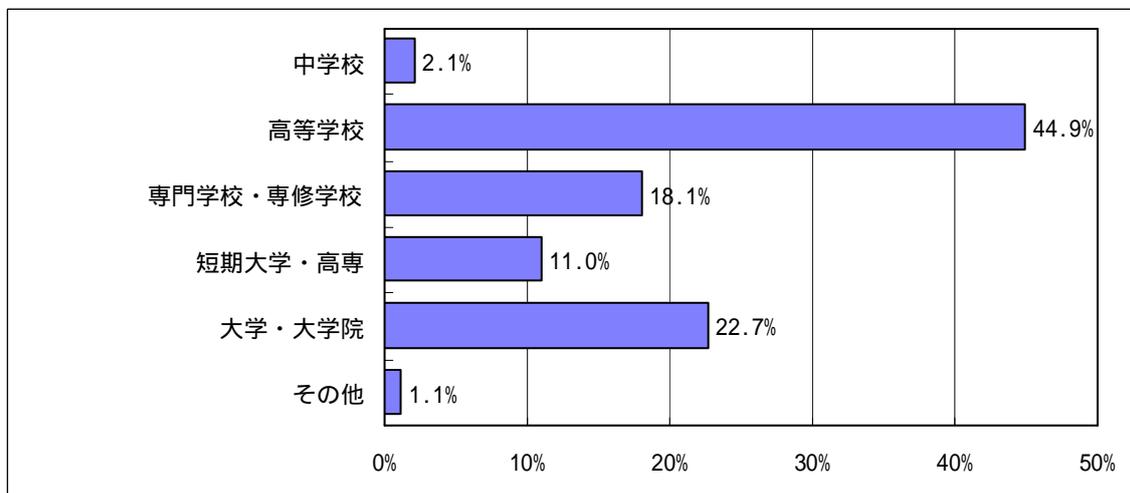
性別及び年齢階層別における回収標本と母集団(青森県の推計人口年報 平成18年10月現在)の構成比を比較すると、20代の男性が少ない。また、居住地区別による回収標本と母集団の構成比の比較では偏りは見られず、全体としては回収標本に大きな偏りはないといえる。



(2) 職業



(3) 最終学歴



8 本調査報告書の留意点

比率は百分率(%)で表し、小数点第2位で四捨五入した値で表示している。したがって、合計が100%にならない場合がある。

複数回答項目については、回答者数を分母として百分率を算出している。

図表及び文章中において、選択肢の表記は、煩雑な表現を避ける目的で一部で省略している。

9 調査結果の概要

以下の調査結果の概要は、正規雇用者・非正規雇用者・無業者にみられる属性や仕事の経験、小学生期・中学生期・高校生期における生活体験に関する主な傾向を挙げたものである。
 なお、正規雇用者・非正規雇用者・無業者の詳細な比較結果については、次ページ以降の本文を参照していただきたい。

調査結果の概要（正規雇用者・非正規雇用者・無業者の特徴）			
	正規雇用者	非正規雇用者	無業者
基本的属性	男女とも正規雇用者は、最終学歴を「短大・高専」又は「大学・大学院」と答えた人の割合が高い	男女とも非正規雇用者は、最終学歴を「中学校」と答えた人の割合が高く、「短大・高専」又は「大学・大学院」と答えた人の割合が低い	男女とも無業者は、最終学歴を「中学校」と答えた人の割合が高い一方、「短大・高専」又は「大学・大学院」と答えた人の割合も高い
仕事の経験	男女とも正規雇用者は、初職の雇用形態が、「正規雇用者」である割合が高い 男女とも正規雇用者は、「学校の先生や就職部の紹介」で初職についたと答えた人の割合がかなり高い 男女とも正規雇用者は、次の仕事の雇用形態が「正規雇用者」である割合が高い	男女とも非正規雇用者は、初職の雇用形態が、「非正規雇用者」である割合が高い 男女とも非正規雇用者は、次の仕事の雇用形態が、「非正規雇用者」である割合が高い	男女とも無業者は、初職の雇用形態が、「正規雇用者」である割合が高い 男性の無業者の6割、女性の無業者の5割が、「同僚や上司との人間関係がうまくいかなかった」等の理由で1年以内に初職を離職している 男性の無業者の5割が、次の仕事につくまでに6ヶ月以上の期間を要している 男女とも無業者は、次の仕事の雇用形態が、非正規雇用者に比べ、「正規雇用者」である割合が高い
小学生期の生活体験	男性の正規雇用者は、小学生期に「ボランティア体験」、「職業・就業体験」、「異年齢交流体験」が「ある」と答えた人の割合が高い	男性の非正規雇用者は、小学生期に「ボランティア体験」、「職業・就業体験」、「異年齢交流体験」が「ある」と答えた人の割合がわずかに低い	男女とも無業者は、小学生期に「ボランティア体験」、「職業・就業体験」、「異年齢交流体験」が「ある」と答えた人の割合がかなり低い
中学生期の生活体験	男女とも正規雇用者は、中学生期に「学校行事・生徒会活動」に仲間と協力して「取り組んでいた」と答えた人の割合が高い 男女とも正規雇用者は、中学生期に「部活動」に「熱心に参加していた」と答えた人の割合がかなり高い	男女とも非正規雇用者は、中学生期に「学校行事・生徒会活動」に仲間と協力して「取り組んでいた」と答えた人の割合がわずかに低い 男女とも非正規雇用者は、中学生期に「部活動」に「熱心に参加していた」と答えた人の割合が低い	男女とも無業者は、中学生期に「職業・就業体験」が「ある」と答えた人の割合がわずかに低い 男女とも無業者は、中学生期に「学校行事・生徒会活動」に仲間と協力して「取り組んでいた」と答えた人の割合がかなり低い 男女とも無業者は、中学生期に「部活動」に「熱心に参加していた」と答えた人の割合がかなり低く、「熱心ではないが参加していた」と答えた人の割合が高い
高校生期の生活体験	男女とも正規雇用者は、高校生期に「仲の良い友達」が「いた」と答えた人の割合が高い 男女とも正規雇用者は、高校生期に「学校行事・生徒会活動」に仲間と協力して「取り組んでいた」と答えた人の割合がかなり高い 男女とも正規雇用者は、高校生期に「部活動」に「熱心に参加していた」と答えた人の割合が高い	男女とも非正規雇用者は、高校生期に「仲の良い友達」が「いた」と答えた人の割合が低い 男女とも非正規雇用者は、高校生期に「学校行事・生徒会活動」に仲間と協力して「取り組んでいた」と答えた人の割合が低い 男女とも非正規雇用者は、高校生期に「部活動」に「参加していない」と答えた人の割合が高い	男女とも無業者は、高校生期に「仲の良い友達」が「いた」と答えた人の割合がかなり低い 男女とも無業者は、高校生期に「職業・就業体験」が「ある」と答えた人の割合がかなり低い 男女とも無業者は、高校生期に「学校行事・生徒会活動」に仲間と協力して「取り組んでいた」と答えた人の割合が低い 男女とも無業者は、高校生期に「部活動」に「参加していない」と答えた人の割合がかなり高い
キャリア教育及び若年層のキャリア形成支援に関する生涯学習政策の視点			
<p>「小学生期からの継続的なキャリア教育」の実践という中長期的な視点を持つことの必要性等を家庭・学校・地域において啓蒙できるキャリアカウンセラーの早期養成 人と関わる生活体験の積み重ねによって小学生期から社会性を養う機会を多く設置 学校行事や生徒会行事、部活動といった日常の教育活動の工夫 学校生活と職業生活の間に生じている最も大きな継ぎ目を埋めるため、中学校あるいは高等学校卒業後、就職したもののすぐに離職した若年者に焦点をあてた取組の充実 ロールモデルを持たない若年者の早期離職を防止するため、メンター²⁾についての一般への普及活動の推進 仕事面はもちろんのこと精神面でも若年者の支援を実践できる様々な分野のメンターの育成</p>			

²⁾ 良き指導者、助言者、支援者、教育者をさす。

第2章 調査の結果と分析

この報告書では、正規雇用者・非正規雇用者・無業者について、基本的属性をはじめ、小学生期・中学生期・高校生期の家庭・学校・地域における生活体験の有無やその取組状況、仕事の経験等の比較を行っている。生活体験に関する質問項目の作成にあたっては、内閣府の調査³⁾、青少年体験活動研究会の調査⁴⁾及び独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センターの調査⁵⁾で使用されている体験活動の分類や項目を参考にした。また、価値観に関する質問項目については、内閣府による調査⁶⁾を参考に行っている。

なお、本報告書においては、小学生期・中学生期・高校生期に家庭生活・学校生活・地域生活において体験した活動を総称して「生活体験」と呼ぶことにする。

以下では、生活体験と雇用形態の比較において説明を加え、正規雇用者・非正規雇用者・無業者の傾向を概観する。なお、正規雇用者は正社員・正職員である給与所得者とし、自営業主・家族従業者、会社経営者・役員は除外している。非正規雇用者は契約社員・嘱託、パート・アルバイト、無業者は専業主婦と学生を除外した収入を伴う仕事をしていない者とする。また、性別あるいは現在の雇用形態のいずれかが不明の7名は除外している。

-
- ³⁾ 内閣府(2001)「日本の青少年の生活と意識 第2回 青少年の生活と意識に関する基本調査報告書」
<http://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/seikatu2/html/html/hyoushi.html> .
- ⁴⁾ 青少年体験活動研究会(2003)「(文部科学省委託調査)子どもの自然体験活動等に関する実態調査報告書」
<http://nyc.niye.go.jp/youth/14taikentop.html> .
- ⁵⁾ 独立行政法人国立オリンピック記念青少年センター(2005)「青少年の自然体験活動等に関する実態調査報告書 平成16年度調査」
<http://nyc.niye.go.jp/youth/16taikentop.html> .
- ⁶⁾ 内閣府(2004)「第7回世界青少年意識調査細分析報告書」
<http://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/worldyouth7/pdf/top.html> .

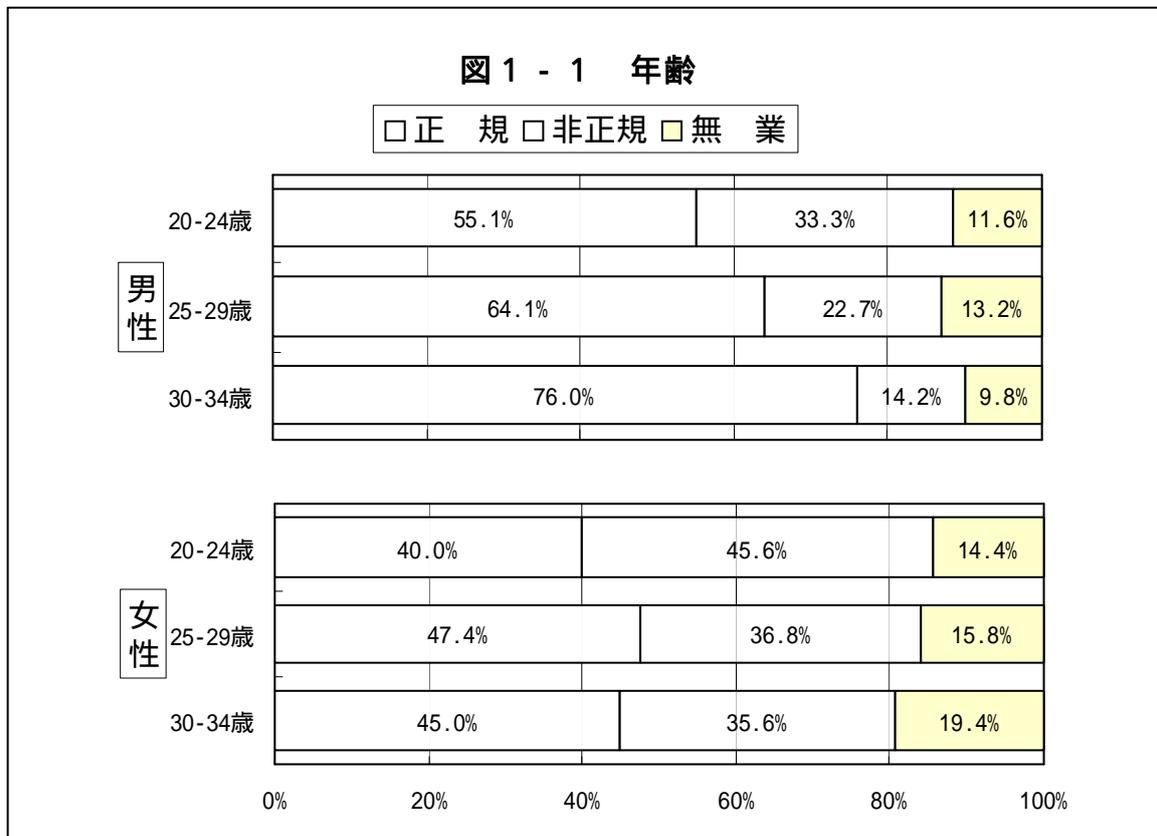
第2章 調査の結果と分析

1 基本的属性

(1) 年齢

男性の場合、正規雇用者の占める割合は、20代前半が55.1%、20代後半が64.1%、30代前半が76.0%となっている。20代後半と30代前半に比べて、20代前半は正規雇用者の占める割合が低く、逆に非正規雇用者の占める割合が高い。無業者に関しては、年齢階層別による大きな差はみられない。

女性の場合、正規雇用者の占める割合は、20代前半が40.0%、20代後半が47.4%、30代後半が45.0%となっている。年齢階層別による各雇用形態の占める割合は男性ほど顕著な差はみられないものの、男性の20代前半と同様、女性の20代前半も正規雇用者の占める割合が低く、非正規雇用者の占める割合が高い。

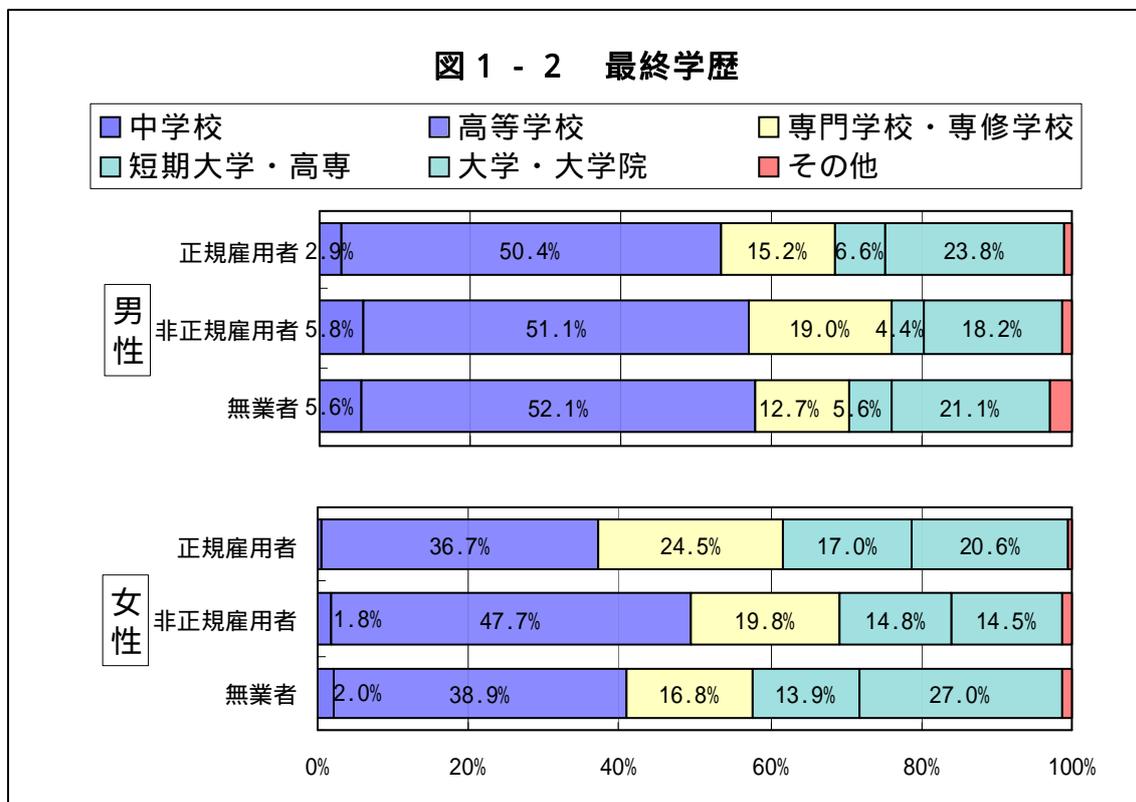


(2) 最終学歴

男性の正規雇用者は、最終学歴が「短期大学・高専」又は「大学・大学院」と答えた人の割合が30.4%と高く、「中学校」と答えた人の割合が2.9%と低い。非正規雇用者は、正規雇用者に比べて「中学校」と答えた人の割合が5.8%と高く、「短期大学・高専」又は「大学・大学院」と答えた人の割合が22.6%と低い。無業者は正規雇用者に比べて「中学校」と答えた人の割合が5.6%と高い。一方、「短期大学・高専」又は「大学・大学院」と答えた人の割合も26.7%と正規雇用者に次いで高い。

女性の場合、最終学歴が「短期大学・高専」又は「大学・大学院」と答えた人の割合は、正規雇用者が37.6%、非正規雇用者が29.3%、無業者が40.9%となっている。

男女とも、非正規雇用者に比べて、最終学歴が「短期大学・高専」又は「大学・大学院」と答えた人の割合は、正規雇用者と無業者において高い。

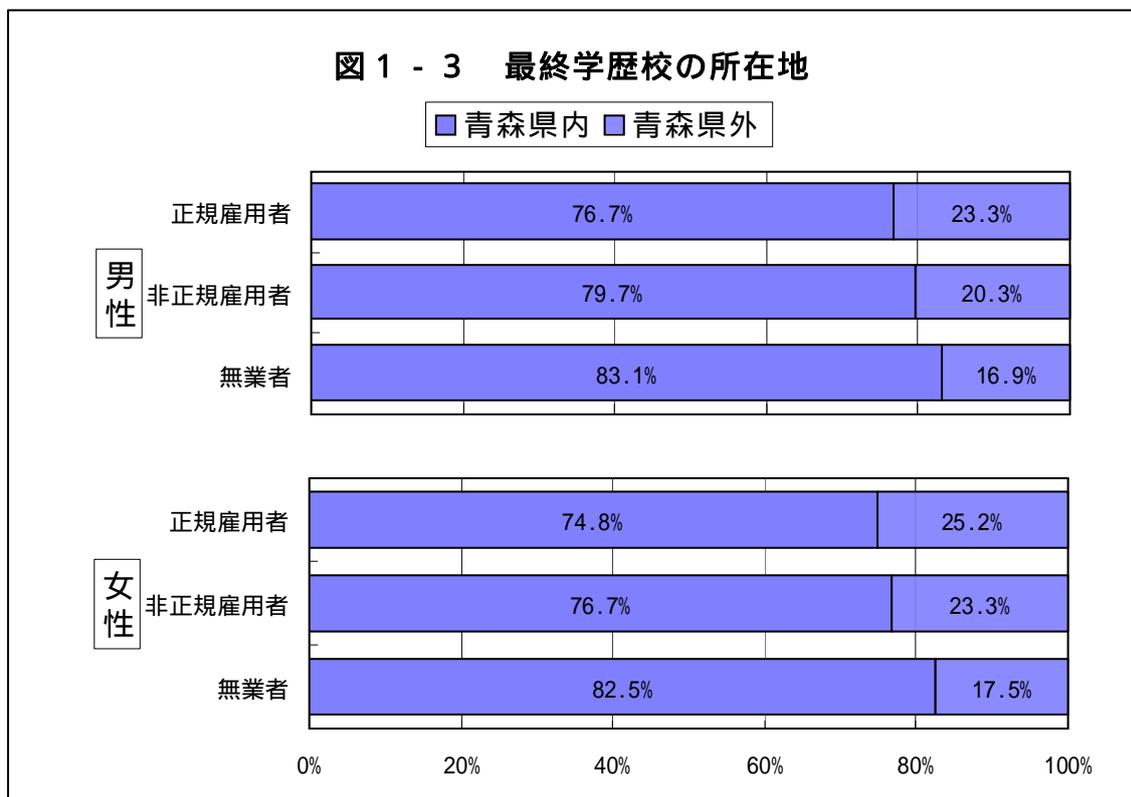


第2章 調査の結果と分析

(3) 最終学歴校の所在地

最終学歴校の所在地を「青森県内」と答えた人の割合は、男性の正規雇用者が76.7%、非正規雇用者が79.7%、無業者が83.1%となっている。

女性の場合、最終学歴校の所在地を「青森県内」と答えた人の割合は、正規雇用者が74.8%、非正規雇用者が76.7%、無業者が82.5%となっている。

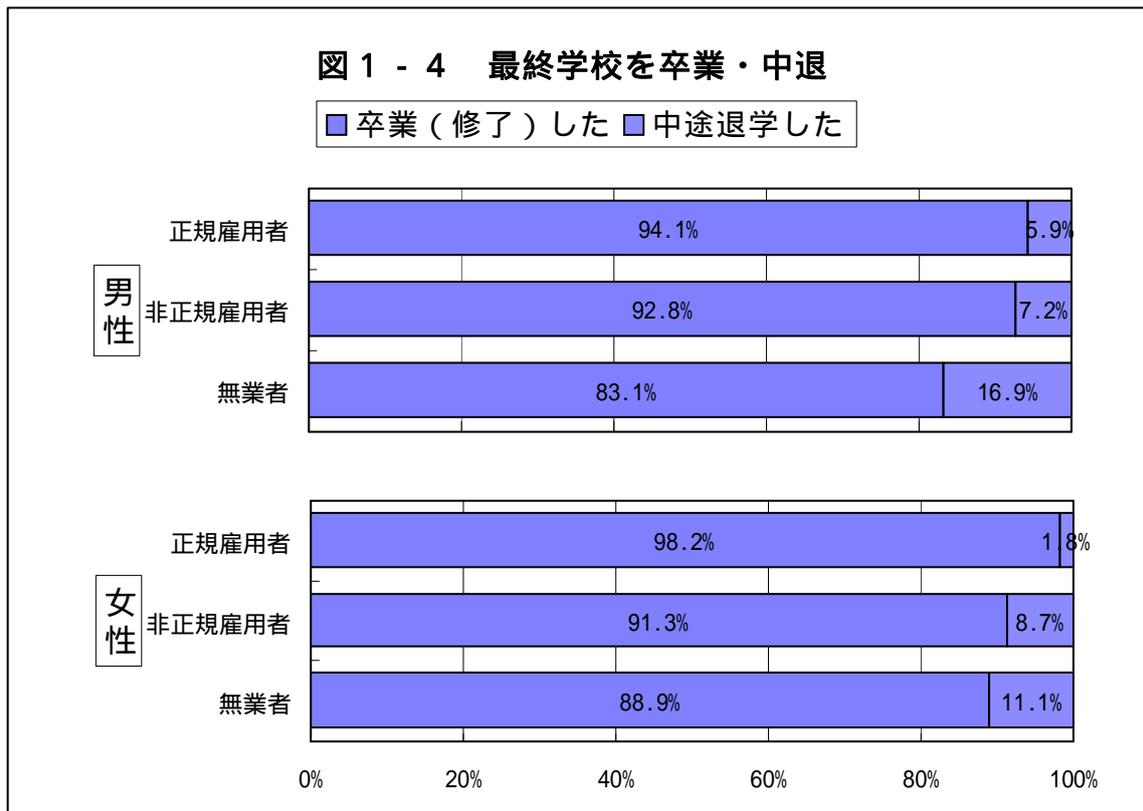


(4) 最終学校を卒業・中退

最終学校を「卒業(修了)した」と答えた人の割合は、男性の正規雇用者が94.1%、非正規雇用者が92.8%、無業者が83.1%となっている。

女性の場合、最終学校を「卒業(修了)した」と答えた人の割合は、正規雇用者が98.2%、非正規雇用者が91.3%、無業者が88.9%となっている。

男女とも、最終学校を「中途退学した」と答えた人の割合は、無業者において高い。

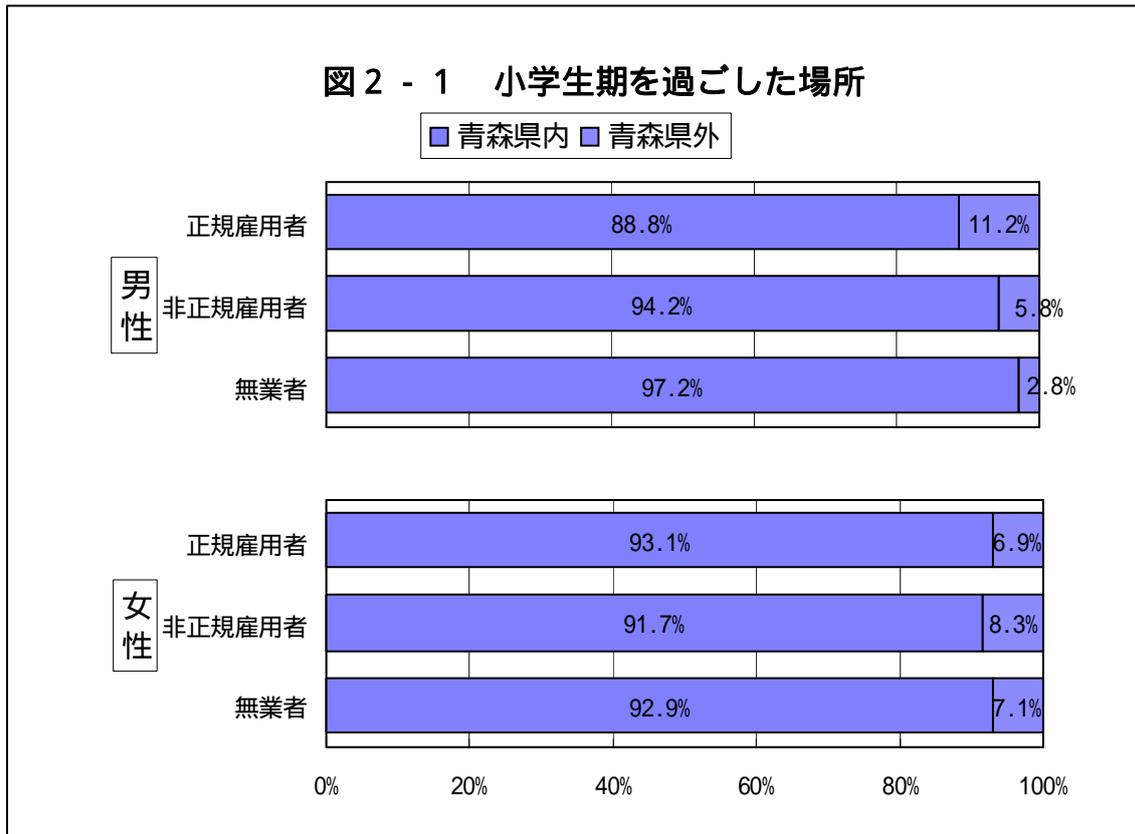


2 小学生期の生活体験について

(1) 小学生期を過ごした場所

小学生期を過ごした場所を「青森県内」と答えた人の割合は、男性の正規雇用者が88.8%、非正規雇用者が94.2%、無業者が97.2%となっている。

女性の場合、小学生期を過ごした場所を「青森県内」と答えた人の割合は、正規雇用者が93.1%、非正規雇用者は91.7%、無業者が92.9%となっている。

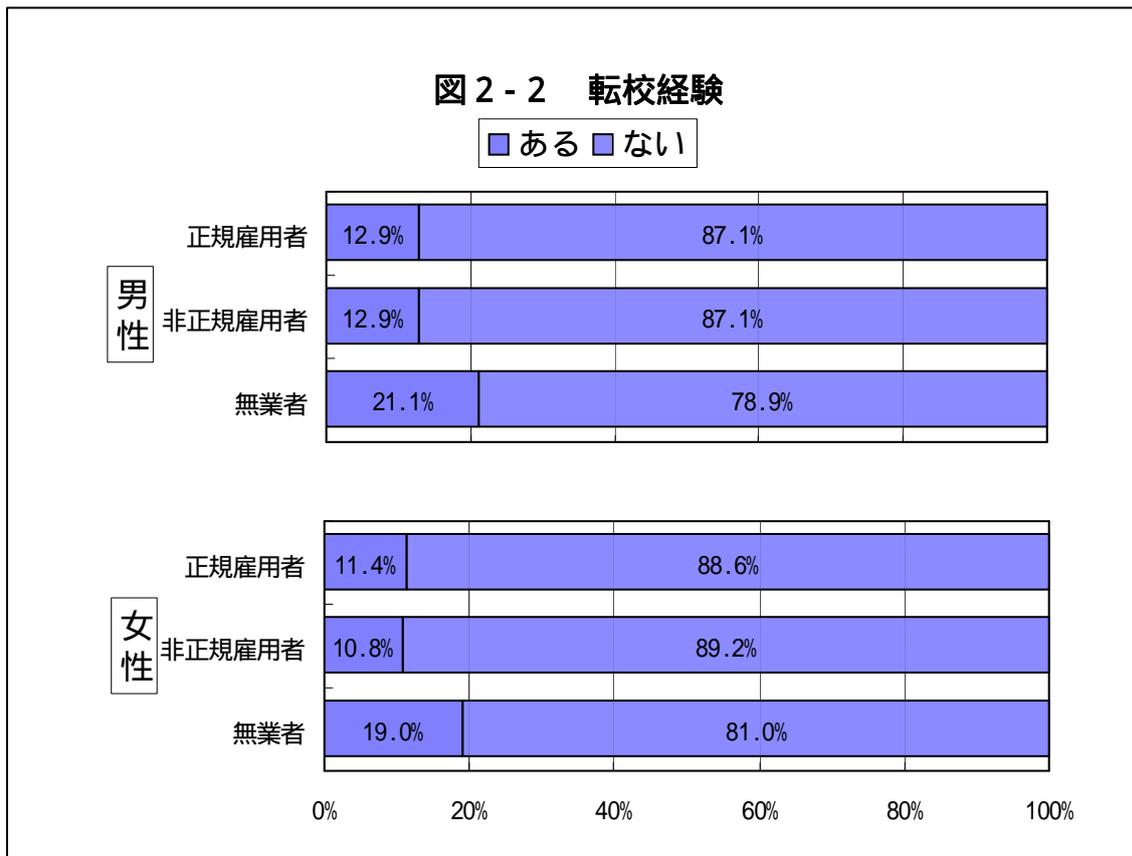


(2) 転校経験

小学生期に、転校経験が「ある」と答えた人の割合は、男性の正規雇用者が12.9%、非正規雇用者が12.9%、無業者が21.1%となっている。

女性の場合、転校経験が「ある」と答えた人の割合は、正規雇用者が11.4%、非正規雇用者が10.8%、無業者が19.0%となっている。

男女とも、小学生期に転校経験が「ある」と答えた人の割合は、無業者において高い。



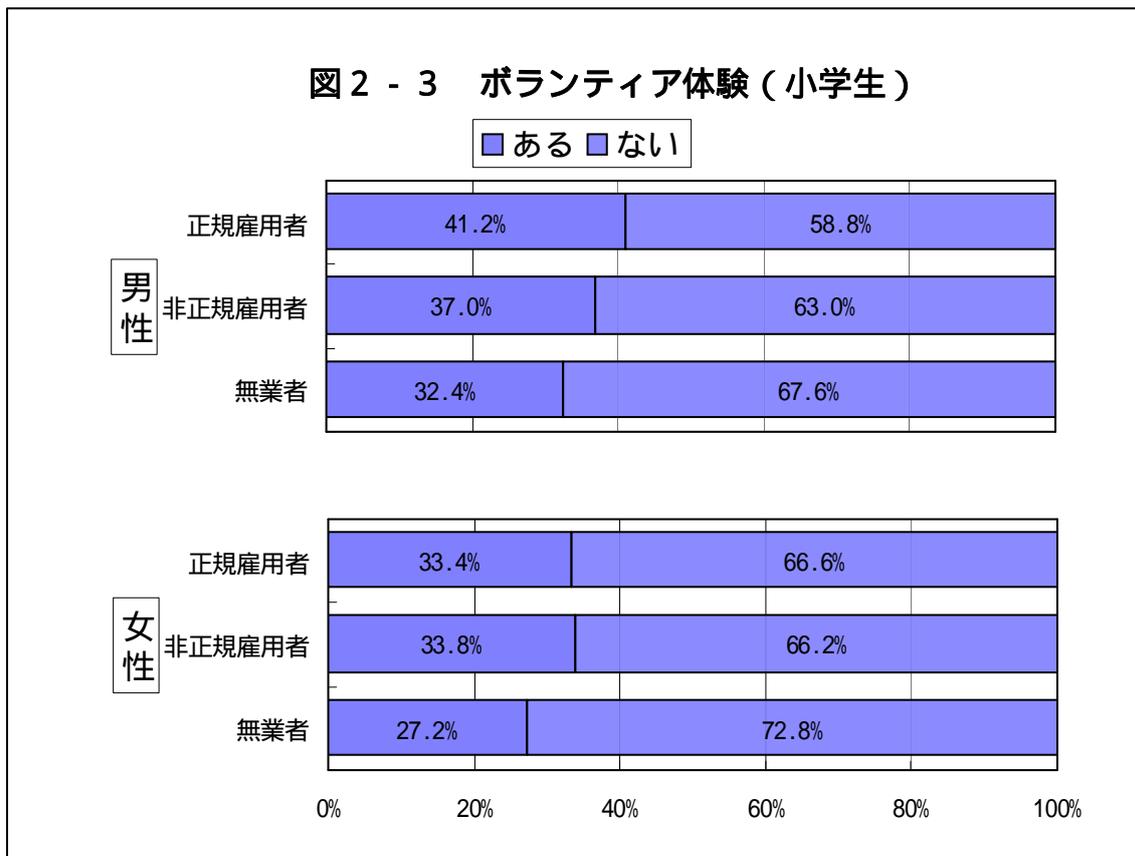
第2章 調査の結果と分析

(3) ボランティア体験

小学生期に、ボランティア活動の体験（以下、「ボランティア体験」）が「ある」と答えた人の割合は、男性の正規雇用者が41.2%、非正規雇用者が37.0%、無業者が32.4%となっている。

女性の場合、小学生期に「ボランティア体験」が「ある」と答えた人の割合は、正規雇用者が33.4%、非正規雇用者が33.8%、無業者が27.2%となっている。

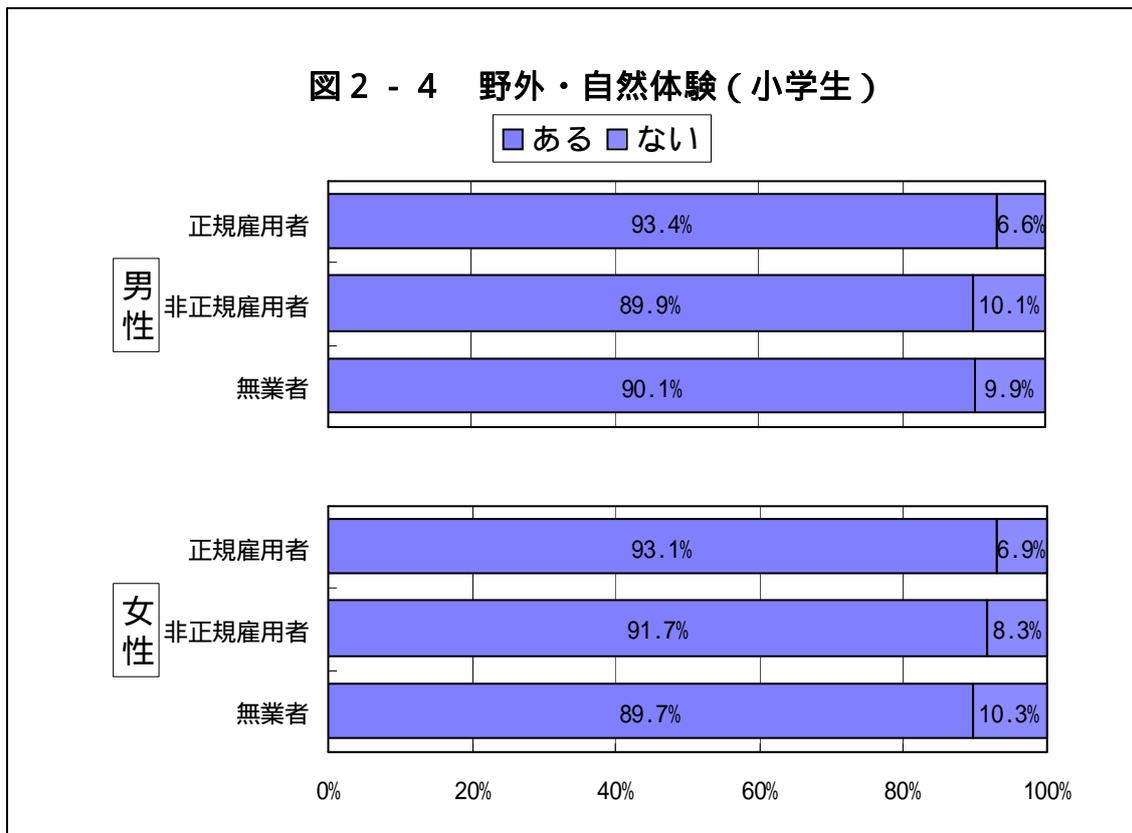
男女とも、小学生期に「ボランティア体験」が「ある」と答えた人の割合は、無業者においてかなり低い。



(4) 野外・自然体験

小学生期に、オリエンテーションや野外での炊事、テントに泊まるなど、野外体験や自然に関する体験（以下、「野外・自然体験」）をしたことが「ある」と答えた人の割合は、男性の正規雇用者が93.4%、非正規雇用者が89.9%、無業者が90.1%となっている。

女性の場合、小学生期に「野外・自然体験」が「ある」と答えた人の割合は、正規雇用者が93.1%、非正規雇用者が91.7%、無業者が89.7%となっている。



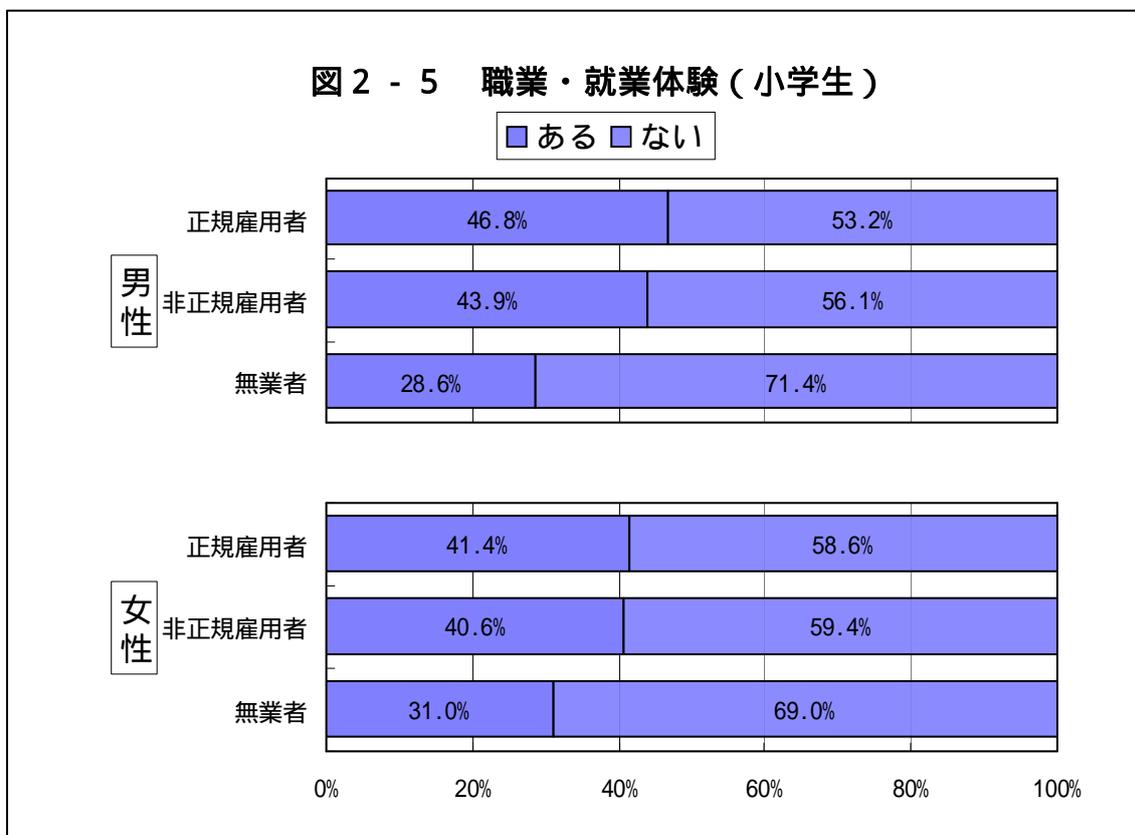
第2章 調査の結果と分析

(5) 職業・就業体験

小学生期に、興味のある仕事について調べたり、実際に職場訪問をするなど、職業や就業に関する体験（以下、「職業・就業体験」）をしたことが「ある」と答えた人の割合は、男性の正規雇用者が46.8%、非正規雇用者が43.9%、無業者が28.6%となっている。

女性の場合、小学生期に「職業・就業体験」が「ある」と答えた人の割合は、正規雇用者が41.4%、非正規雇用者が40.6%、無業者が31.0%となっている。

男女とも、小学生期に「職業・就業体験」が「ある」と答えた人の割合は、無業者においてかなり低い。

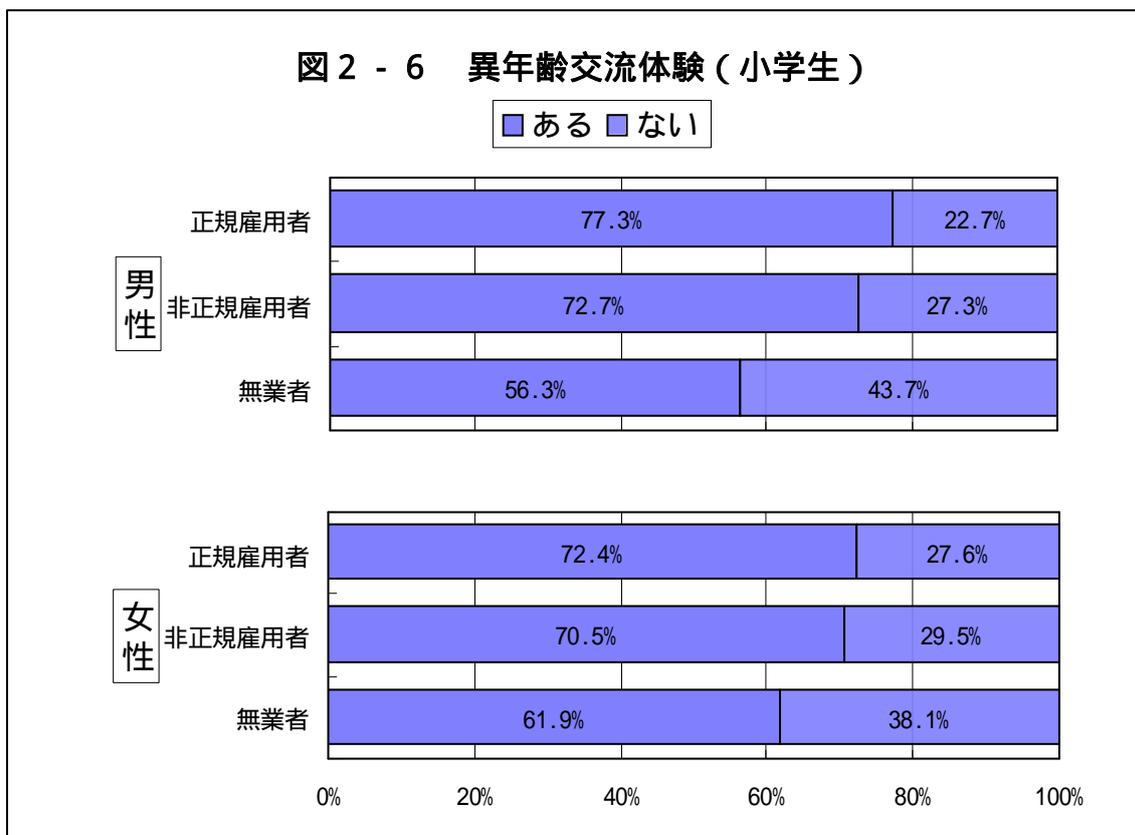


(6) 異年齢交流体験

小学生期に、地域の行事に参加し、年齢や世代の異なる人々と交流した経験（以下、「異年齢交流体験」）が「ある」と答えた人の割合は、男性の正規雇用者が77.3%、非正規雇用者が72.7%、無業者が56.3%となっている。

女性の場合、小学生期に「異年齢交流体験」が「ある」と答えた人の割合は、正規雇用者が72.4%、非正規雇用者が70.5%、無業者は61.9%となっている。

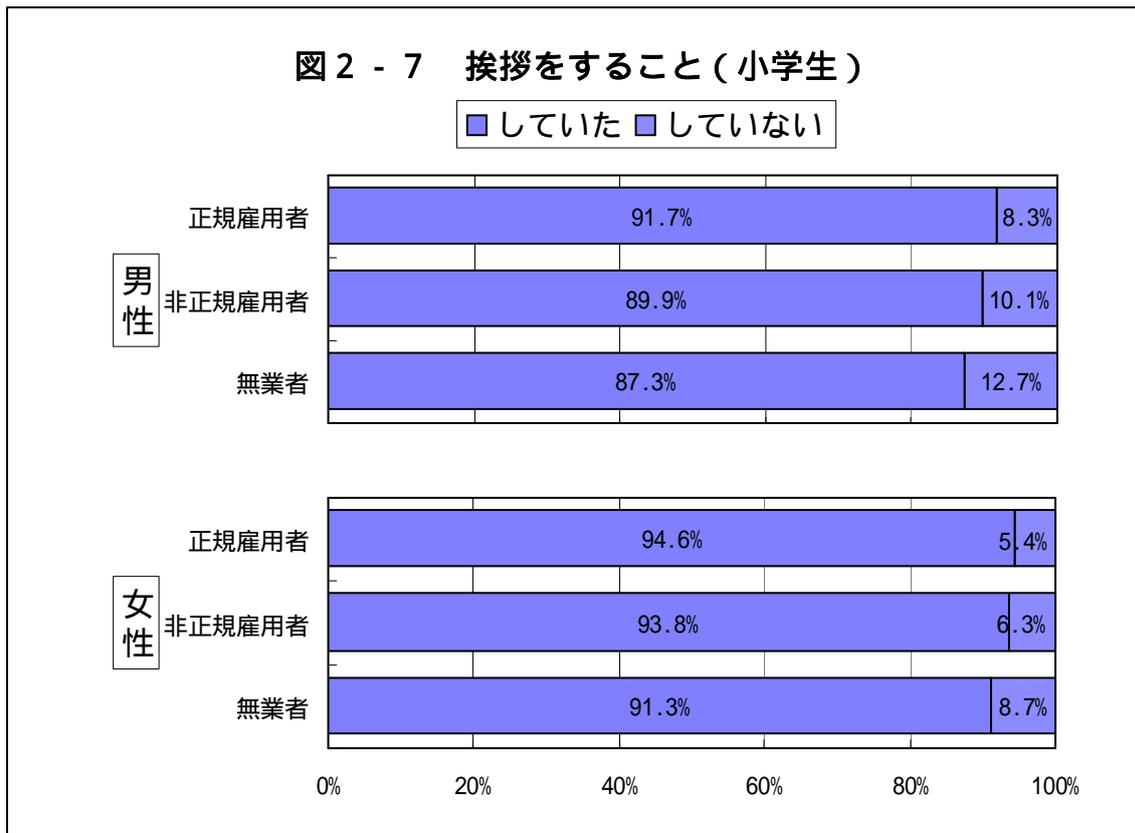
男女とも、「異年齢交流体験」が「ある」と答えた人の割合は、無業者においてかなり低い。



(7) 挨拶をすること

小学生期に、「おはようございます」「いただきます」「行ってきます」などの基本的な挨拶（以下、「挨拶をすること」）を家庭や学校で「していた」と答えた人の割合は、男性の正規雇用者が91.7%、非正規雇用者が89.9%、無業者が87.3%となっている。

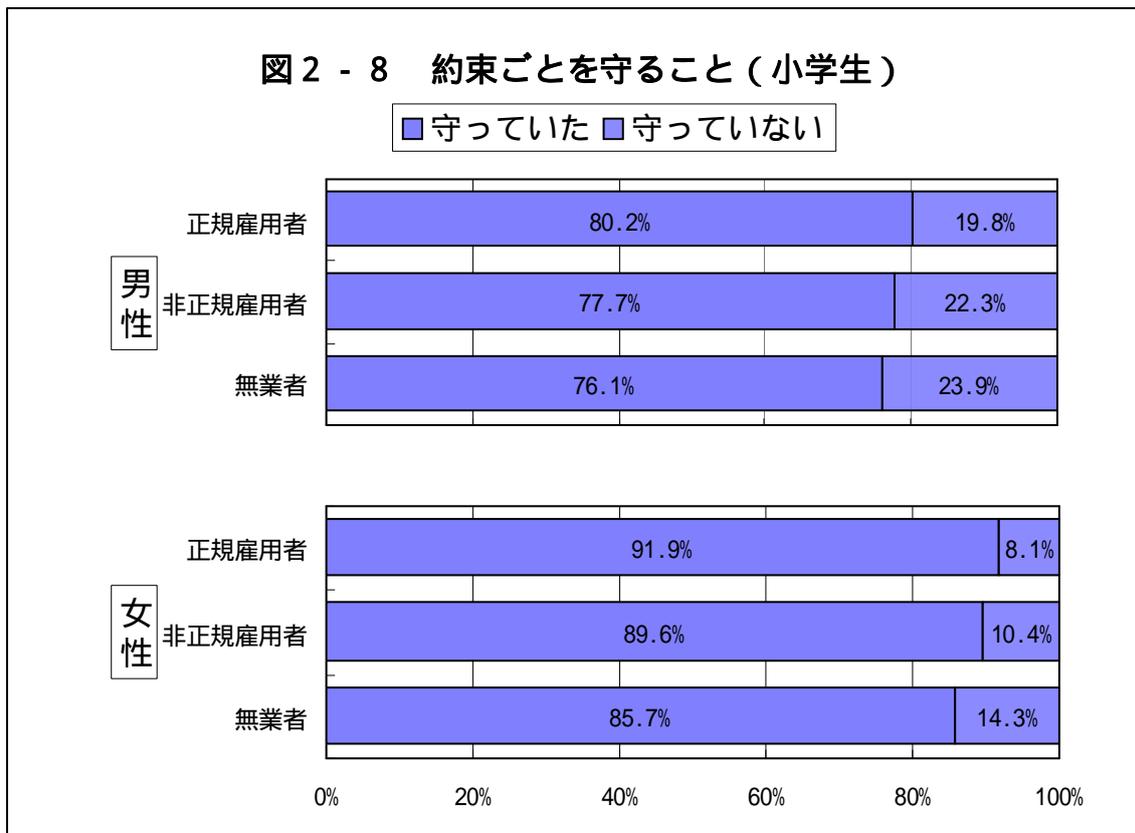
女性の場合、小学生期に挨拶を「していた」と答えた人の割合は、正規雇用者が94.6%、非正規雇用者が93.8%、無業者が91.3%となっている。



(8) 約束ごとを守ること

小学生期に、校則や提出物の期限を守るなど、学校内での基本的な決まりを守っていたか(以下、「約束ごとを守ること」という問いに対し、「守っていた」と答えた人の割合は、男性の正規雇用者が80.2%、非正規雇用者が77.7%、無業者が76.1%となっている。

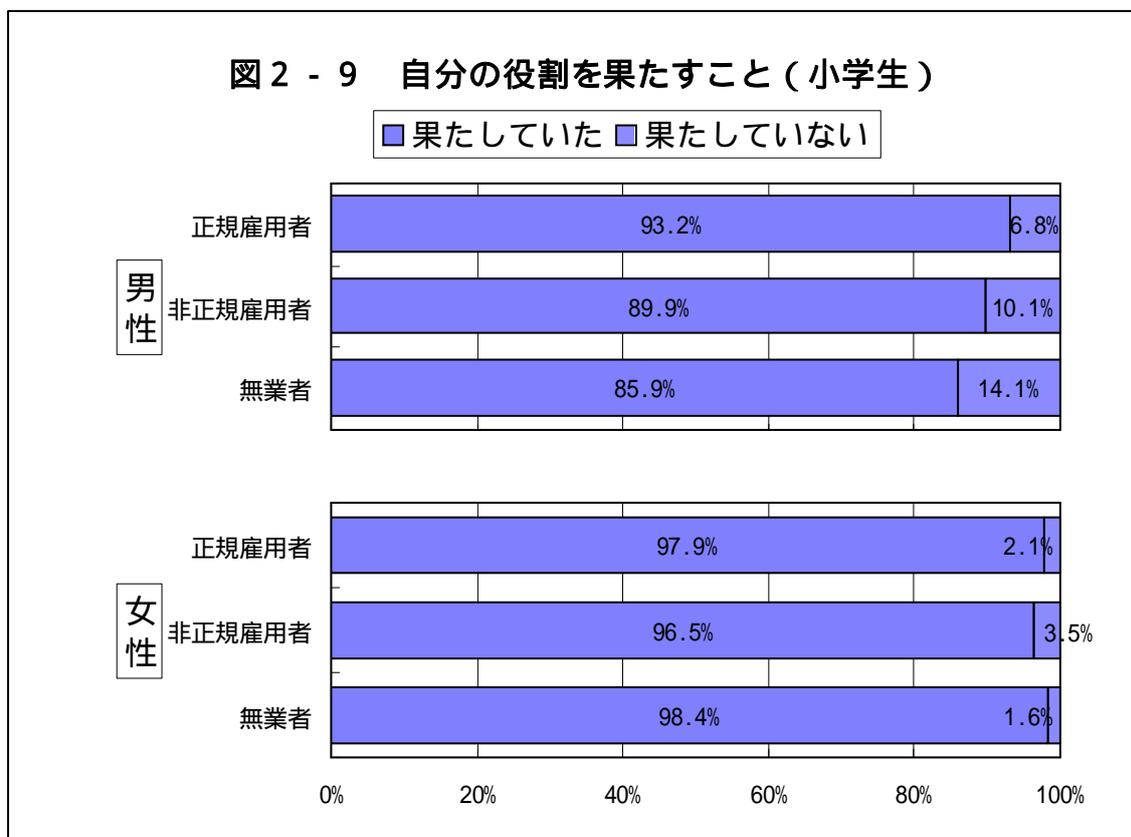
女性の場合、小学生期に約束ごとを「守っていた」と答えた人の割合は、正規雇用者が91.9%、非正規雇用者が89.6%、無業者が85.7%となっている。



(9) 自分の役割を果たすこと

小学生期に、掃除分担や係の仕事など、家庭や学校で自分に割り当てられた役割を果たしていたか(以下、「自分の役割を果たすこと」という問いに対し、「果たしていた」と答えた人の割合は、男性の正規雇用者が93.2%、非正規雇用者が89.9%、無業者が85.9%となっている。男性に関しては、自分の役割を「果たしていない」と答えた人の割合は、無業者において高い。

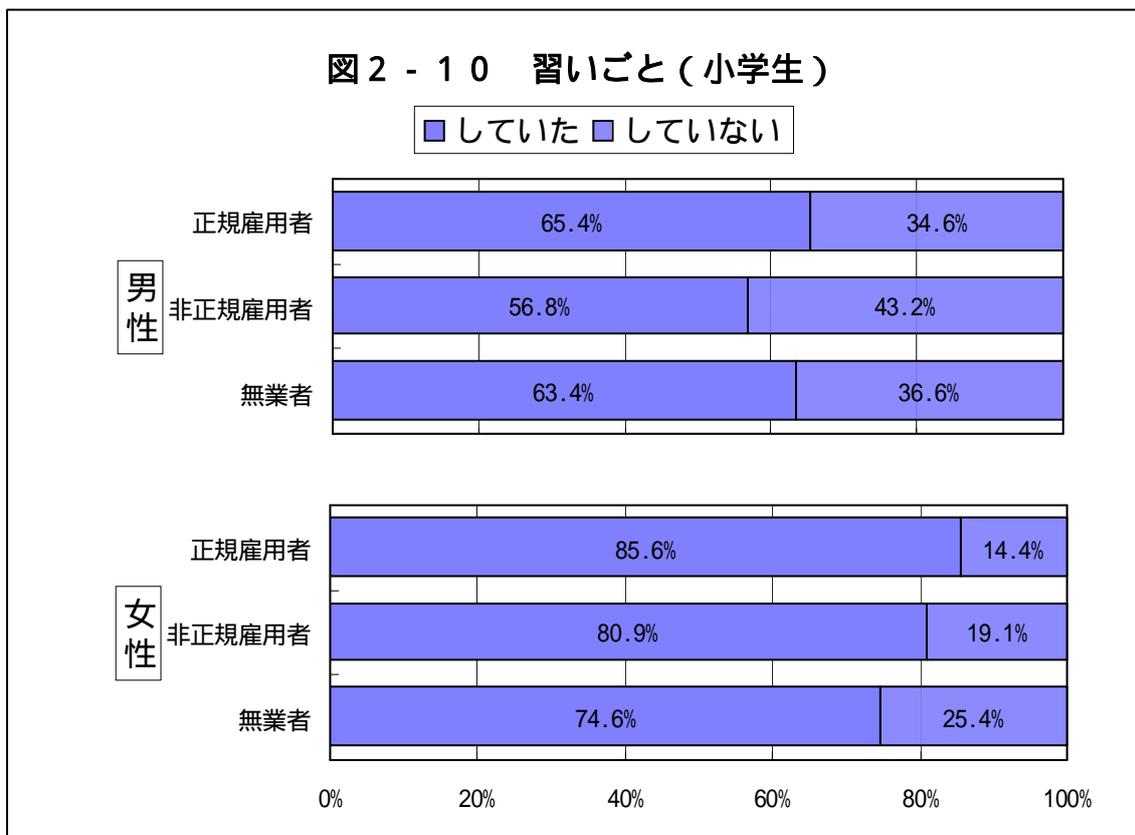
女性の場合、小学生期に自分の役割を「果たしていた」と答えた人の割合は、正規雇用者が97.9%、非正規雇用者が96.5%、無業者が98.4%となっている。



(10) 習いごと

小学生期に、学校の部活動以外で、学習塾やスポーツ教室に通ったり、ピアノ、書道、珠算などの習いごと（以下、「習いごと」）を「していた」と答えた人の割合は、男性の正規雇用者が65.4%、非正規雇用者が56.8%、無業者は63.4%となっている。男性に関しては、習いごとを「していた」と答えた人の割合は、非正規雇用者において低い。

女性の場合、小学生期に「習いごと」を「していた」と答えた人の割合は、正規雇用者が85.6%、非正規雇用者が80.9%、無業者が74.6%となっている。女性に関しては、「習いごと」を「していた」と答えた人の割合は、無業者において低い。

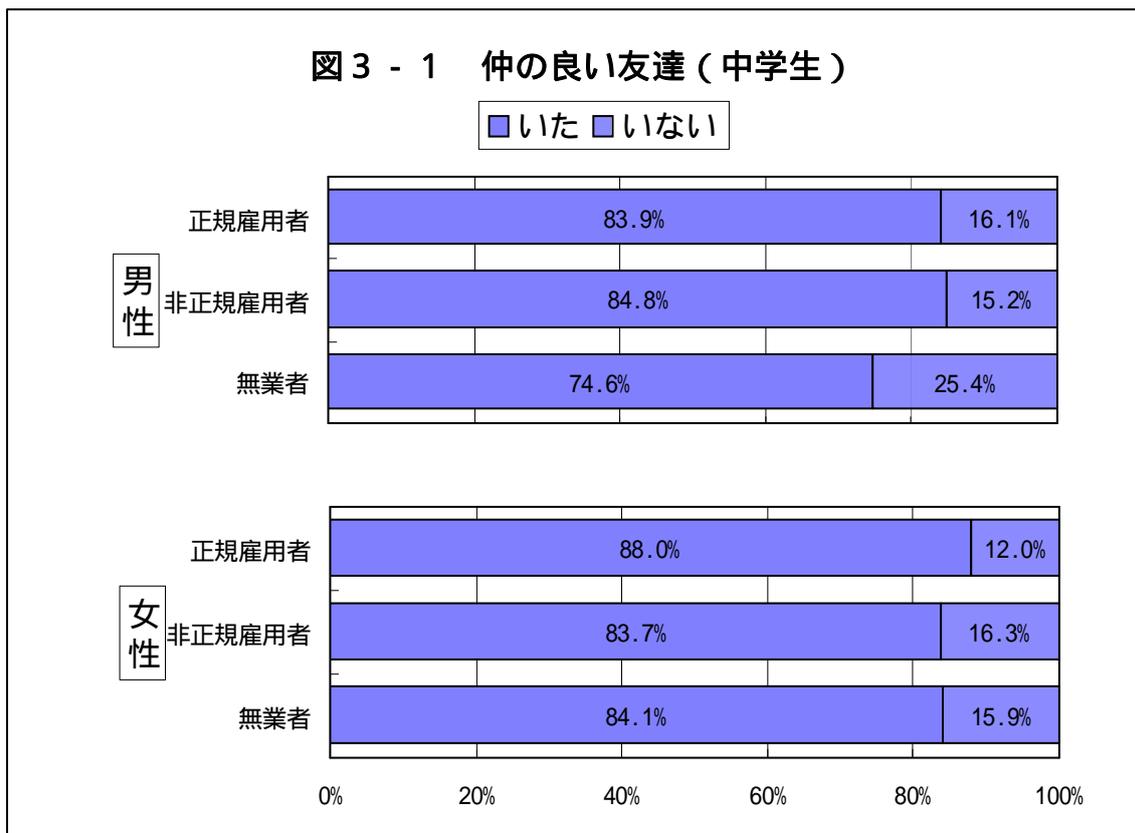


3 中学生期の生活体験について

(1) 仲の良い友達

中学生期に、「仲の良い友達」が「いた」と答えた人の割合は、男性の正規雇用者が83.9%、非正規雇用者が84.8%、無業者が74.6%となっている。男性に関しては、中学生の時に「仲の良い友達」が「いた」と答えた人の割合は、無業者においてかなり低い。

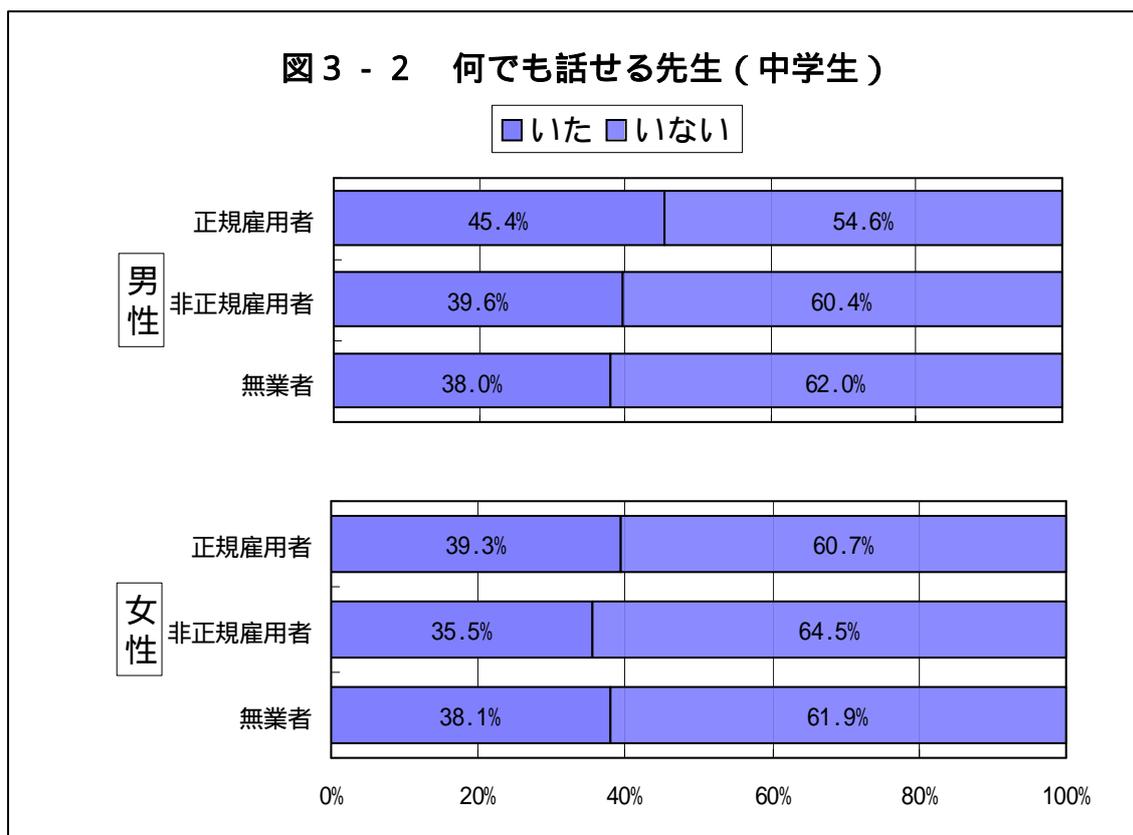
女性の場合、中学生期に「仲の良い友達」が「いた」と答えた人の割合は、正規雇用者が88.0%、非正規雇用者が83.7%、無業者が84.1%となっている。



(2) 何でも話せる先生

中学生期に、身近な話から進路についてまで、何でも話せる先生（以下、「何でも話せる先生」）が「いた」と答えた人の割合は、男性の正規雇用者が45.4%、非正規雇用者が39.6%、無業者が38.0%となっている。男性に関しては、中学生期に「何でも話せる先生」が「いた」と答えた人の割合は、正規雇用者において高い。

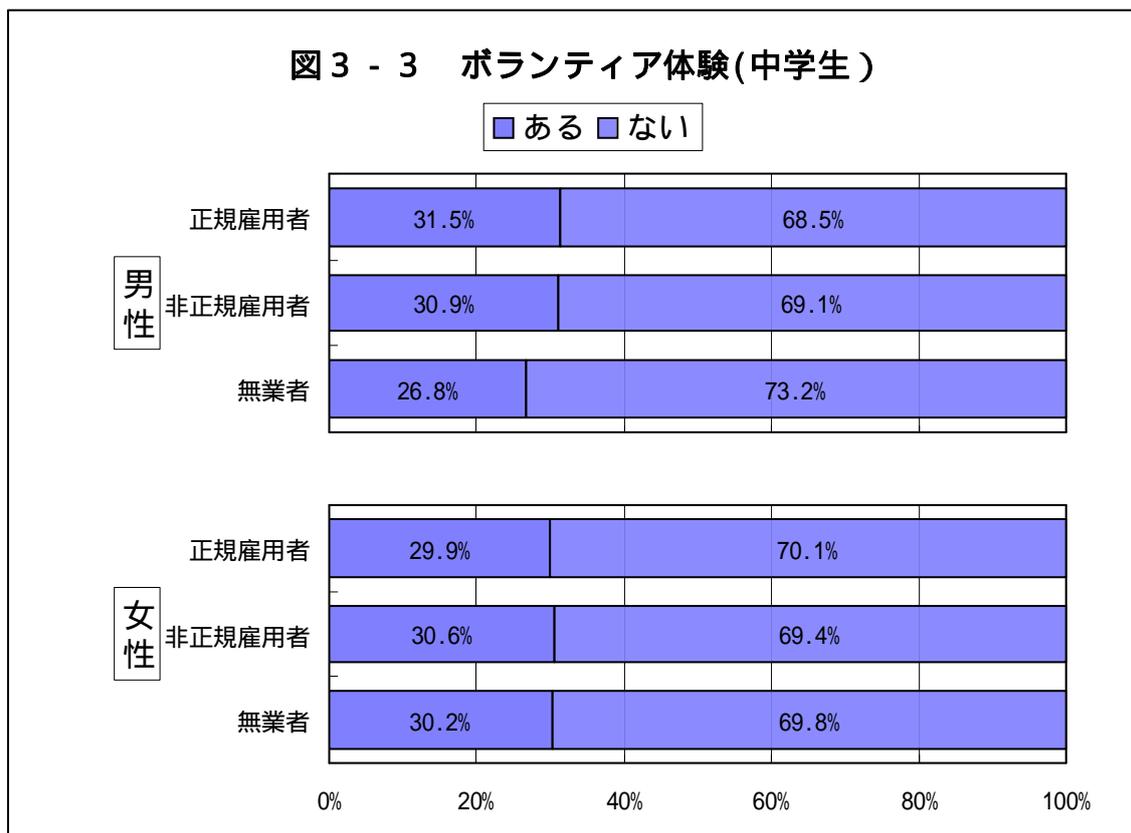
女性の場合、中学生期に「何でも話せる先生」が「いた」と答えた人の割合は、正規雇用者が39.3%、非正規雇用者が35.5%、無業者が38.1%となっている。



(3) ボランティア体験

中学生期に、「ボランティア体験」が「ある」と答えた人の割合は、男性の正規雇用者が31.5%、非正規雇用者が30.9%、無業者が26.8%となっている。

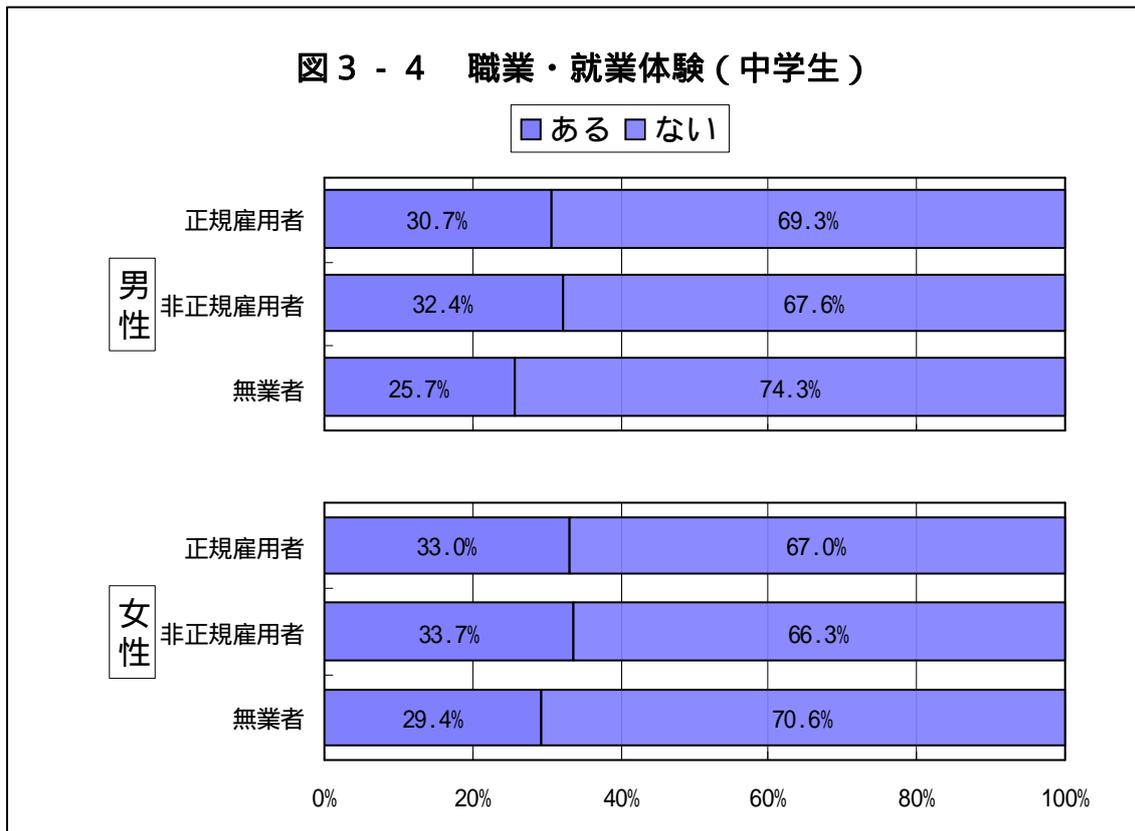
女性の場合、中学生期に「ボランティア体験」が「ある」と答えた人の割合は、女性の正規雇用者が29.9%、非正規雇用者が30.6%、無業者が30.2%となっている。



(4) 職業・就業体験

中学生期に、「職業・就業体験」が「ある」と答えた人の割合は、男性の正規雇用者が30.7%、非正規雇用者が32.4%、無業者が25.7%となっている。

女性の場合、中学生期に「職業・就業体験」が「ある」と答えた人の割合は、正規雇用者が33.0%、非正規雇用者が33.7%、無業者が29.4%となっている。



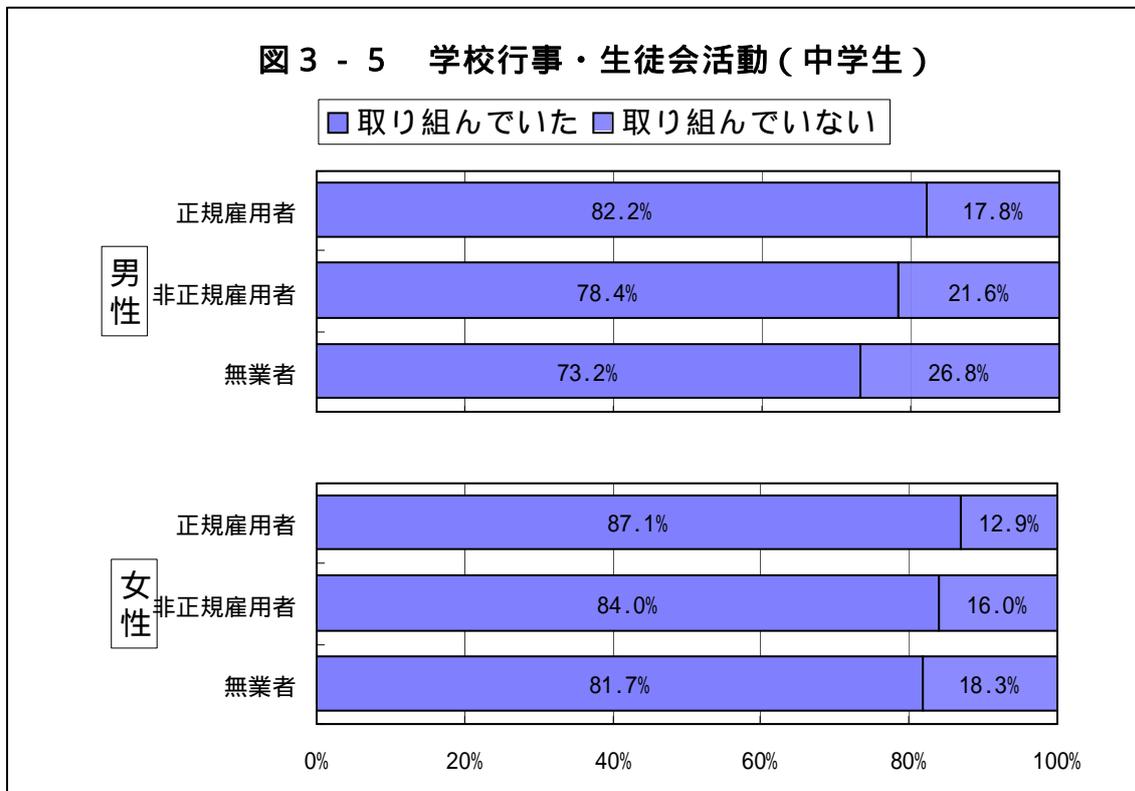
第2章 調査の結果と分析

(5) 学校行事・生徒会活動

中学生期に、体育祭・文化祭などの学校行事、委員会などの生徒会活動やクラスの係活動（以下、「学校行事・生徒会活動」）に仲間と協力して「取り組んでいた」と答えた人の割合は、男性の正規雇用者が82.2%、非正規雇用者が78.4%、無業者が73.2%となっている。

女性の場合、中学生期に「学校行事・生徒会活動」に仲間と協力して「取り組んでいた」と答えた人の割合は、正規雇用者が87.1%、非正規雇用者が84.0%、無業者が81.7%となっている。

男女とも、中学生期に「学校行事・生徒会活動」に仲間と協力して「取り組んでいた」と答えた人の割合は、正規雇用者において高い。

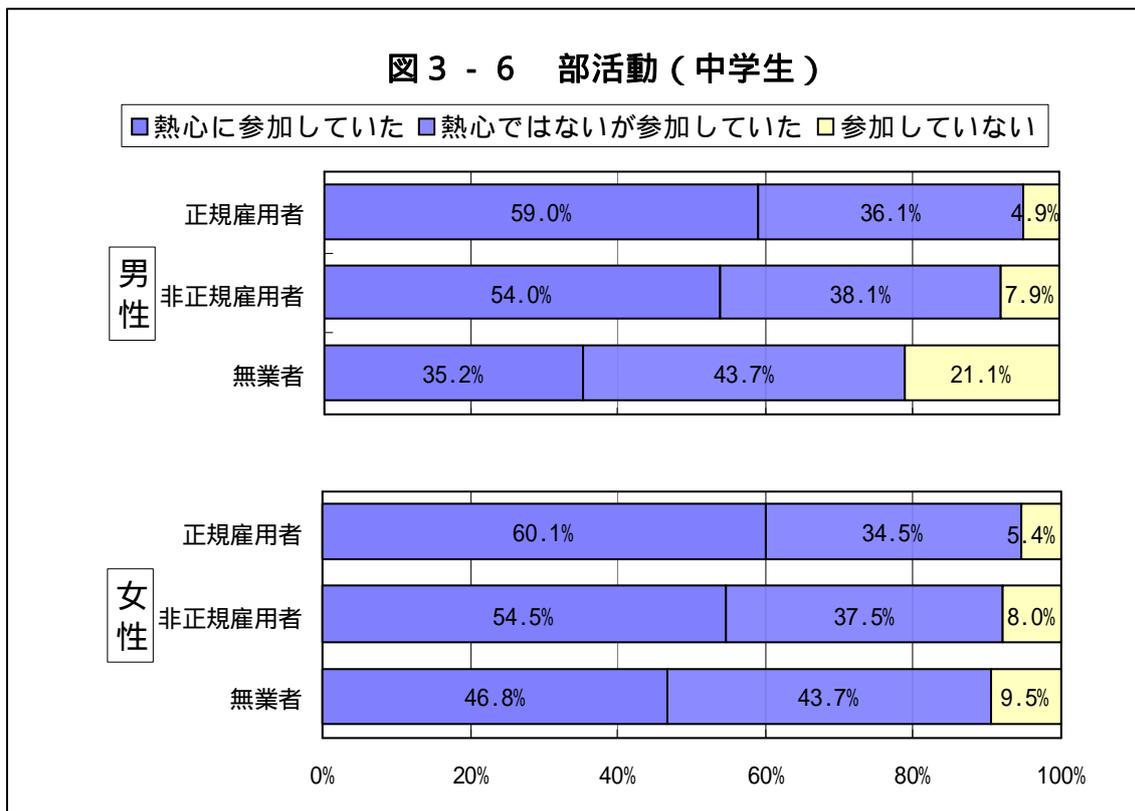


(6) 部活動

中学生期に、「部活動」に「熱心に参加していた」と答えた人の割合は、男性の正規雇用者が59.0%、非正規雇用者が54.0%となっているのに対し、無業者は35.2%となっている。また、「参加していない」と答えた人の割合は、男性の正規雇用者が4.9%、非正規雇用者が7.9%となっているのに対し、無業者は21.1%となっている。

女性の場合、中学生期に「部活動」に「熱心に参加していた」と答えた人の割合は、正規雇用者が60.1%、非正規雇用者は54.5%となっているのに対し、無業者は46.8%となっている。

男女とも、無業者は、正規雇用者・非正規雇用者に比べて「部活動」に「熱心に参加していた」と答えた人の割合が低く、「部活動」に「参加していない」と答えた人の割合が高い。男性の無業者は、「部活動」に「参加していない」と答えた人の割合が正規雇用者の4倍にもものぼる。

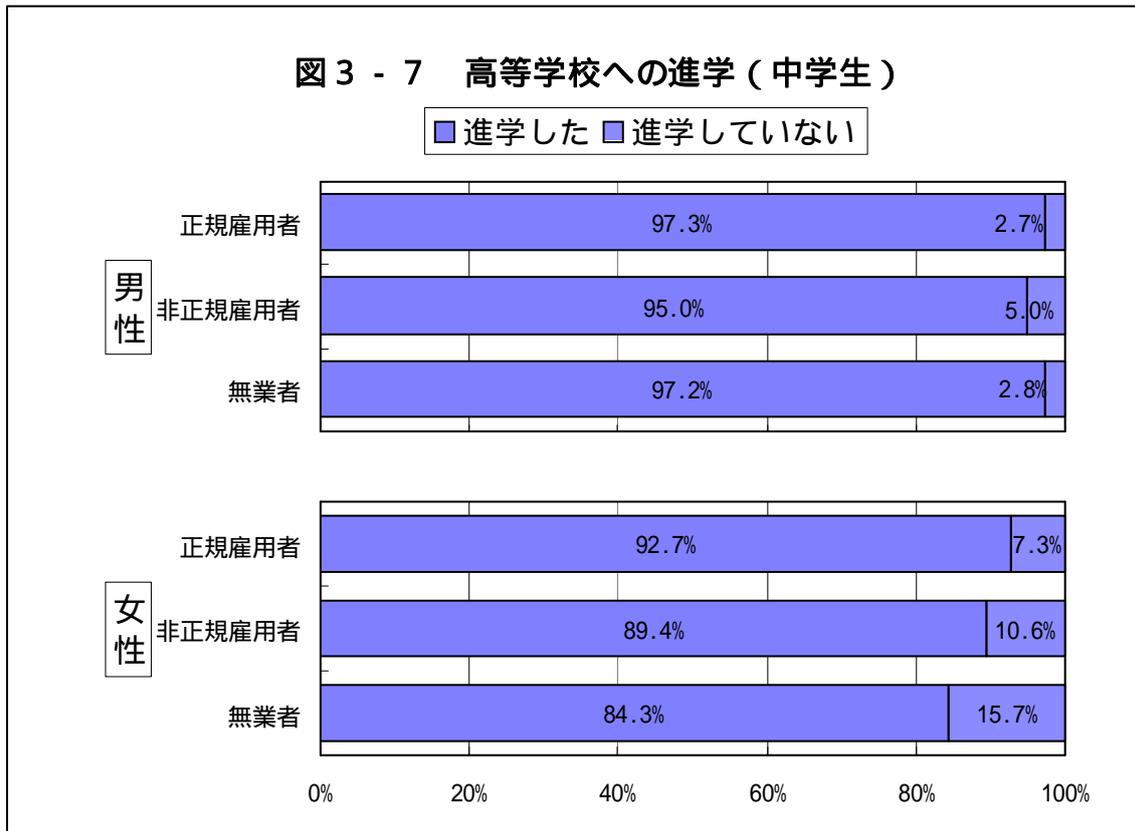


第2章 調査の結果と分析

(7) 高等学校への進学

高等学校へ「進学した」と答えた人の割合は、男性の正規雇用者が97.3%、非正規雇用者が95.0%、無業者が97.2%となっている。

女性の場合、高等学校へ「進学した」と答えた人の割合は、正規雇用者が92.7%、非正規雇用者が89.4%、無業者が84.3%となっている⁷⁾。



⁷⁾ 本調査対象が高等学校に進学した平成元年から平成15年までの高等学校等への進学率は平均96.7%（男子95.7%、女子97.8%）であり、実際の平均値と比べると今回の調査における女性の進学率は低くなっている。

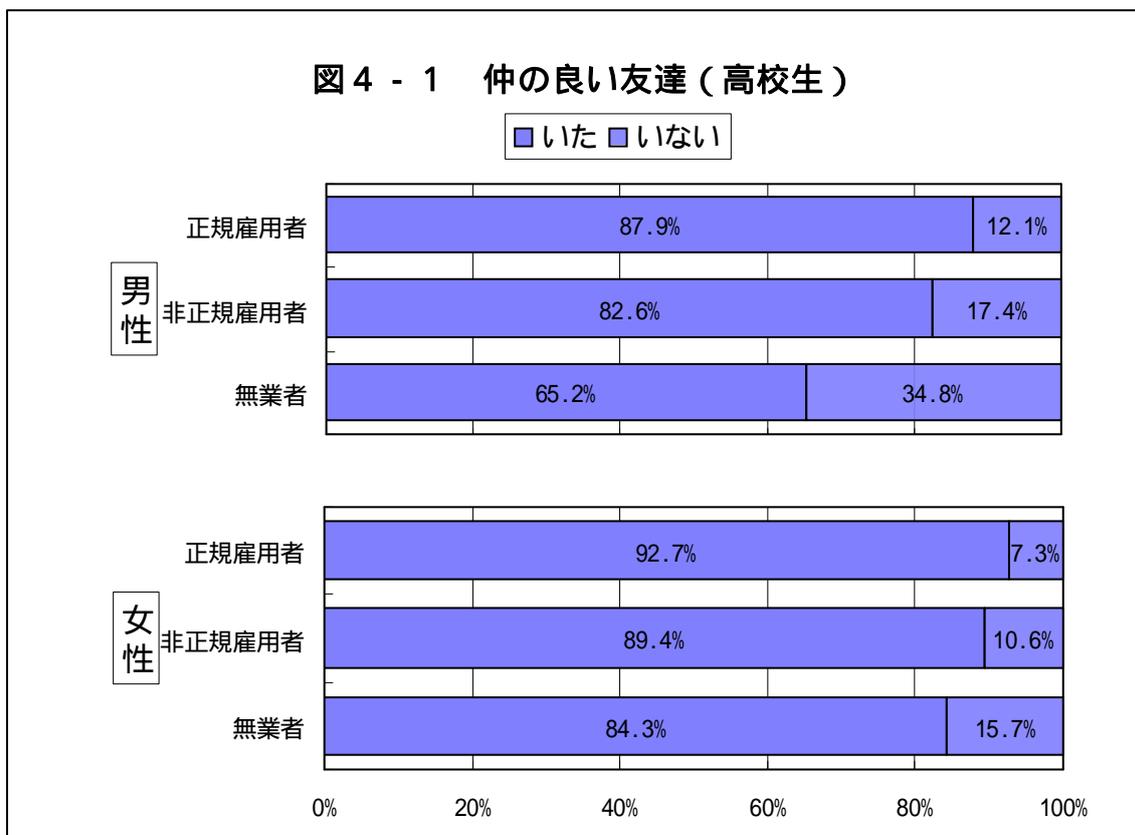
4 高校生期の生活体験について

(1) 仲の良い友達

高校生期に、「仲の良い友達」が「いた」と答えた人の割合は、男性の正規雇用者が87.9%、非正規雇用者が82.6%、無業者が65.2%となっている。

女性の場合、高校生期に「仲の良い友達」が「いた」と答えた人の割合は、正規雇用者が92.7%、非正規雇用者が89.4%、無業者が84.3%となっている。

男女とも、「仲の良い友達」が「いた」と答えた人の割合は、正規雇用者において高い。

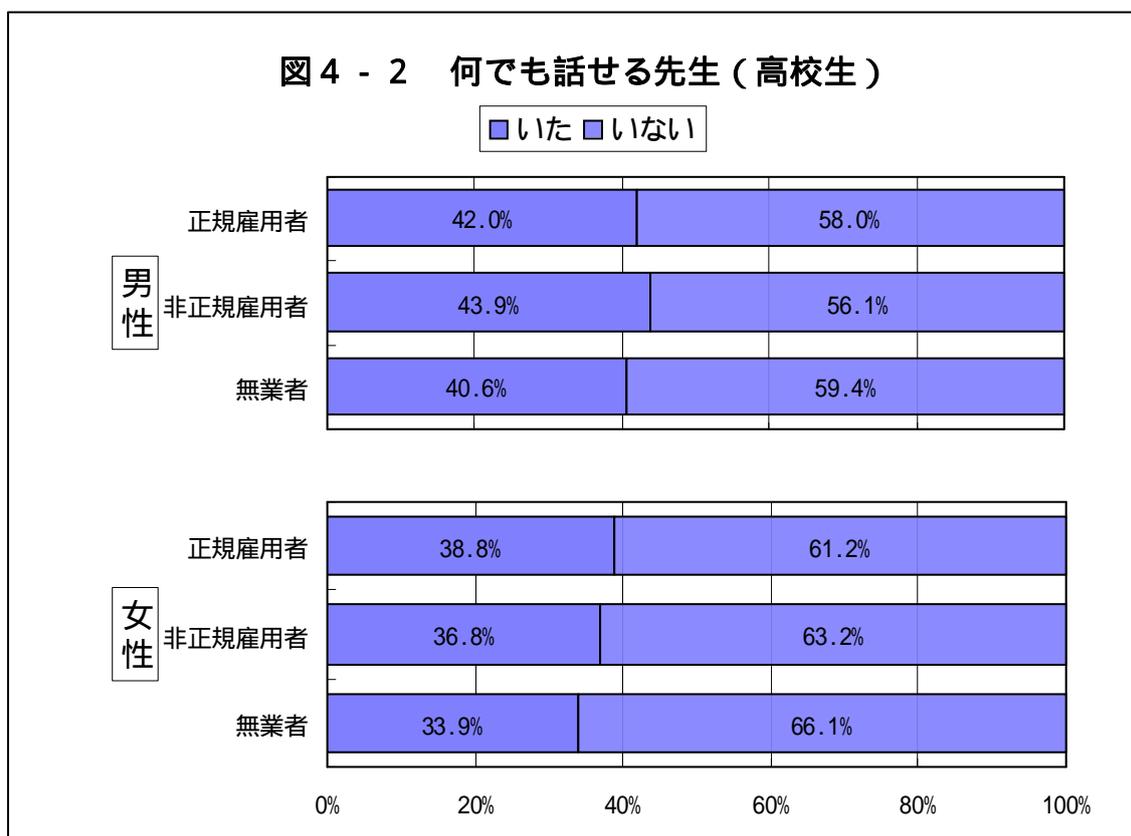


第2章 調査の結果と分析

(2) 何でも話せる先生

高校生期に、「何でも話せる先生」が「いた」と答えた人の割合は、男性の正規雇用者が42.0%、非正規雇用者が43.9%、無業者が40.6%となっている。

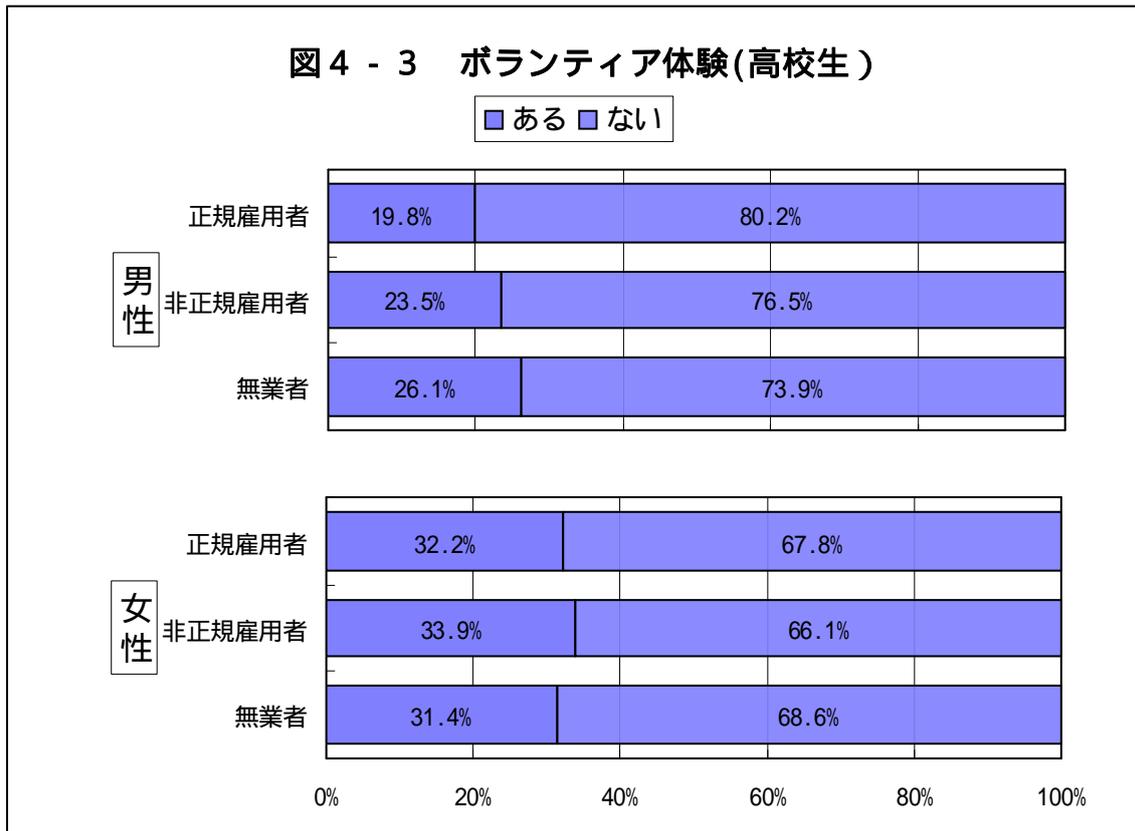
女性の場合、「何でも話せる先生」が「いた」と答えた人の割合は、正規雇用者が38.8%、非正規雇用者が36.8%、無業者が33.9%となっている。



(3) ボランティア体験

高校生期に、「ボランティア体験」が「ある」と答えた人の割合は、男性の正規雇用者が19.8%、非正規雇用者が23.5%、無業者が26.1%となっている。

女性の場合、「ボランティア経験」が「ある」と答えた人の割合は、正規雇用者が32.2%、非正規雇用者が33.9%、無業者が31.4%となっている。



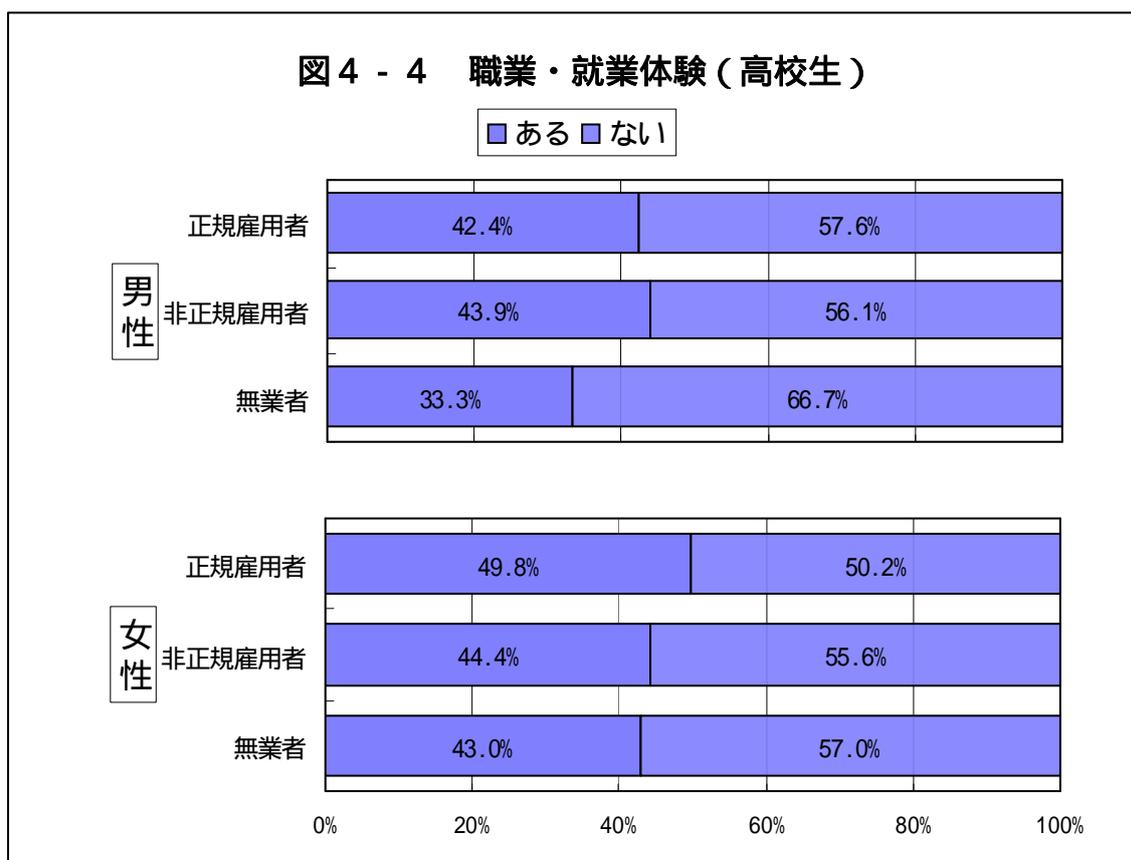
第2章 調査の結果と分析

(4) 職業・就業体験

高校生期に、「職業・就業体験」が「ある」と答えた人の割合は、男性の正規雇用者が42.4%、非正規雇用者が43.9%、無業者が33.3%となっている。

女性の場合、高校生期に「職業・就業体験」が「ある」と答えた人の割合は、正規雇用者が49.8%、非正規雇用者が44.4%、無業者が43.0%となっている。

男女とも、「職業・就業体験」が「ある」と答えた人の割合は、無業者においてかなり低い。

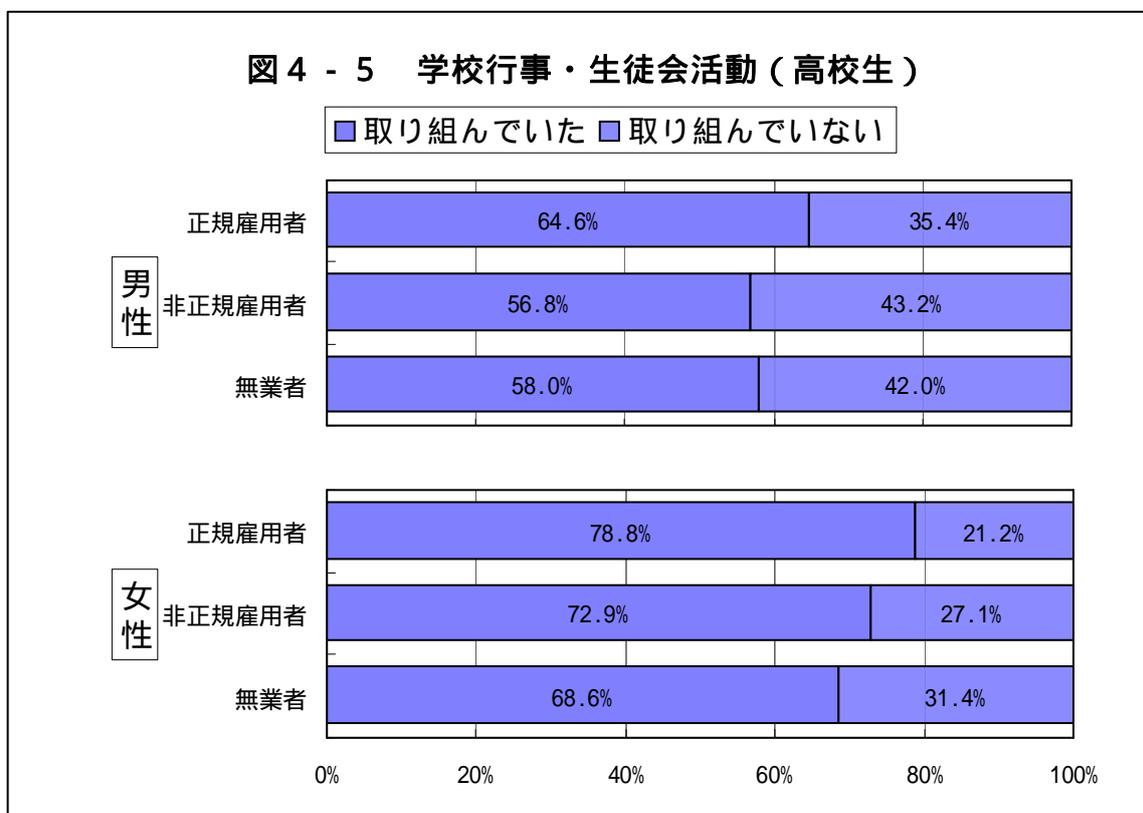


(5) 学校行事・生徒会活動

高校生期に、「学校行事・生徒会活動」に仲間と協力して「取り組んでいた」と答えた人の割合は、男性の正規雇用者が64.6%、非正規雇用者が56.8%、無業者が58.0%となっている。

女性の場合、高校生期に「学校行事・生徒会活動」に仲間と協力して「取り組んでいた」と答えた人の割合は、正規雇用者が78.8%、非正規雇用者が72.9%、無業者が68.6%となっている。

男女とも、高校生期に「学校行事・生徒会活動」に仲間と協力して「取り組んでいた」と答えた人の割合は、正規雇用者においてかなり高い。

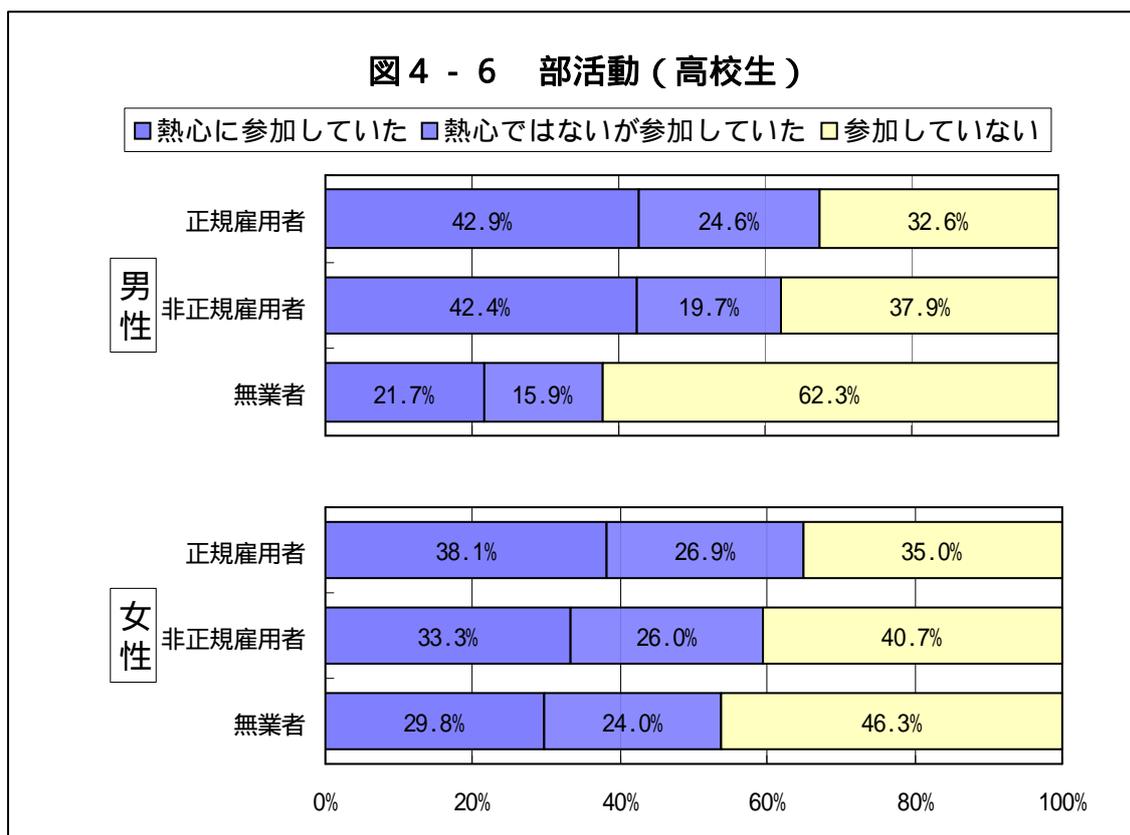


(6) 部活動

高校生期に、「部活動」に「熱心に参加していた」と答えた人の割合は、男性の正規雇用者が42.9%、非正規雇用者が42.4%となっているのに対し、無業者は21.7%となっている。一方、「参加していない」と答えた男性の正規雇用者が32.6%、非正規雇用者が37.9%となっているのに対し、無業者は62.3%となっている。

女性の場合、高校生期に「部活動」に「熱心に参加していた」と答えた人の割合は、正規雇用者が38.1%、非正規雇用者が33.3%となっているのに対し、無業者は29.8%となっている。一方、「参加していない」と答えた女性の正規雇用者が35.0%、非正規雇用者が40.7%となっているのに対し、無業者は46.3%となっている。

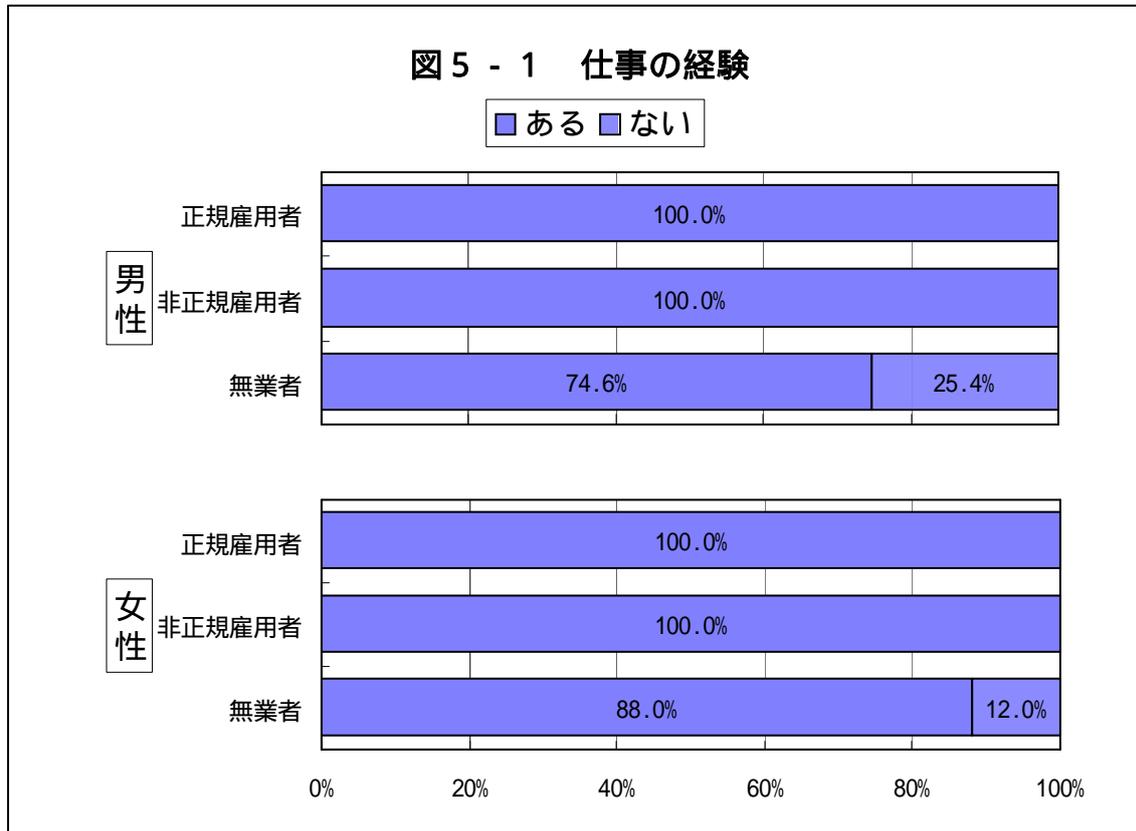
男女とも、無業者は、正規雇用者・非正規雇用者に比べて「部活動」に「熱心に参加していた」と答えた人の割合が低く、「部活動」に「参加していない」と答えた人の割合がかなり高い。男性の無業者は、「部活動」に「参加していない」と答えた人の割合が6割にものぼる。



5 仕事の経験について

(1) 仕事の経験

今までに仕事の経験が「ない」と答えた人の割合は、男性の無業者においては25.4%、女性の無業者においては12.0%となっている。女性に比べて男性の無業者の割合が高い。



第2章 調査の結果と分析

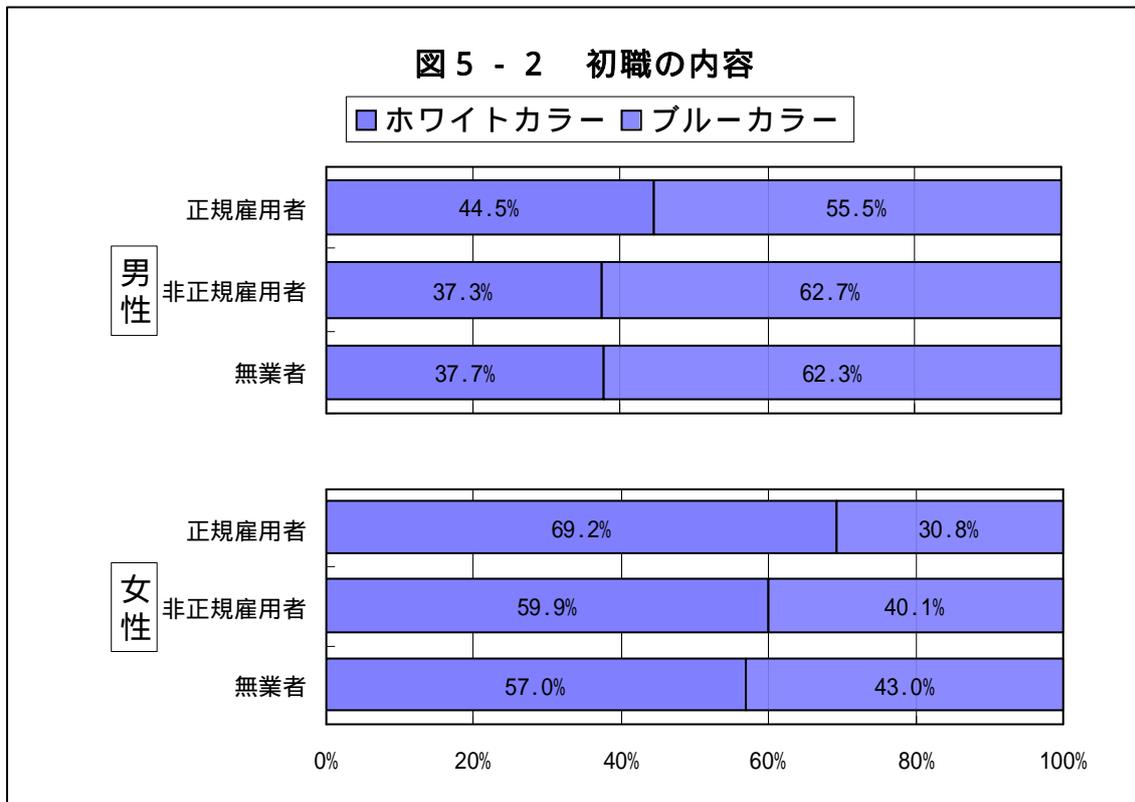
(2) 初職の内容

初職の内容については、「専門的・技術的職業」、「営業・事務的職業」、「販売業」を「ホワイトカラー」とし、「農業・林業・漁業」、「サービス職」、「運輸・通信業」、「技能工・製造職」、「建設作業」、「保安的職業」、「労務的職業」を「ブルーカラー」として集計した。

初職の内容を「ホワイトカラー」と答えた人の割合は、男性の正規雇用者が44.5%、非正規雇用者が37.3%、無業者が37.7%となっている。

女性の場合、初職の内容を「ホワイトカラー」と答えた人の割合は、正規雇用者が69.2%、非正規雇用者が59.9%、無業者が57.0%となっている。

男女とも、正規雇用者は「ホワイトカラー」の割合が、非正規雇用者・無業者に比べて高い。

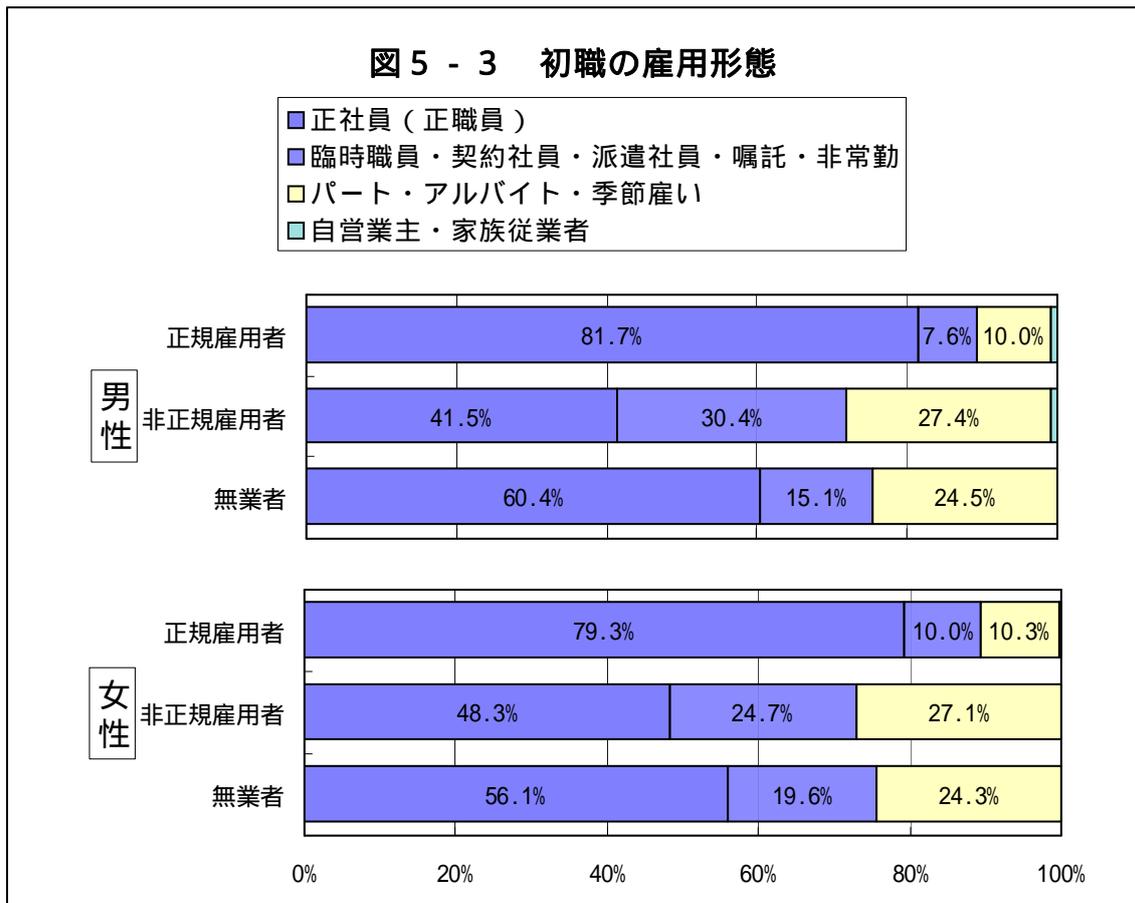


(3) 初職の雇用形態

初職の雇用形態が「正規雇用者」と答えた人の割合は、男性の正規雇用者が81.7%、非正規雇用者が41.5%、無業者が60.4%となっている。

女性の場合、初職の雇用形態が「正規雇用者」と答えた人の割合は、正規雇用者が79.3%であるのに対し、非正規雇用者が48.3%、無業者が56.1%となっている。

男女とも、非正規雇用者が初職において「非正規雇用者」であった割合が高いのに対し、無業者は初職において「正規雇用者」であった割合が高い。



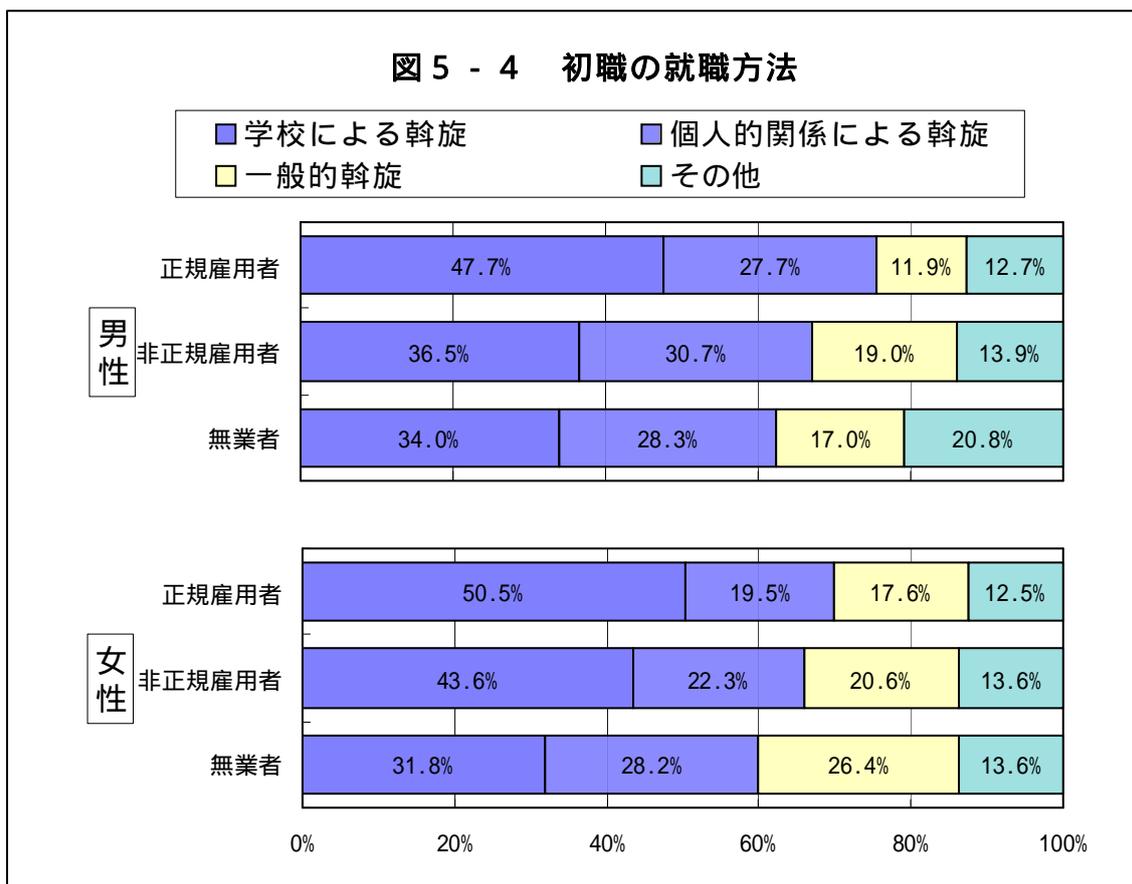
(4) 初職の就職方法

初職の就職方法については、「学校の先生や就職部の紹介」を「学校による斡旋」, 「部活やサークルの先輩、OBやOGの紹介」, 「親戚や親の紹介」, 「友達や友人の紹介」, 「在学中のアルバイト先へ就職した、またはアルバイト先から紹介された」を「個人的関係による斡旋」, 「就職雑誌やインターネットの求人広告に応募した」, 「職業安定所(ハローワーク)で紹介された」を「一般的斡旋」として集計している。

「学校による斡旋」によって初職についたと答えた人の割合は、男性の正規雇用者が47.7%, 非正規雇用者が36.5%, 無業者が34.0%となっている。

女性の場合、「学校による斡旋」によって初職についたと答えた人の割合は、正規雇用者が50.5%, 非正規雇用者が43.6%, 無業者が31.8%となっている。

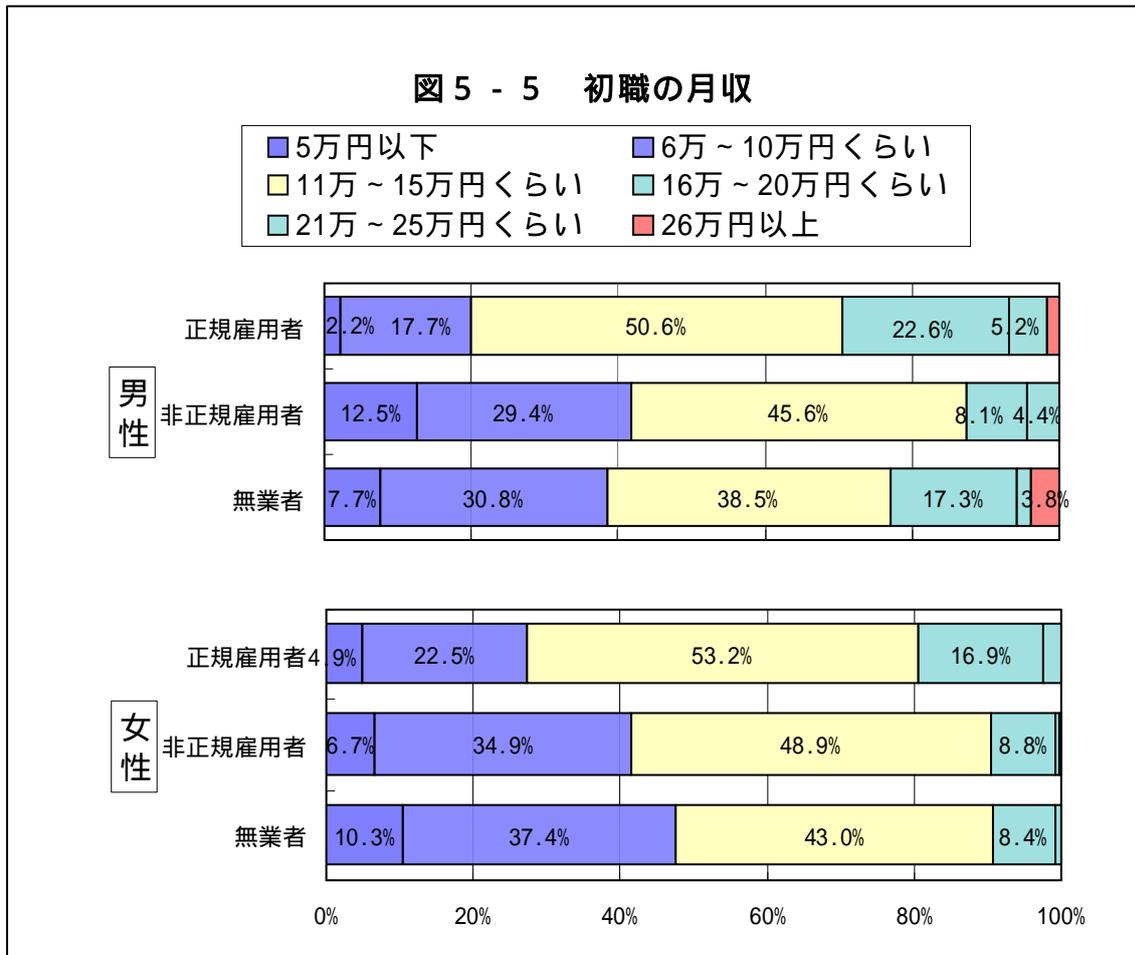
男女とも、「学校による斡旋」によって初職についたと答えた人の割合は、正規雇用者において高い。



(5) 初職の月収

初職の月収が「10万円以下」と答えた人の割合は、男性の正規雇用者が19.9%、非正規雇用者が41.9%、無業者が38.5%となっている。

女性の場合、初職の月収が「10万円以下」と答えた人の割合は、正規雇用者が27.4%、非正規雇用者が41.6%、無業者が47.7%となっている。



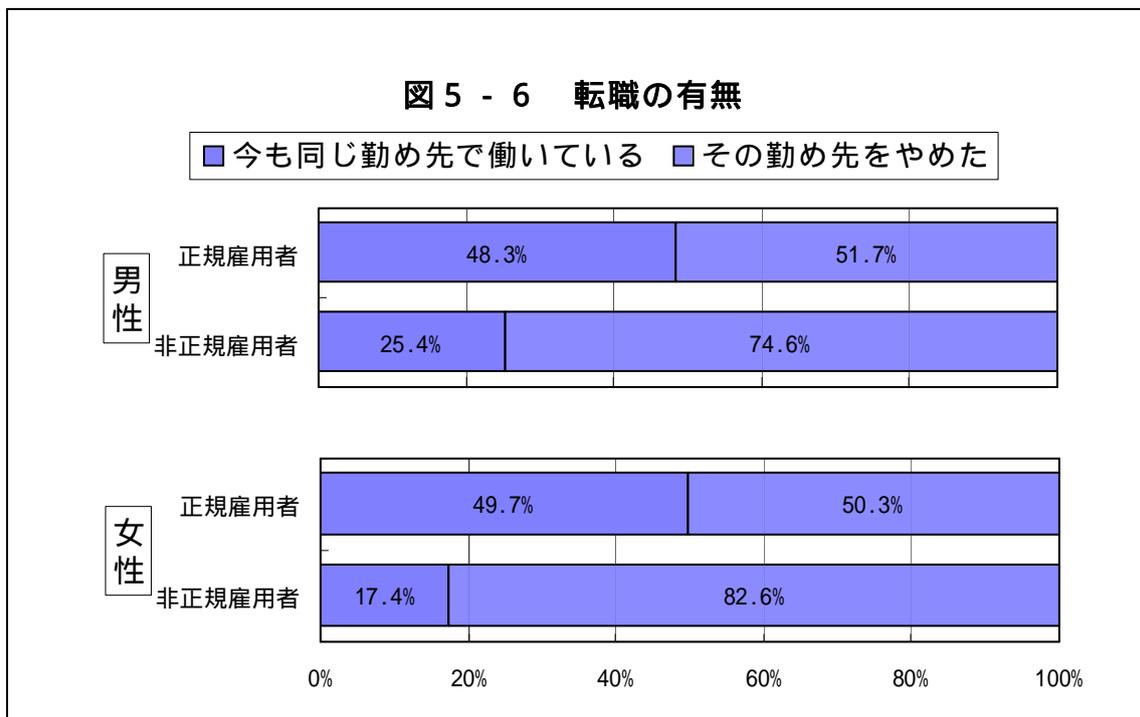
第2章 調査の結果と分析

(6) 転職の有無

転職については、「今も同じ勤め先で働いている」と答えた人の割合は、男性の正規雇用者が48.3%、非正規雇用者が25.4%となっている。

女性の場合、「今も同じ勤め先で働いている」と答えた人の割合は、正規雇用者が49.7%、非正規雇用者が17.4%となっている。

男女とも、正規雇用者の半数は初職の勤務先で働いているが、半数は転職している。非正規雇用者にいたっては「今も同じ勤め先で働いている」と答えた人の割合はさらに低い。

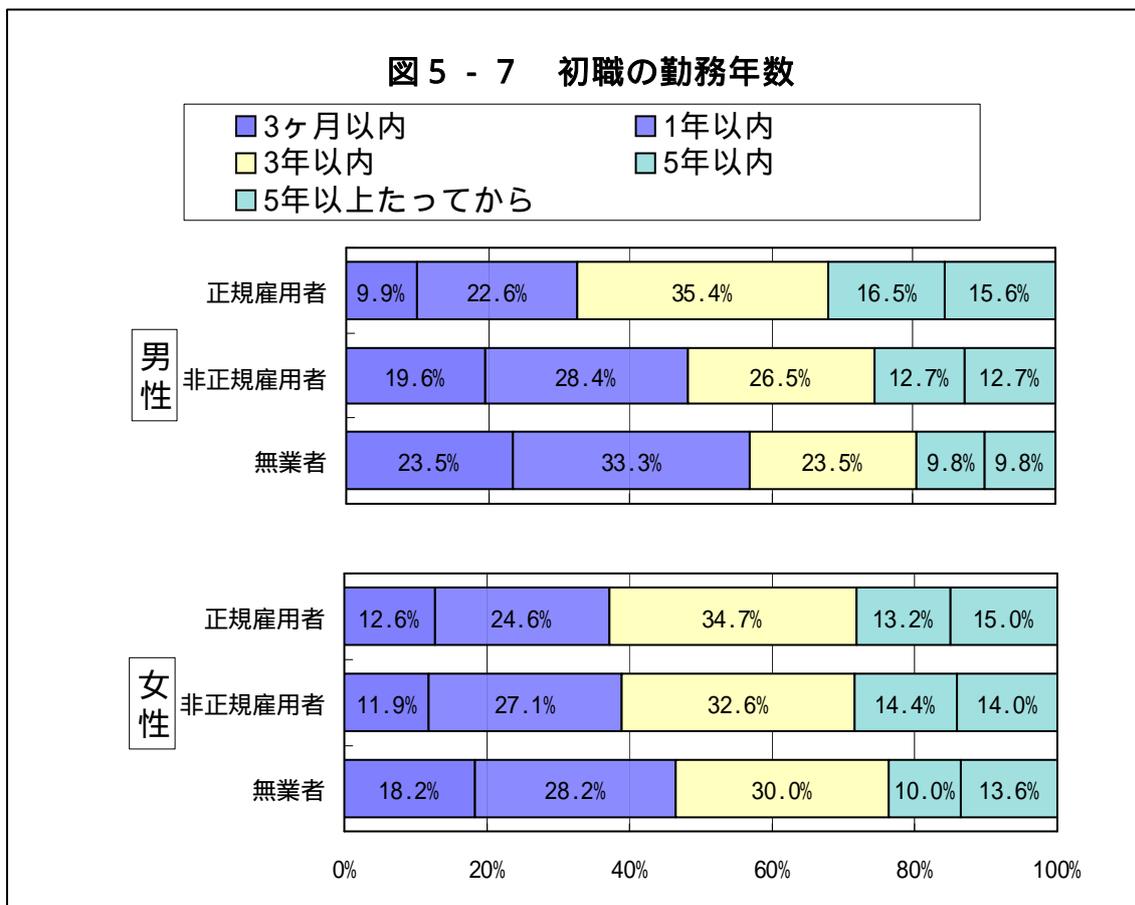


(7) 初職の勤務年数

「3年以内」に初職の勤務先をやめた人の割合は、男性の正規雇用者が67.9%、非正規雇用者が74.5%、無業者が80.3%となっている。

女性の場合、「3年以内」に初職の勤務先をやめた人の割合は、正規雇用者が71.9%、非正規雇用者が71.6%、無業者が76.4%となっている。

男女とも、雇用形態を問わず、「3年以内」に初職を離職している割合がかなり高い。無業者に関しては、男性の無業者の6割、女性の無業者の5割が「1年以内」に初職を離職している。



(8) 初職を離職した理由

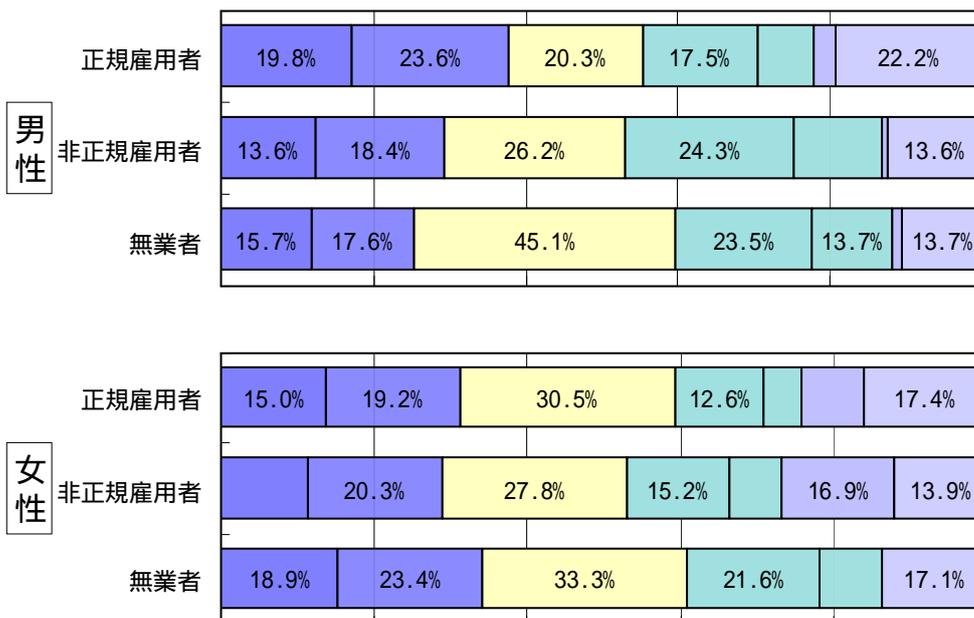
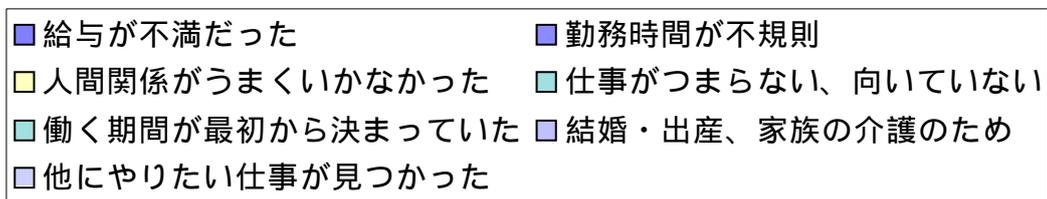
初職を離職した理由を複数回答で求め、それぞれ上位五項目を取り上げている。

男性の場合、「同僚や上司との人間関係がうまくいかなかった」（以下、「人間関係がうまくいかなかった」）、「仕事がつまらない、自分に向いていないと思った」（以下、「仕事がつまらない、向いていない」）、「働く時間が長すぎたり、勤務時間が不規則だった」（以下、「勤務時間が不規則」）を離職理由として挙げた人の割合が高い。最も割合の高かった「人間関係がうまくいかなかった」についてみると、正規雇用者が20.3%、非正規雇用者が26.2%、無業者が45.1%となっており、無業者においてその割合がかなり高い。

女性の場合、「人間関係がうまくいかなかった」、「勤務時間が不規則」、「仕事がつまらない、向いていない」を離職理由として挙げた人の割合が高い。「人間関係がうまくいかなかった」についてみると、正規雇用者が30.5%、非正規雇用者が27.8%、無業者が33.3%となっており、雇用形態を問わず割合が高い。

男女とも、雇用形態を問わず、「人間関係がうまくいかなかった」、「仕事がつまらない、向いていない」、「勤務時間が不規則」、「給与が不満だった」等のネガティブな理由を離職理由として挙げた人の割合が高い。

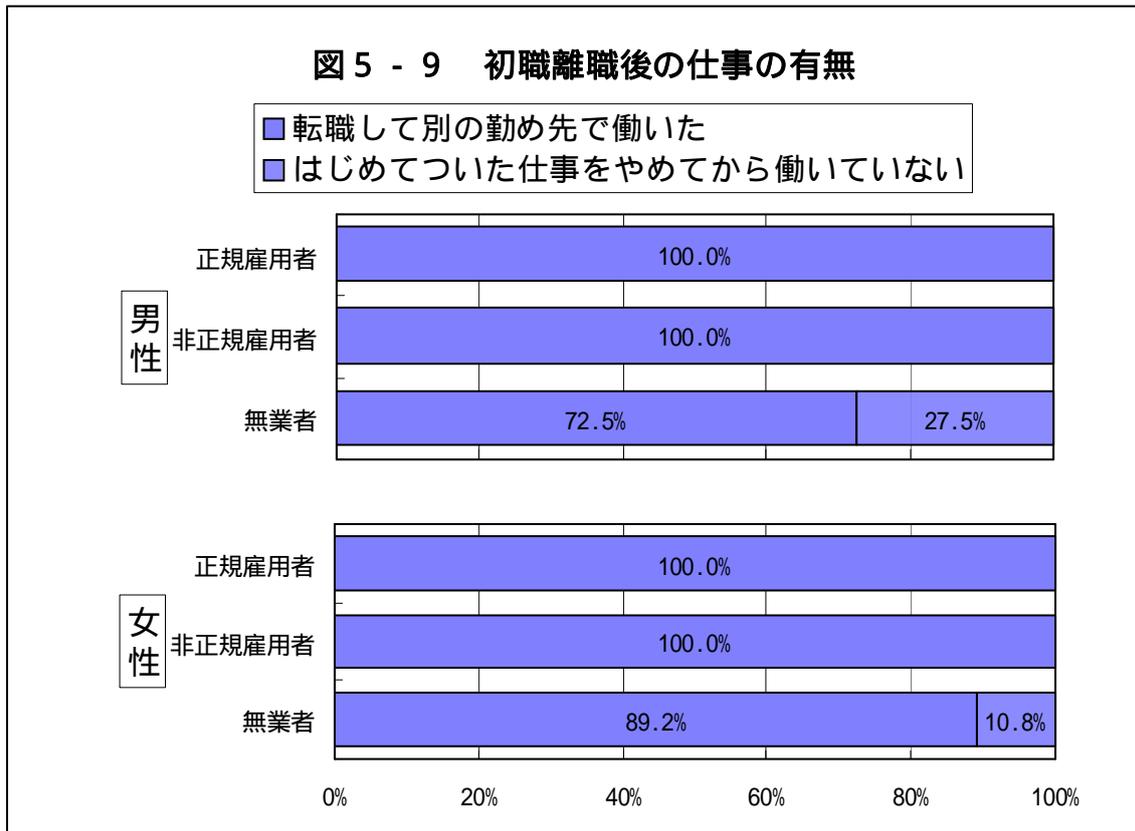
図5-8 初職を離職した理由



(9) 初職離職後の仕事の有無

「はじめてついた仕事をやめてから働いていない」と答えた人の割合は、男性の無業者が27.5%、女性の無業者が10.8%となっている。

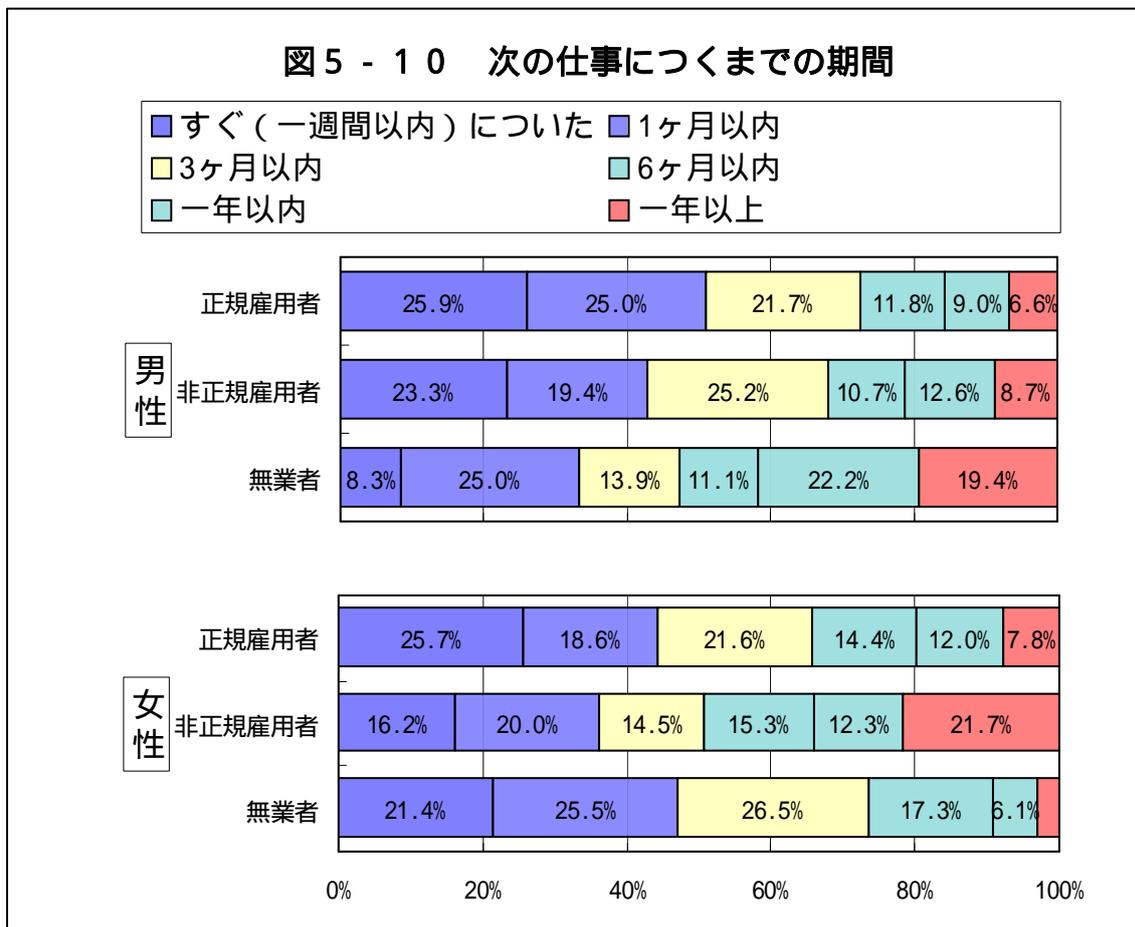
「はじめてついた仕事をやめてから働いていない」と答えた男性の無業者は女性の2.5倍にものぼる。



(10) 次の仕事につくまでの期間

「1ヶ月以内」に次の仕事についたと答えた人の割合は、男性の正規雇用者が50.9%、非正規雇用者が42.7%、無業者が33.3%となっている。一方、6ヶ月以上かかっている人の割合は、正規雇用者が15.6%、非正規雇用者が21.3%、無業者が41.6%となっている。正規雇用者は次の仕事につくまでの期間が短く、無業者は長い。

女性の場合、「1ヶ月以内」に次の仕事についたと答えた人の割合は、正規雇用者が44.3%、非正規雇用者が36.2%、無業者が46.9%となっている。非正規雇用者は次の仕事につくまでの期間が最も長く、6ヶ月以上かかっている人の割合が高い。一方、女性の無業者は、次の仕事につくまでの期間が正規雇用者と同様に短い。

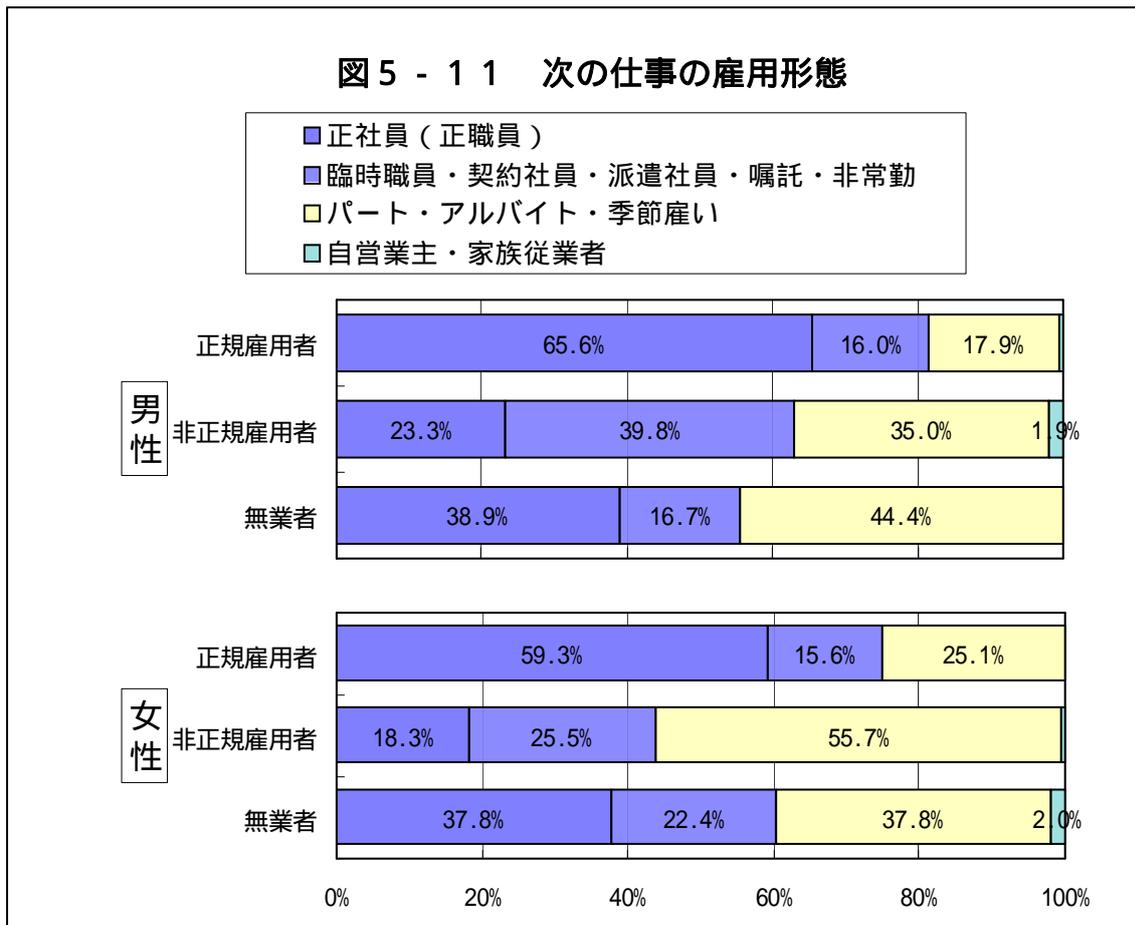


(11) 次の仕事の雇用形態

次の仕事の雇用形態が「正規雇用者」と答えた人の割合は、男性の正規雇用者が65.6%、非正規雇用者は23.3%、無業者が38.9%となっている。

女性の場合、次の仕事の雇用形態が「正規雇用者」と答えた人の割合は、正規雇用者が59.3%、非正規雇用者が18.3%、無業者が37.8%となっている。

男女とも正規雇用者と無業者は、初職の雇用形態と同様、次の仕事においても「正規雇用者」であった割合が高い。



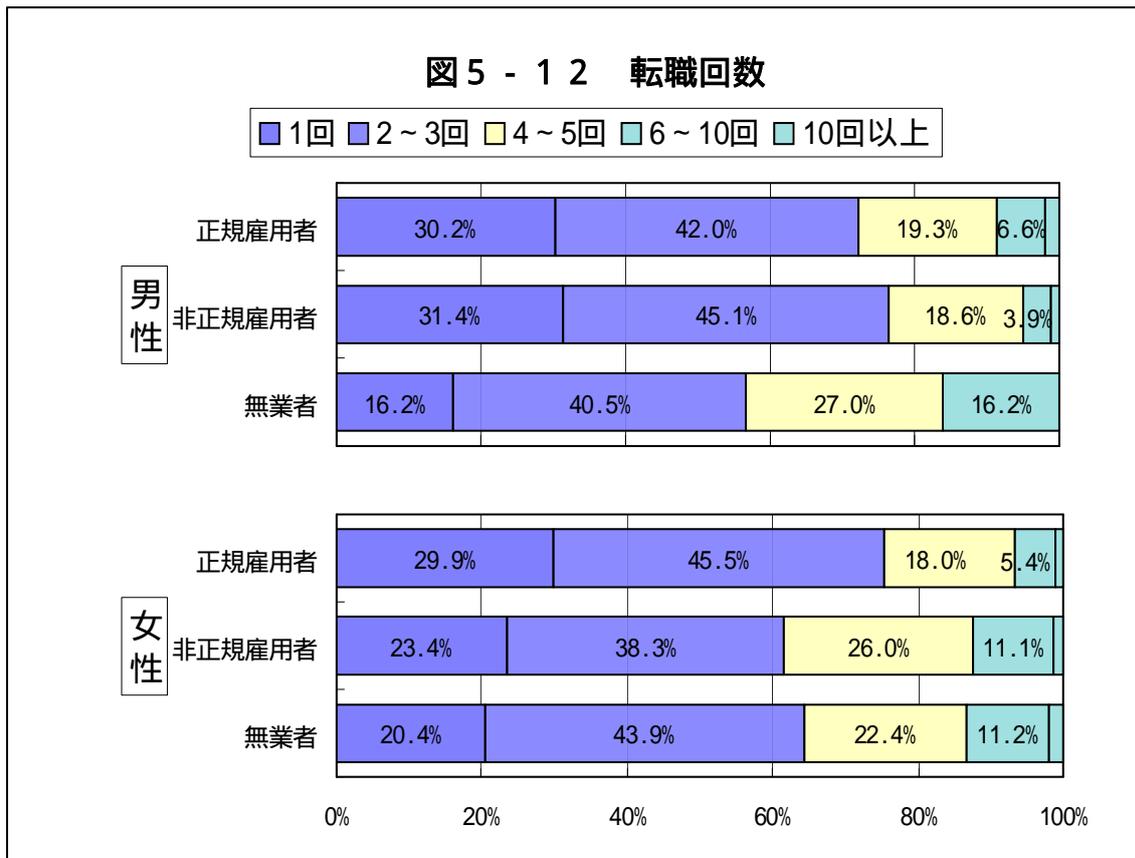
第2章 調査の結果と分析

(12) 転職回数

1～3回転職したことがある人の割合は、男性の正規雇用者が72.2%、非正規雇用者は76.5%、無業者が56.7%となっている。4回以上転職している人の割合は、正規雇用者が27.8%、非正規雇用者が23.5%、無業者が43.2%となっている。

女性の場合、1～3回転職したことがある人の割合は、正規雇用者が75.4%、非正規雇用者が61.7%、無業者が64.3%となっている。

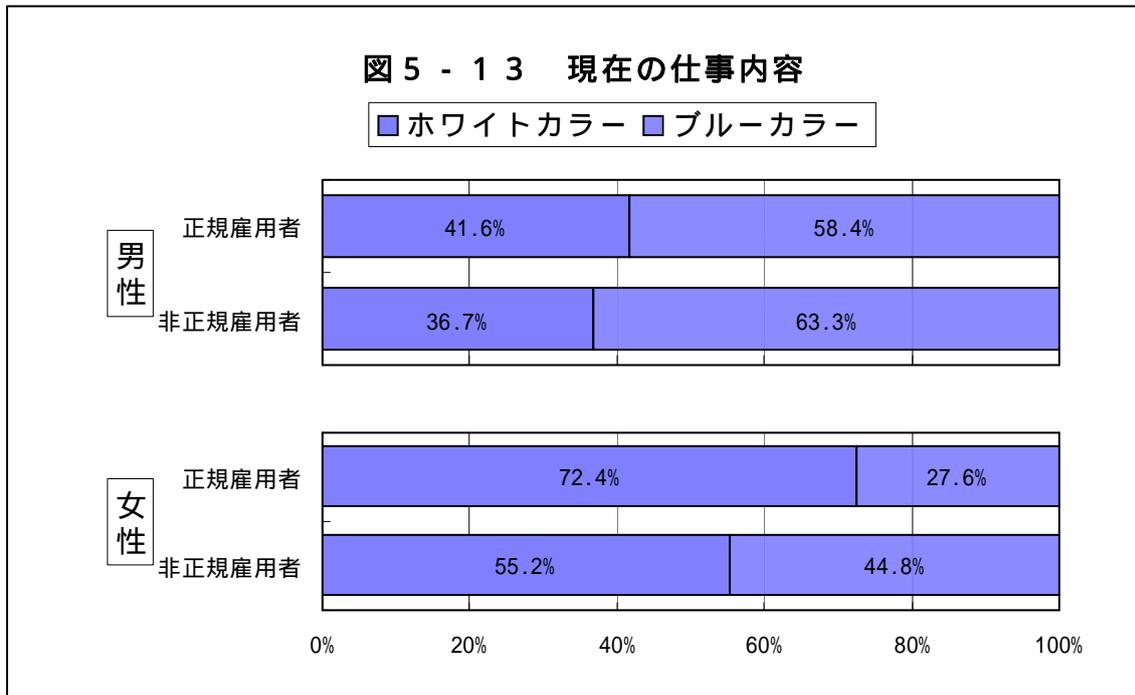
男女とも、雇用形態を問わず2～3回転職している人の割合が高い。



(13) 現在の仕事内容

現在の仕事内容を「ホワイトカラー」と答えた人の割合は、男性の正規雇用者が41.6%、非正規雇用者が36.7%となっている。

女性の場合、現在の仕事内容を「ホワイトカラー」と答えた人の割合は、正規雇用者が72.4%、非正規雇用者が55.2%となっている。



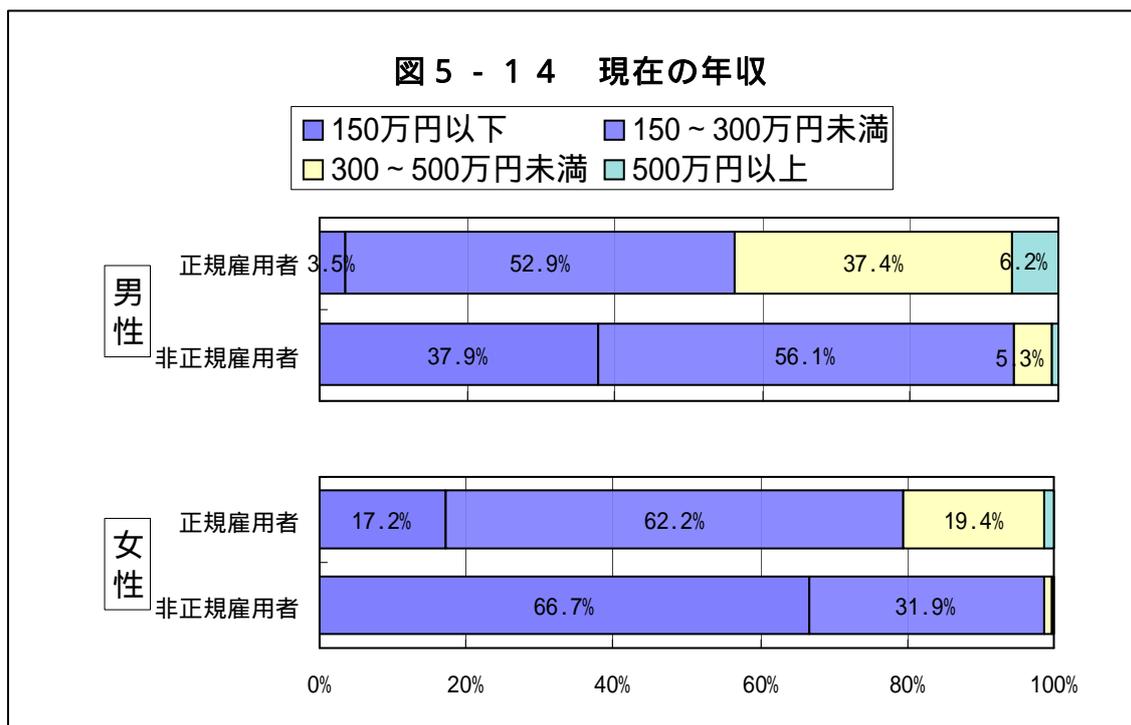
第2章 調査の結果と分析

(14) 現在の年収

現在の年収が「150万円以下」と答えた人の割合は、男性の正規雇用者が3.5%、非正規雇用者が37.9%となっている。

女性の場合、現在の年収が「150万円以下」と答えた人の割合は、正規雇用者が17.2%、非正規雇用者が66.7%となっている。

現在の年収が「150万円以下」と答えた人の割合は、男性の非正規雇用者では4割、女性の非正規雇用者では7割を占めている。

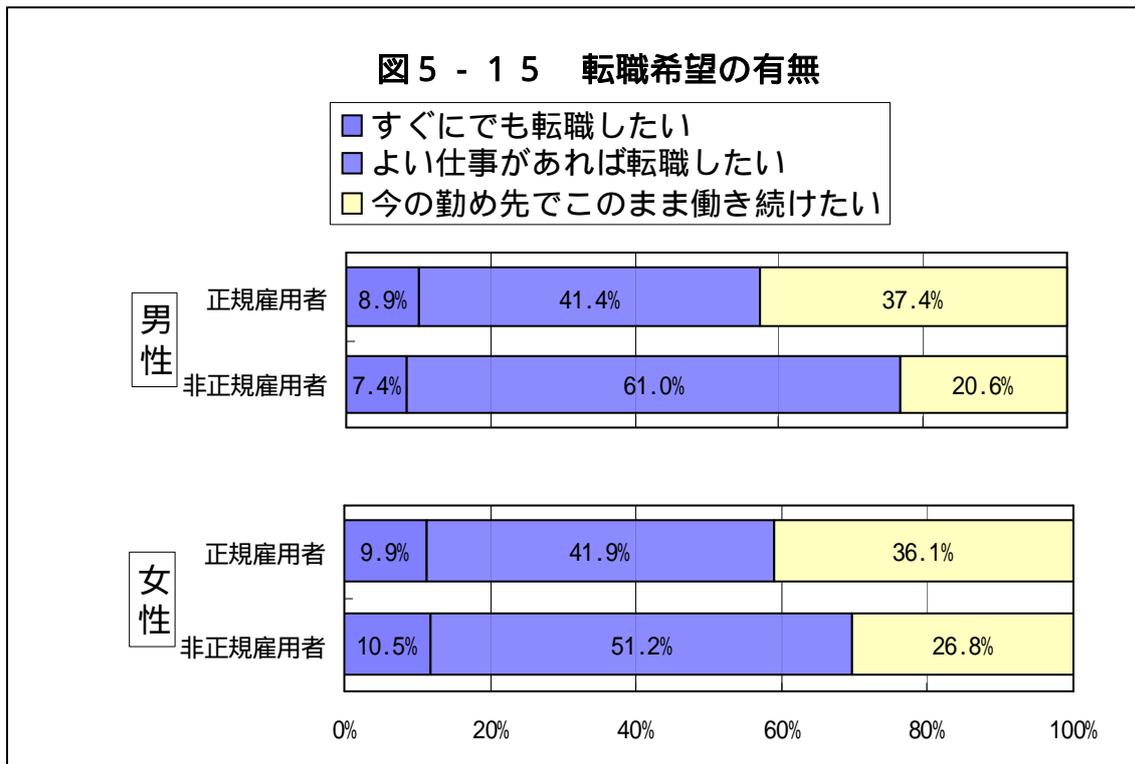


(15) 転職希望の有無

「すぐにでも転職したい」又は「よい仕事があれば転職したい」と答えた人の割合は、男性の正規雇用者が50.3%、非正規雇用者が68.4%となっている。

女性の場合、「すぐにでも転職したい」又は「よい仕事があれば転職したい」と答えた人の割合は、正規雇用者が51.8%、非正規雇用者が61.7%となっている。

男女とも、「今の勤め先でこのまま働きたい」と答えた人の割合は、正規雇用者においても4割に満たない。

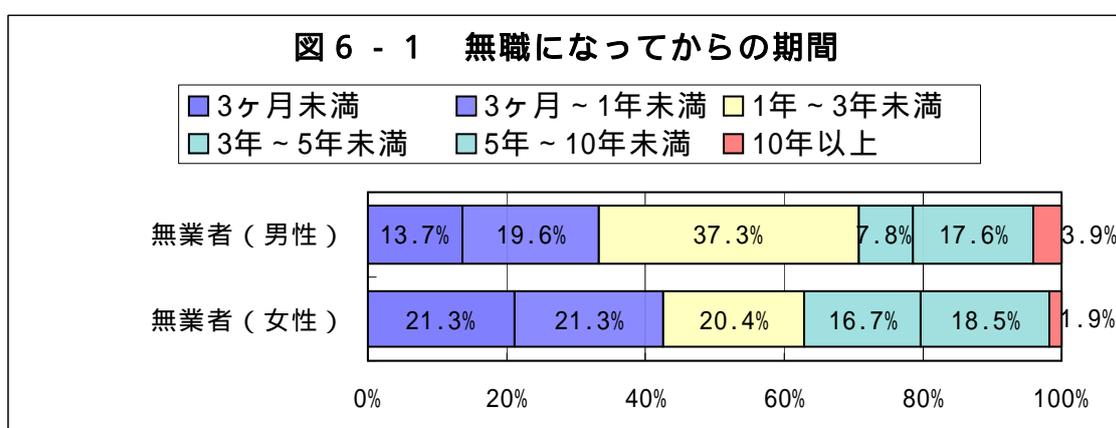


6 無業者について

(1) 無職になってからの期間

男性の無業者は、無職になってからの期間が「3ヶ月未満」と答えた人の割合が13.7%となっている。1年以上と答えた人の割合は66.6%にもものぼる。

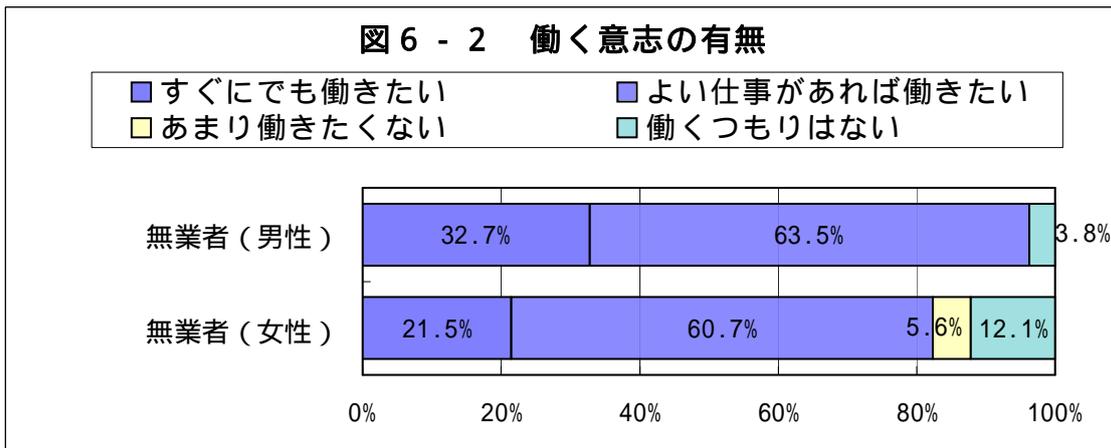
女性の無業者は、無職になってからの期間が「3ヶ月未満」と答えた人の割合が21.3%となっている。1年以上と答えた人の割合は男性の無業者よりも低いものの、3年以上の月日を要している人の割合は、男性の無業者が29.3%であるのに対し、女性は37.1%となっており、一部で長期化する傾向がみられる。



(2) 働く意志の有無

男性の無業者は、「すぐにでも働きたい」又は「よい仕事があれば働きたい」と答えた人の割合が96.2%となっている。そのほとんどが働く意志を有している。

女性の無業者は、「すぐにでも働きたい」又は「よい仕事があれば働きたい」と答えた人の割合が82.2%となっている。一方、「働くつもりはない」と答えた人の割合が、男性の無業者が3.8%であるのに対し、女性の無業者は12.1%と高い。

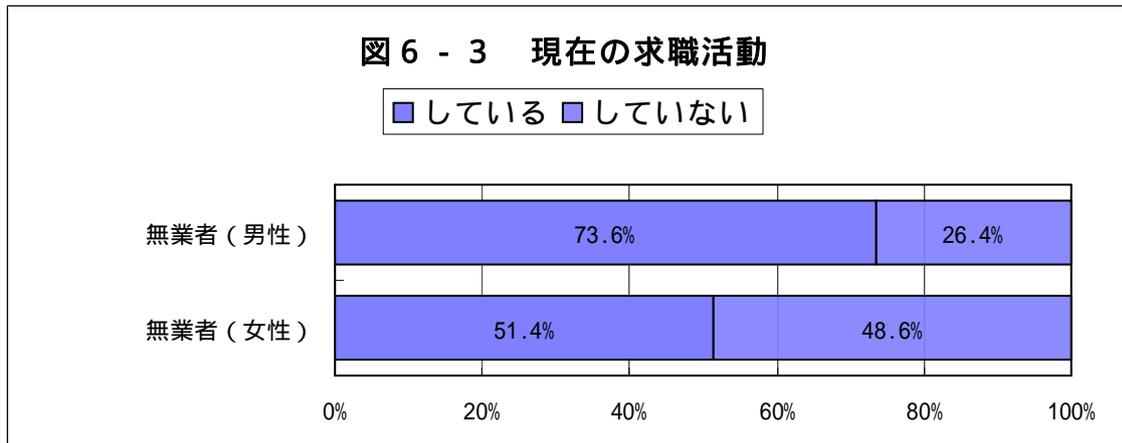


第2章 調査の結果と分析

(3) 現在の求職活動

男性の無業者は、現在求職活動を「している」と答えた人の割合が73.6%となっている。

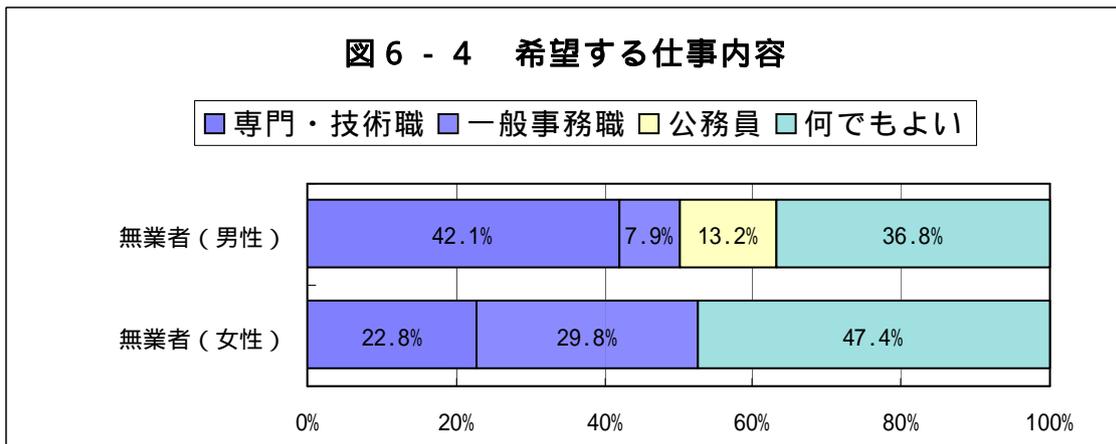
女性の無業者は、現在求職活動を「している」と答えた人の割合が51.4%となっている。女性の半数は求職活動をしていない。



(4) 希望する仕事内容

男性の無業者は、42.1%が「専門・技術職」を希望している。「何でもよい」と答えた人の割合も36.8%と高い。

女性の無業者は、29.8%が「一般事務職」を希望している。「何でもよい」と答えた人の割合は47.4%と男性の無業者よりも高い。

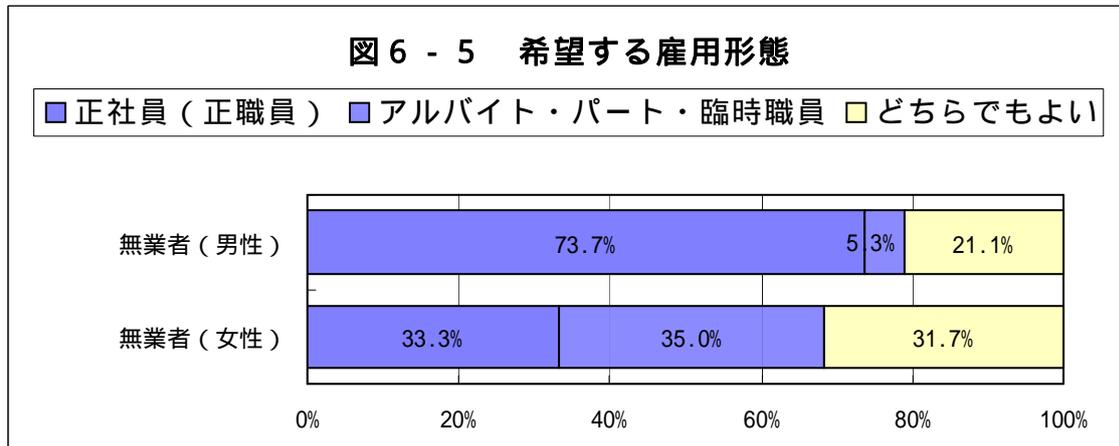


第2章 調査の結果と分析

(5) 希望する雇用形態

男性の無業者は、73.7%が「正規雇用者」を希望している。

女性の無業者は、33.3%が「正規雇用者」、35.0%が「非正規雇用者」、31.7%が「どちらでもよい」と答えており、希望する雇用形態に差はみられない。



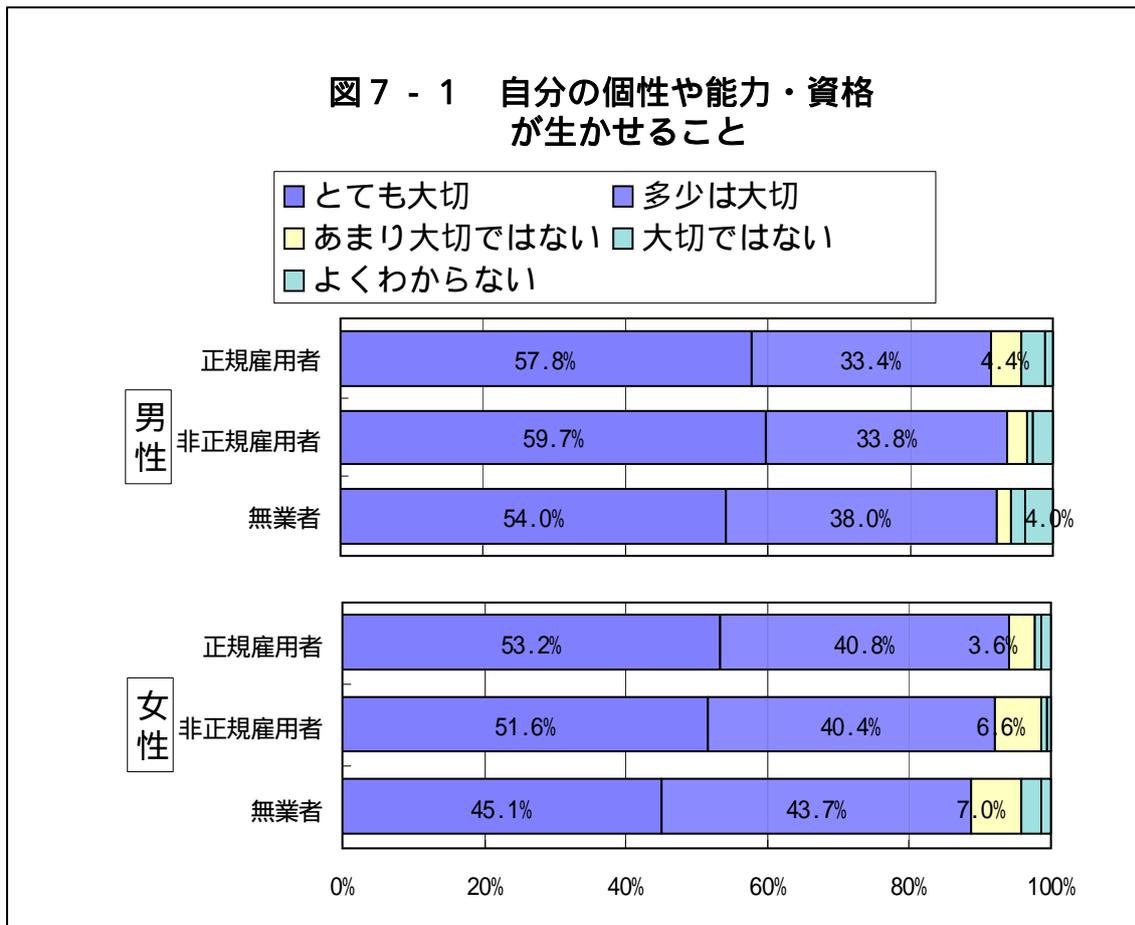
7 職業観

(1) 自分の個性や能力・資格が生かせること

「自分の個性や能力・資格が生かせること」を大切と答えた人の割合は、男性の正規雇用者が91.2%、非正規雇用者が93.5%、無業者が92.0%となっている。

女性の場合、「自分の個性や能力・資格が生かせること」を大切と答えた人の割合は、正規雇用者が94.0%、非正規雇用者が92.0%、無業者が88.8%となっている。

男女とも、9割が「自分の個性や能力・資格が生かせること」を大切と答えている。



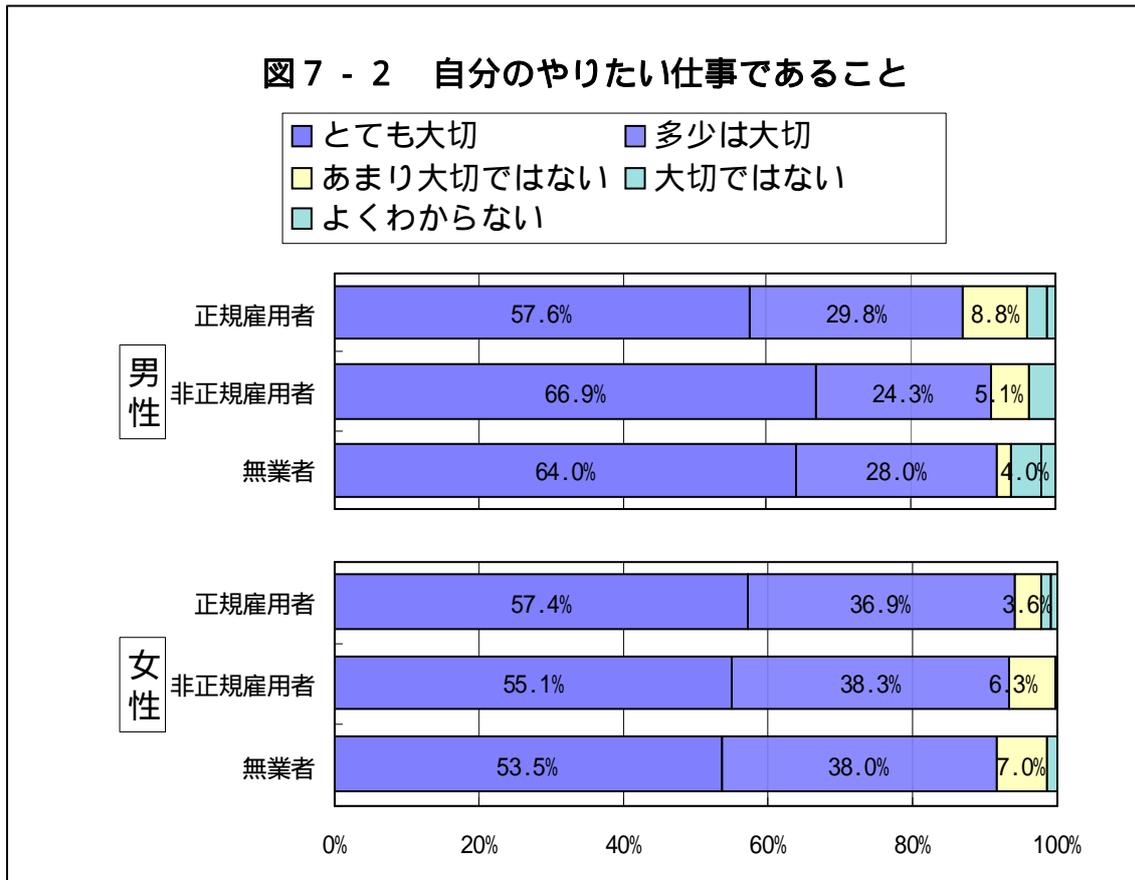
第2章 調査の結果と分析

(2) 自分のやりたい仕事であること

「自分のやりたい仕事であること」を大切と答えた人の割合は、男性の正規雇用者が87.4%、非正規雇用者が91.2%、無業者が92.0%となっている。

女性の場合、「自分のやりたい仕事であること」を大切と答えた人の割合は、正規雇用者が94.3%、非正規雇用者が93.4%、無業者が91.5%となっている。

男女とも、9割が「自分のやりたい仕事であること」を大切と答えいる。

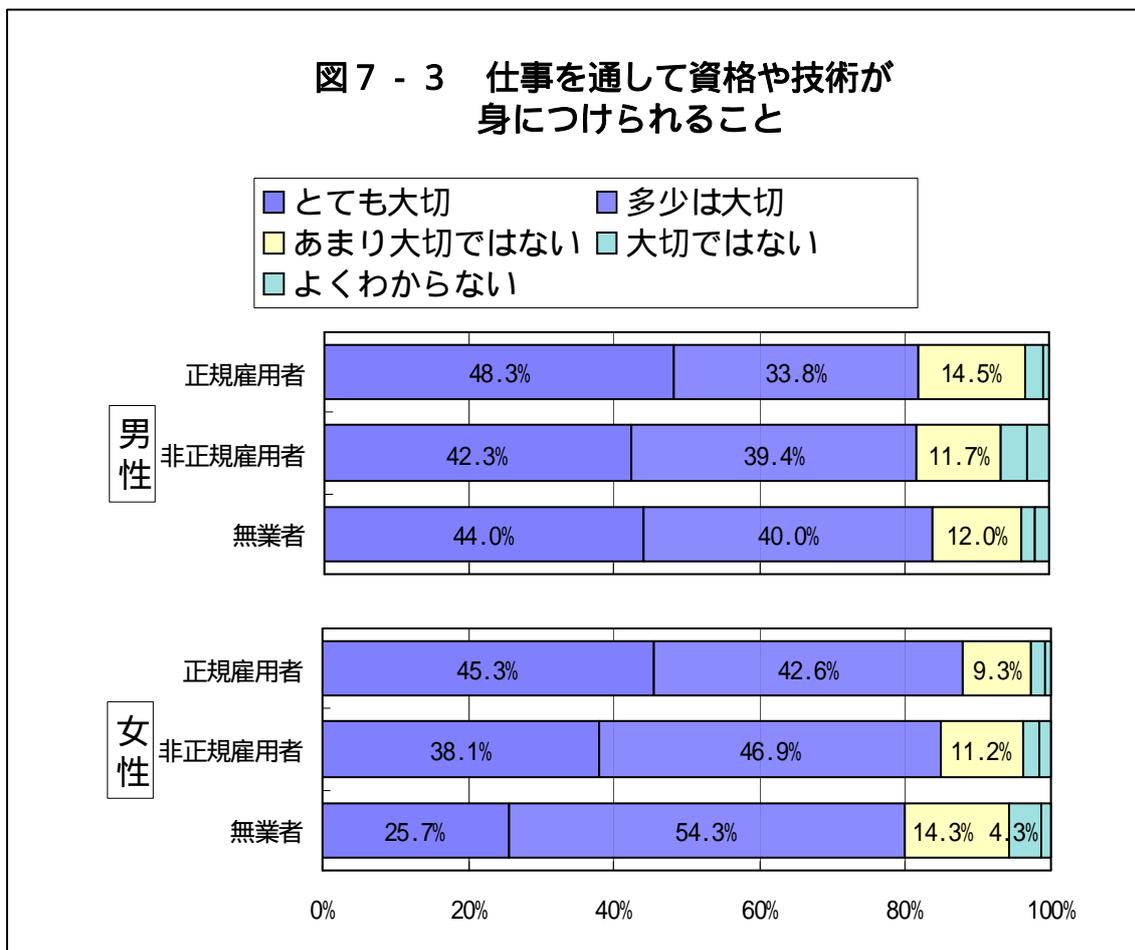


(3) 仕事を通して資格や技術が身につけられること

「仕事を通して資格や技術が身につけられること」を大切と答えた人の割合は、男性の正規雇用者が82.1%、非正規雇用者が81.7%、無業者が84.0%となっている。

女性の場合、「仕事を通して資格や技術が身につけられること」を大切と答えた人の割合は、正規雇用者が87.9%、非正規雇用者が85.0%、無業者が80.0%となっている。

男女とも、8割が「仕事を通して資格や技術が身につけられること」を大切と答えている。

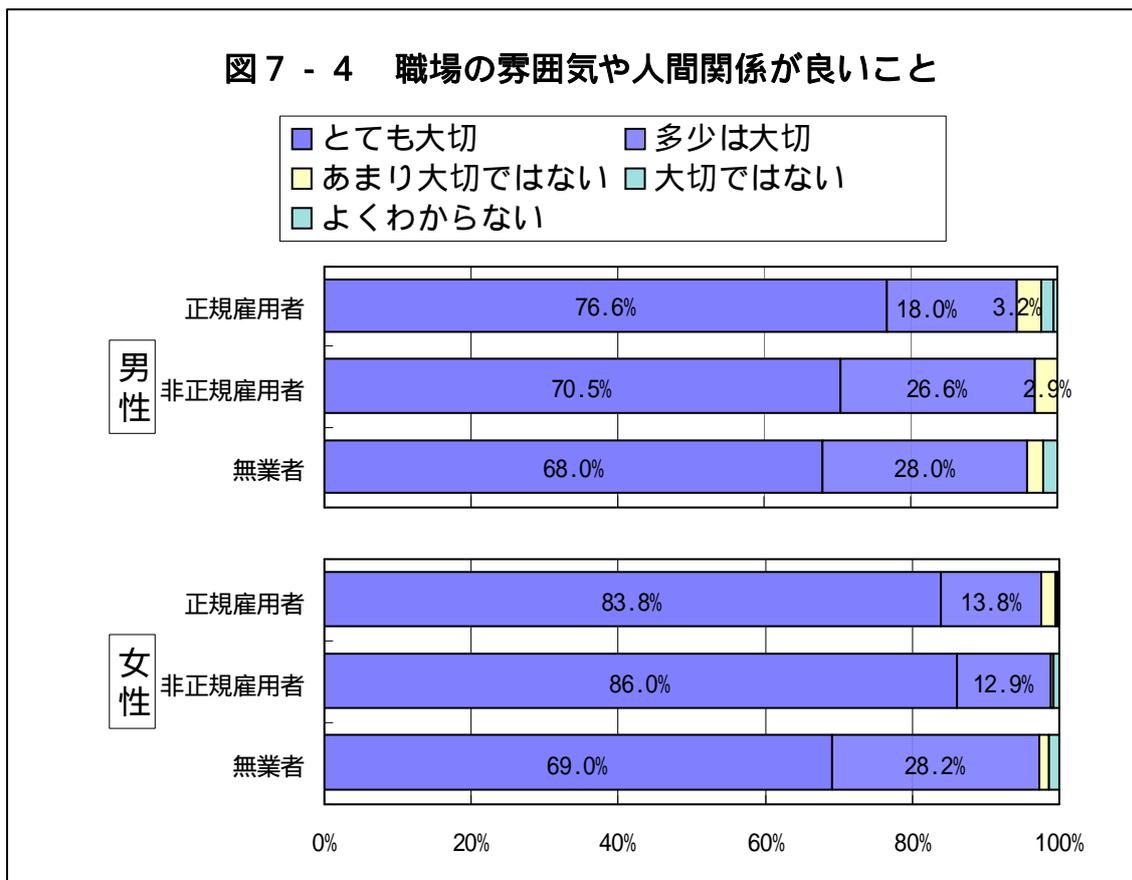


(4) 職場の雰囲気や人間関係が良いこと

「職場の雰囲気や人間関係が良いこと」を大切と答えた人の割合は、男性の正規雇用者が94.6%、非正規雇用者が97.1%、無業者が96.0%となっている。

女性の場合、「職場の雰囲気や人間関係が良いこと」を大切と答えた人の割合は、正規雇用者が97.6%、非正規雇用者が98.9%、無業者が97.2%となっている。

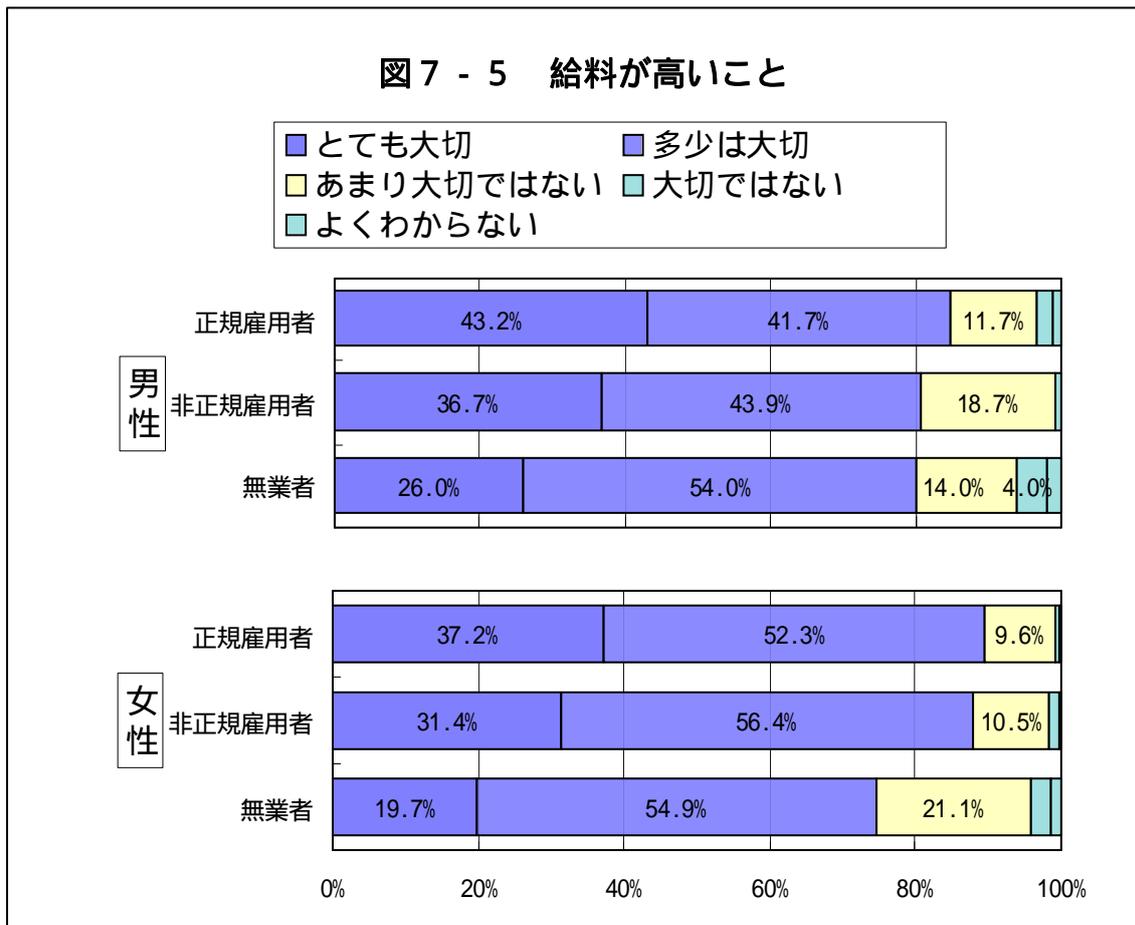
男女とも、9割が「職場の雰囲気や人間関係が良いこと」を大切と答えており、人間関係を重視している。



(5) 給料が高いこと

「給料が高いこと」を大切と答えた人の割合は、男性の正規雇用者が84.9%、非正規雇用者が80.6%、無業者が80.0%となっている。

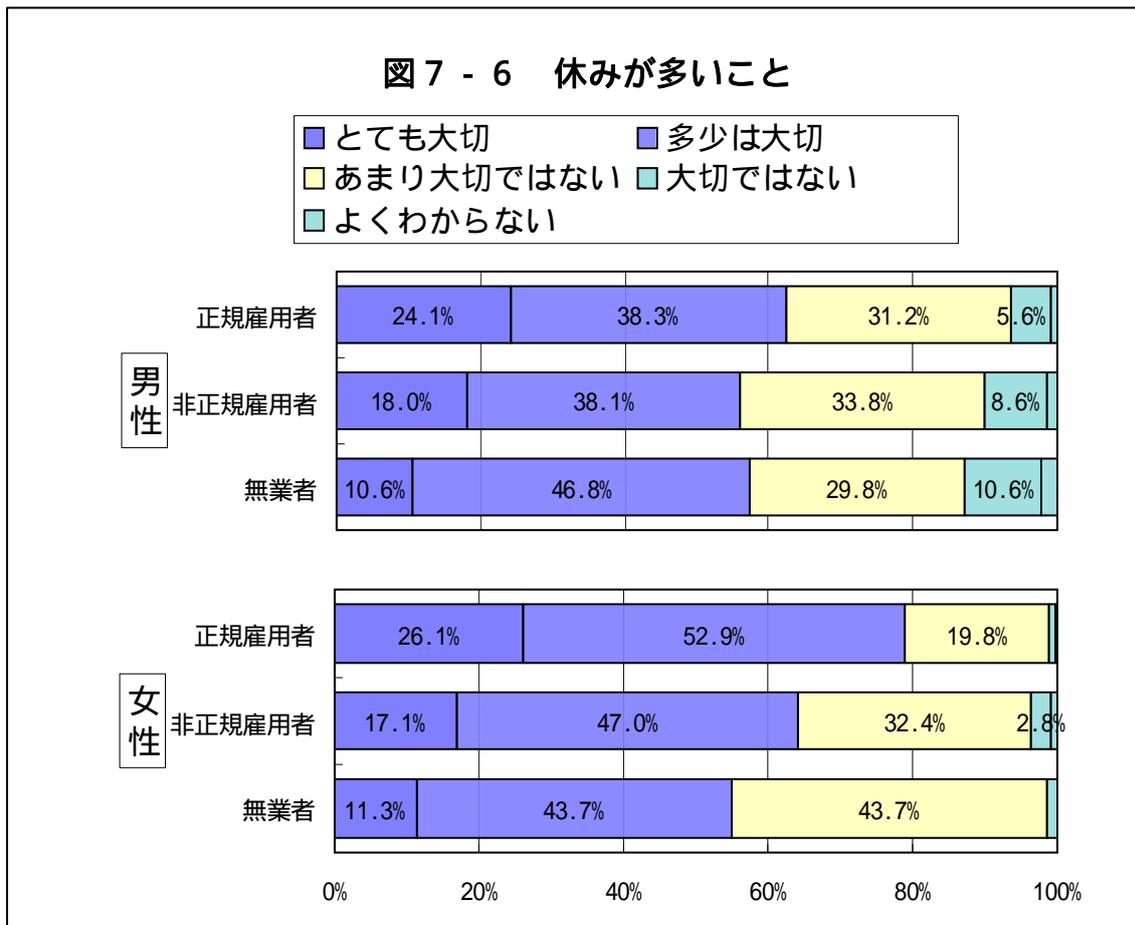
女性の場合、「給料が高いこと」を大切と答えた人の割合は、正規雇用者が89.5%、非正規雇用者が87.8%、無業者が74.6%となっている。女性に関しては、「給料が高いこと」を大切と答えた人の割合は、正規雇用者・非正規雇用者において高い。



(6) 休みが多いこと

「休みが多いこと」を大切と答えた人の割合は、男性の正規雇用者が 62.4%、非正規雇用者が 56.1%、無業者が 57.4%となっている。

女性の場合、「休みが多いこと」を大切と答えた人の割合は、正規雇用者が 79.0%、非正規雇用者が 64.1%、無業者が 55.0%となっている。女性に関しては、「休みが多いこと」を大切と答えた人の割合は、正規雇用者において高い。

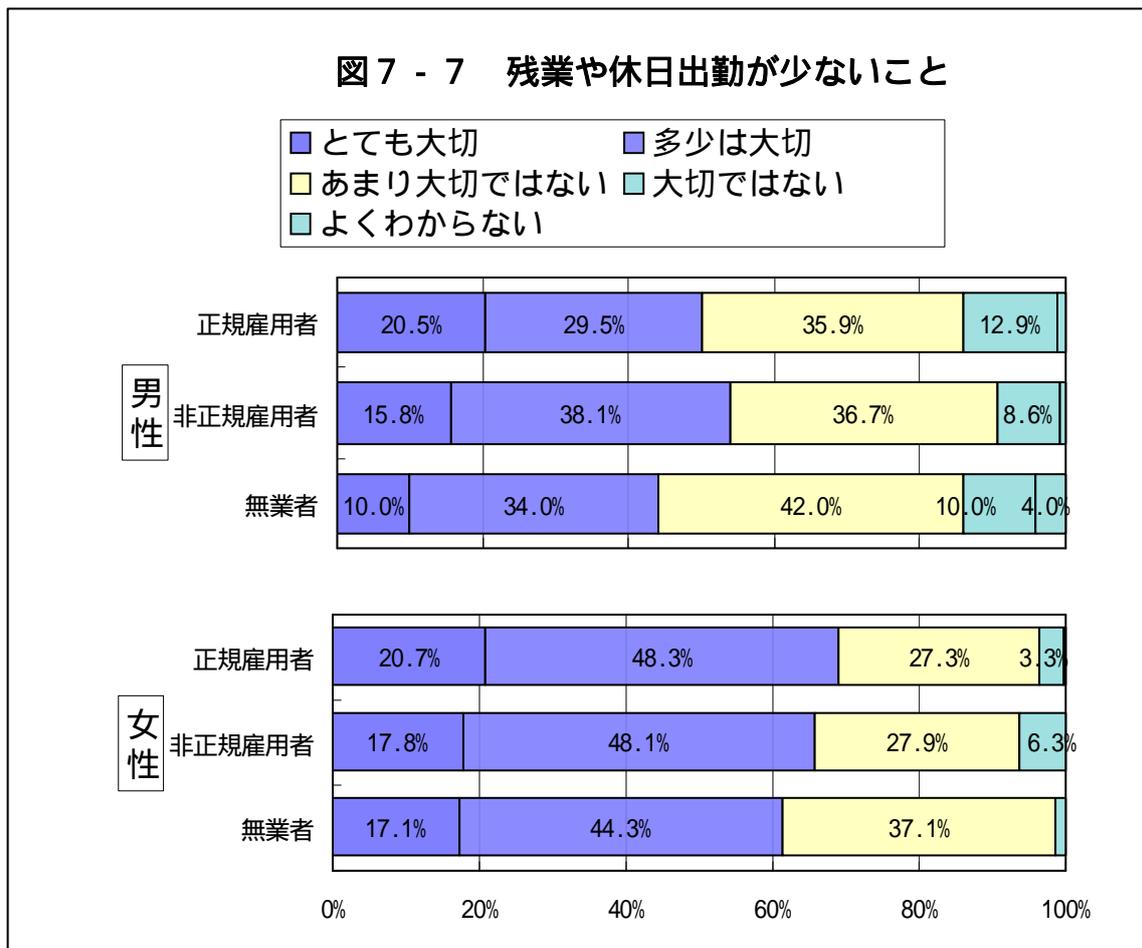


(7) 残業や休日出勤が少ないこと

「残業や休日出勤が少ないこと」を大切と答えた人の割合は、男性の正規雇用者が50.0%、非正規雇用者が53.9%、無業者が44.0%となっている。

女性の場合、「残業や休日出勤が少ないこと」を大切と答えた人の割合は、正規雇用者が69.0%、非正規雇用者が65.9%、無業者が61.4%となっている。

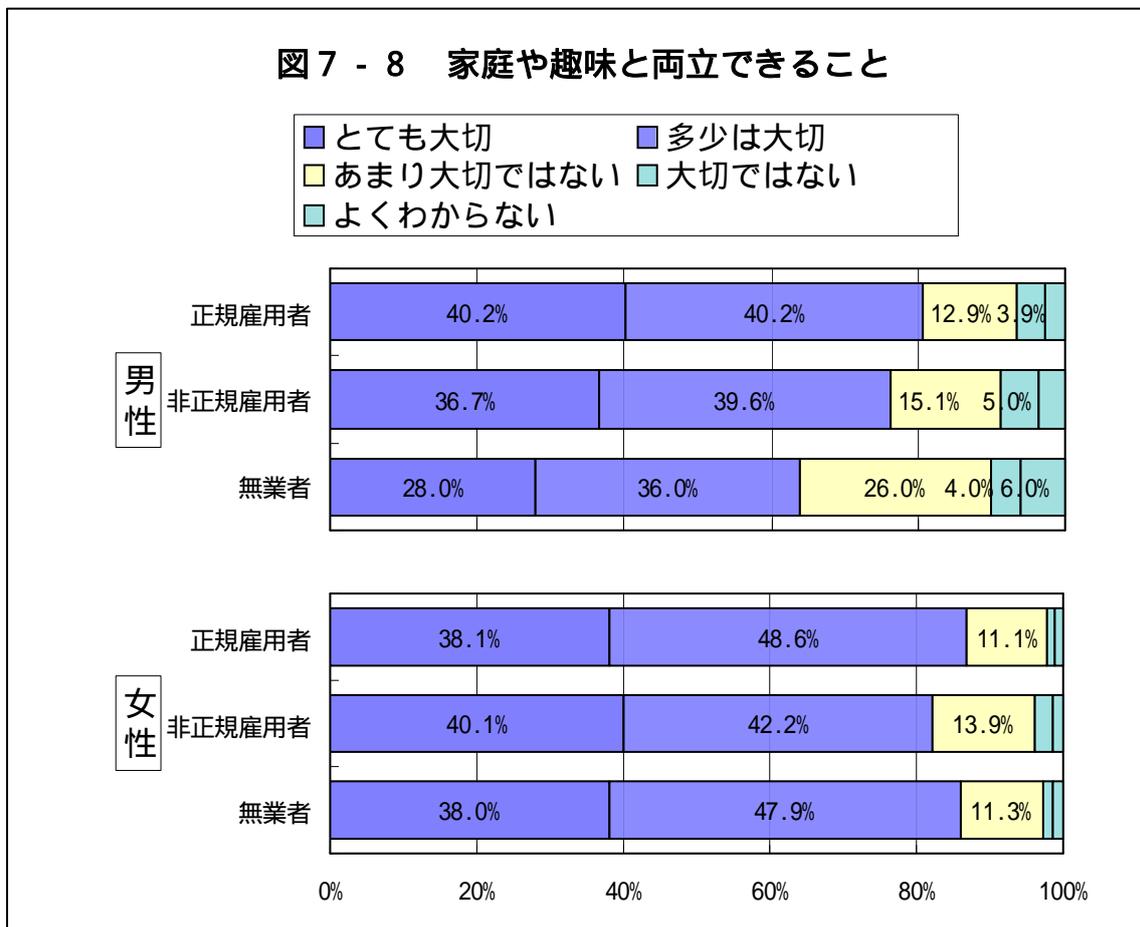
男女とも、「残業や休日出勤が少ないこと」を大切と答えた人の割合は、正規雇用者・非正規雇用者において高い。



(8) 家庭や趣味と両立できること

「家庭や趣味と両立できること」を大切と答えた人の割合は、男性の正規雇用者が80.4%、非正規雇用者が76.3%、無業者が64.0%となっている。男性に関しては、「家庭や趣味と両立できること」を大切と答えた人の割合は、正規雇用者・非正規雇用者において高い。

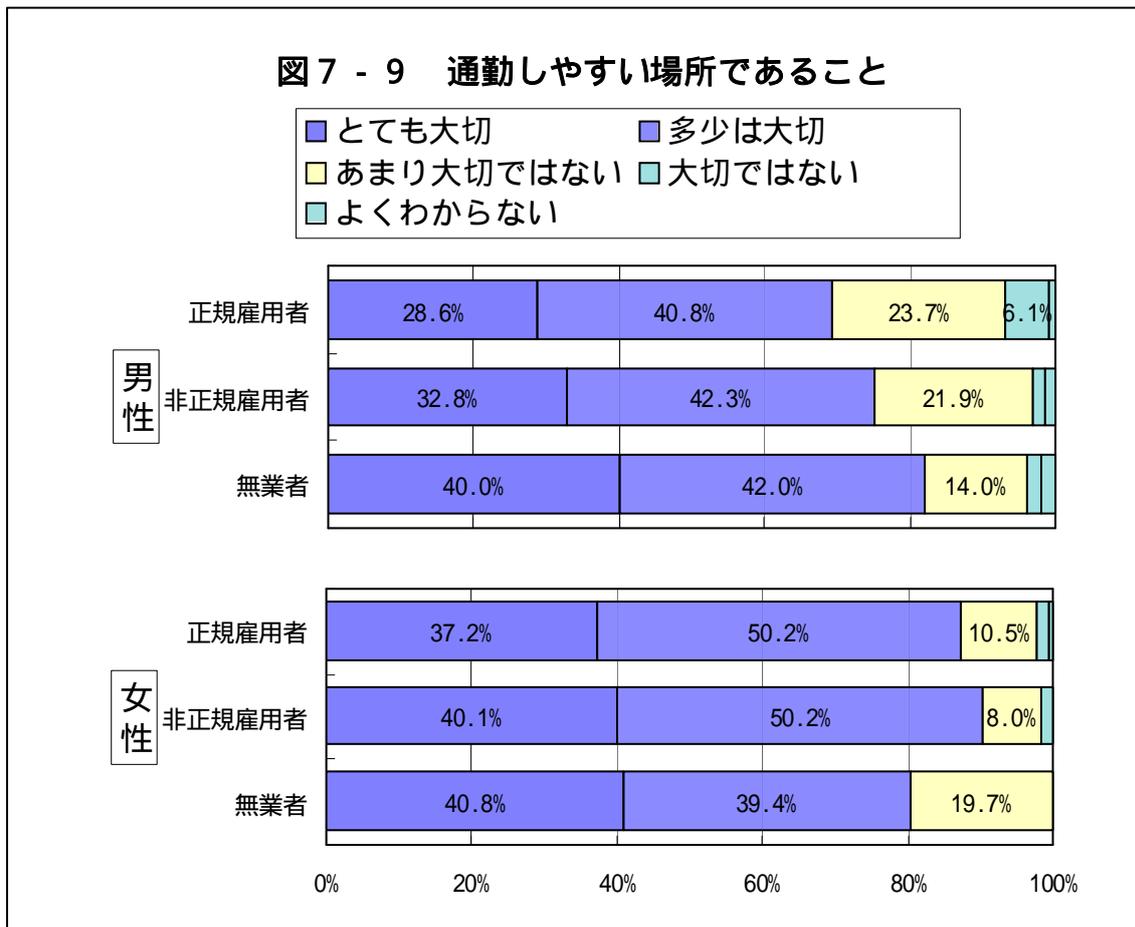
女性の場合、「家庭や趣味と両立できること」を大切と答えた人の割合は、正規雇用者が86.7%、非正規雇用者が82.3%、無業者が85.9%となっている。女性に関しては、いずれの雇用形態においても8割以上が「家庭や趣味と両立できること」を大切と答えている。



(9) 通勤しやすい場所であること

「通勤しやすい場所であること」を大切と答えた人の割合は、男性の正規雇用者が69.4%、非正規雇用者が75.1%、無業者が82.0%となっている。男性に関しては、「通勤しやすい場所であること」を大切と答えた人の割合は、無業者において高い。

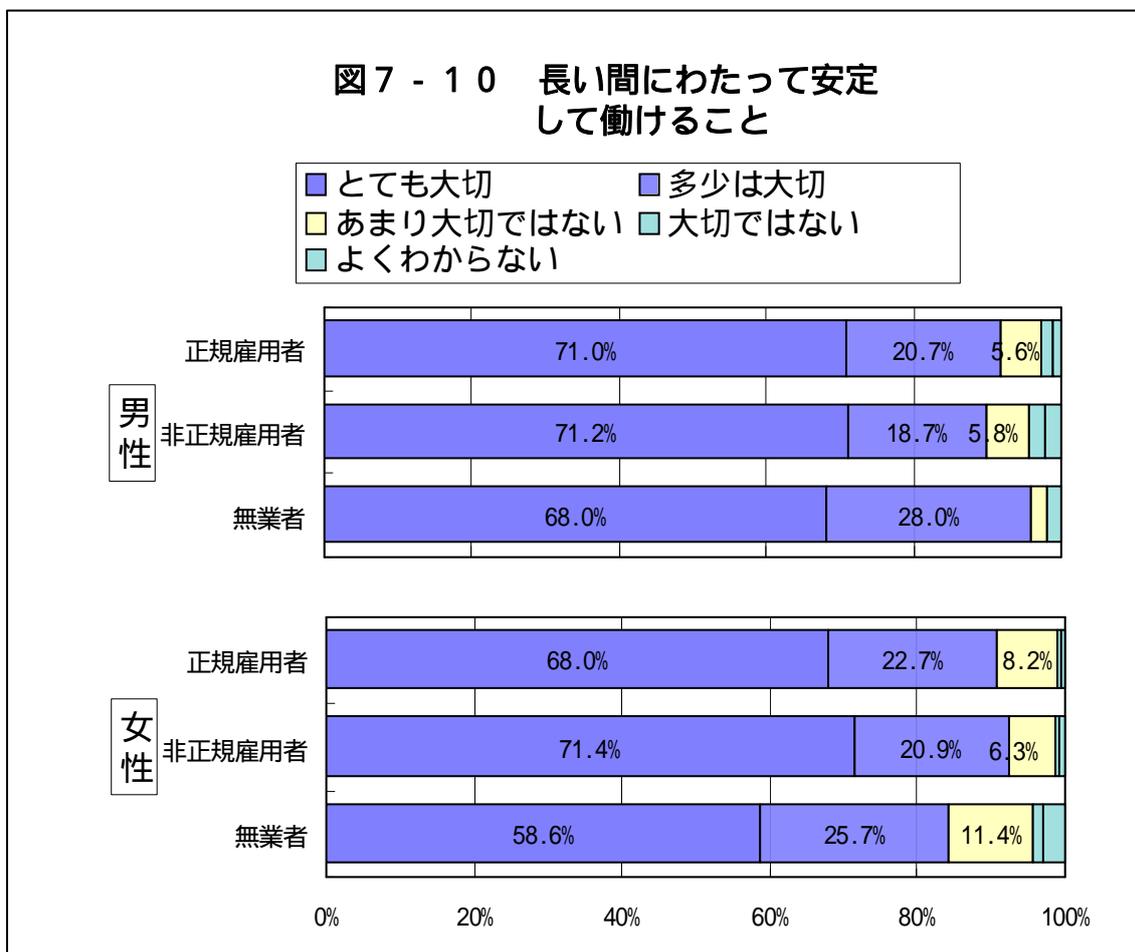
女性の場合、「通勤しやすい場所であること」を大切と答えた人の割合は、正規雇用者が87.4%、非正規雇用者が90.3%、無業者が80.2%となっている。女性に関しては、「通勤しやすい場所であること」を大切と答えた人の割合は、正規雇用者・非正規雇用者において高い。



(10) 長い間にわたって安定して働けること

「長い間にわたって安定して働けること」を大切と答えた人の割合は、男性の正規雇用者が91.7%、非正規雇用者が89.9%、無業者が96.0%となっている。男性に関しては、「長い間にわたって安定して働けること」を大切と答えた人の割合は、無業者において高い。

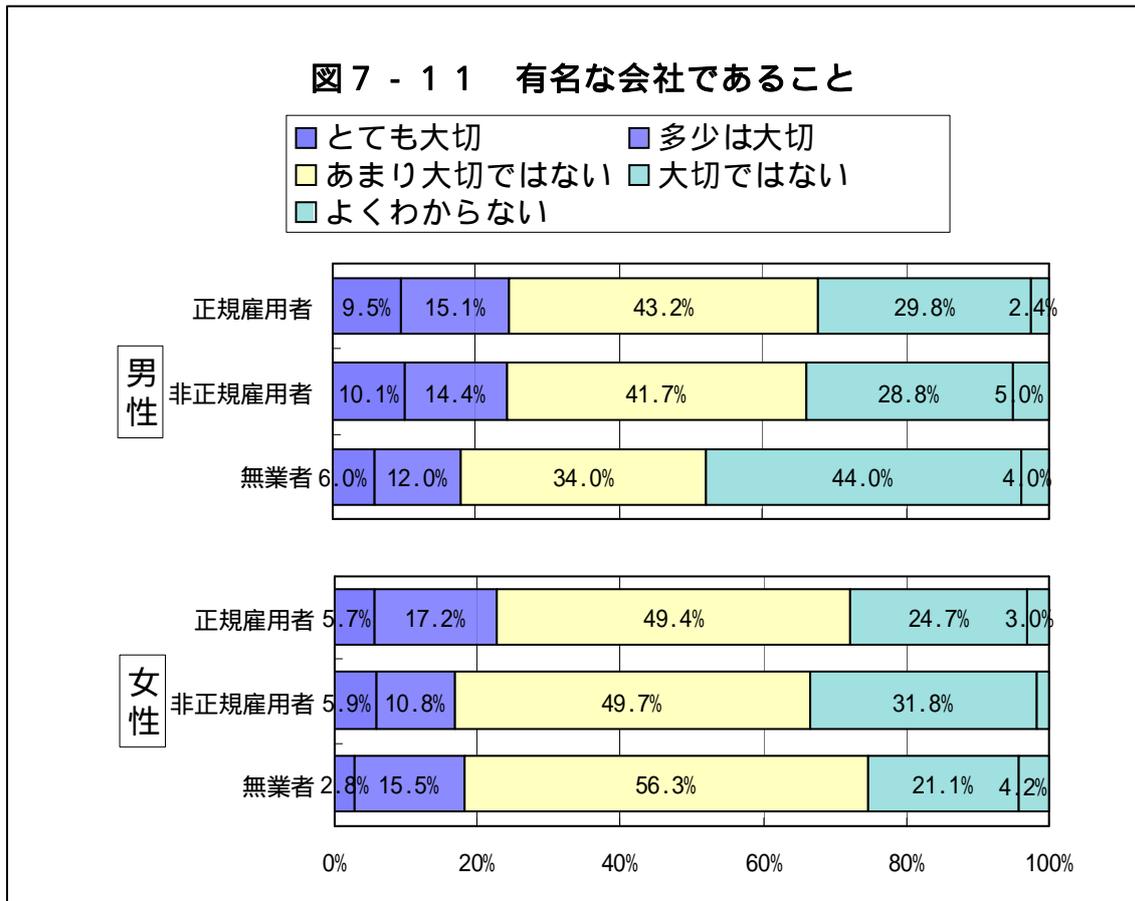
女性の場合、「長い間にわたって安定して働けること」を大切と答えた人の割合は、正規雇用者が90.7%、非正規雇用者が92.3%、無業者が84.3%となっている。女性に関しては、「長い間にわたって安定して働けること」を大切と答えた人の割合は、正規雇用者・非正規雇用者において高い。



(11) 有名な会社であること

「有名な会社であること」を大切と答えた人の割合は 男性の正規雇用者が 24.6% , 非正規雇用者が 24.5% , 無業者が 18.0% となっている。

女性の場合, 「有名な会社であること」を大切と答えた人の割合は, 正規雇用者が 22.9% , 非正規雇用者が 16.7% , 無業者が 18.3% となっている。

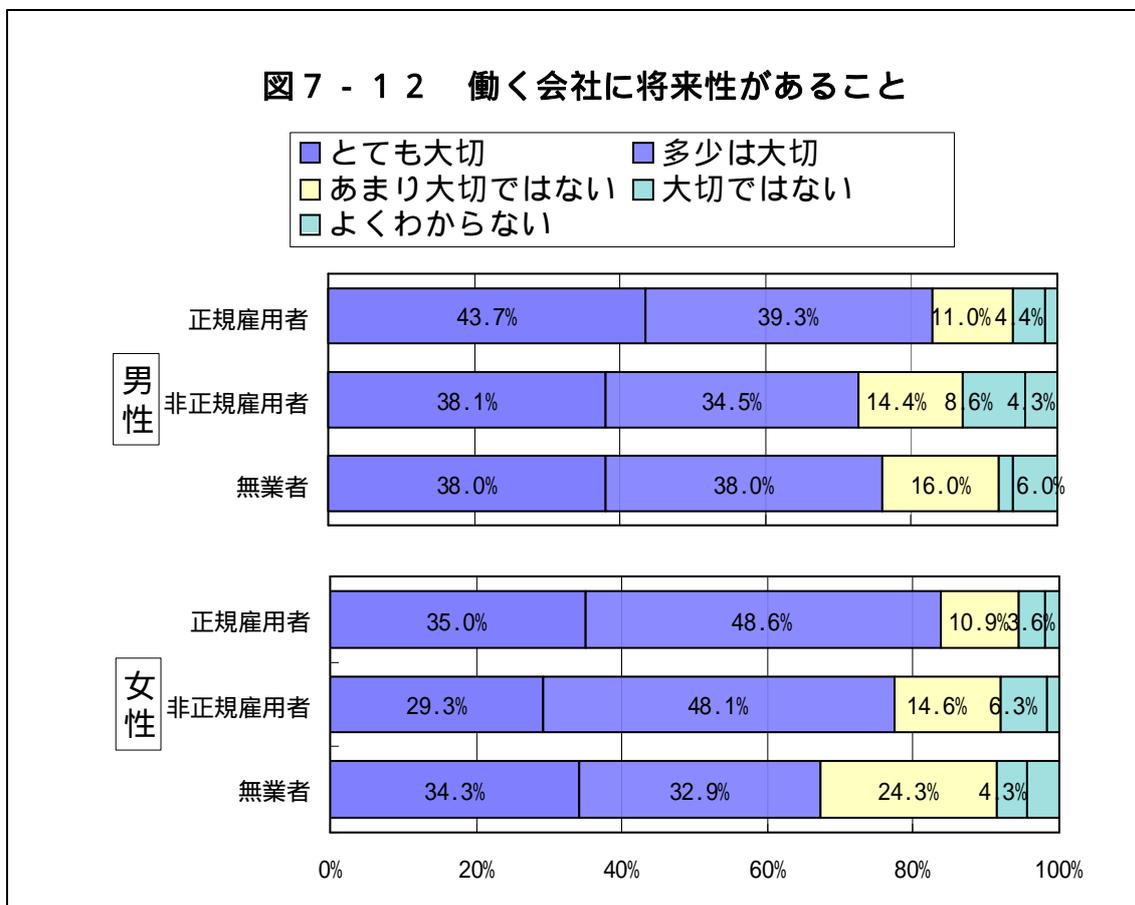


第2章 調査の結果と分析

(12) 働く会社に将来性があること

「働く会社に将来性があること」を大切と答えた人の割合は、男性の正規雇用者が83.0%、非正規雇用者が72.6%、無業者が76.0%となっている。男性に関しては、「働く会社に将来性があること」を大切と答えた人の割合は、正規雇用者・無業者において高い。

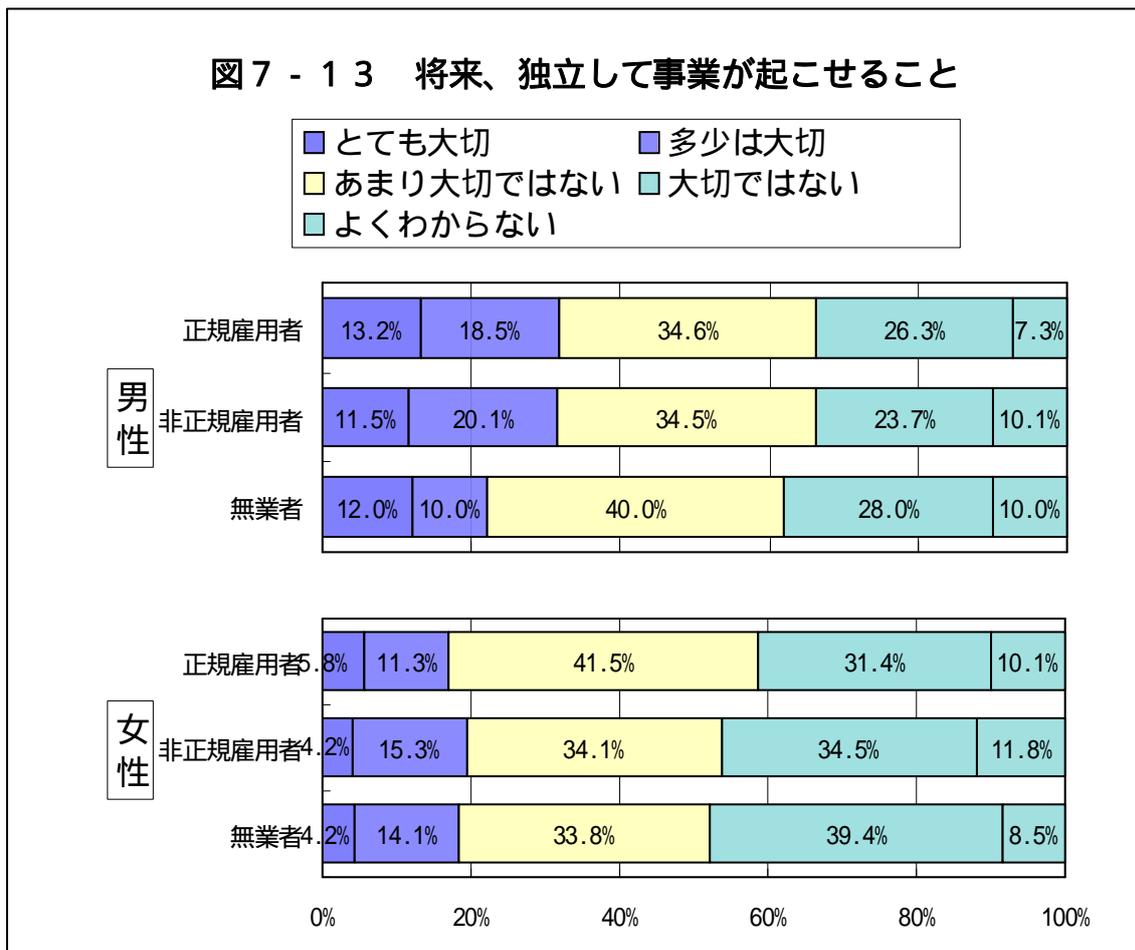
女性の場合、「働く会社に将来性があること」を大切と答えた人の割合は、正規雇用者が83.6%、非正規雇用者が77.4%、無業者が67.2%となっている。女性に関しては、「働く会社に将来性があること」を大切と答えた人の割合は、正規雇用者・非正規雇用者において高い。



(13) 将来、独立して事業が起こせること

「将来、独立して事業が起こせること」を大切と答えた人の割合は、男性の正規雇用者が31.7%、非正規雇用者が31.6%、無業者が22.0%となっている。男性に関しては、「将来、独立して事業が起こせること」を大切と答えた人の割合は、正規雇用者・非正規雇用者において高い。

女性の場合、「将来、独立して事業が起こせること」を大切と答えた人の割合は、正規雇用者が17.1%、非正規雇用者が19.5%、無業者が18.3%となっている。

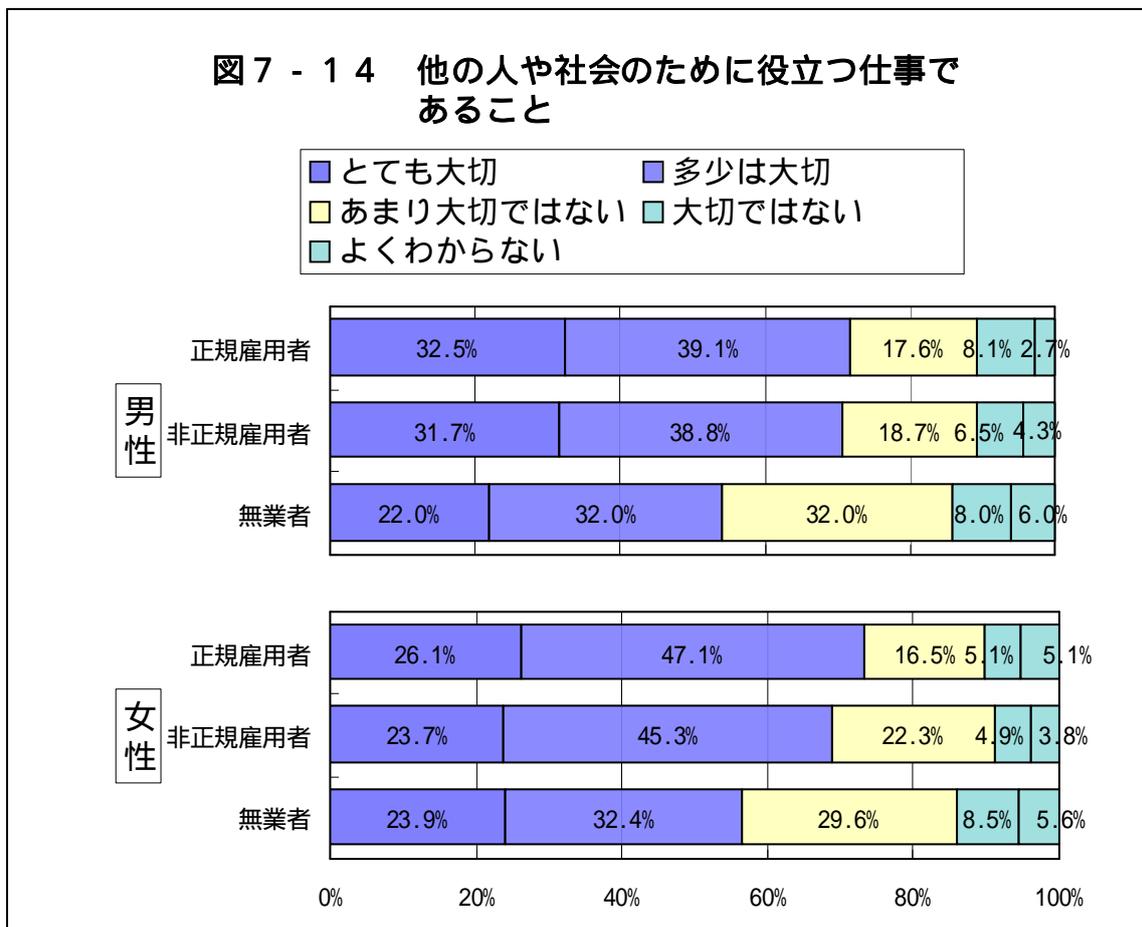


(14) 他の人や社会のために役立つ仕事であること

「他の人や社会のために役立つ仕事であること」を大切と答えた人の割合は、男性の正規雇用者が71.6%、非正規雇用者が70.5%、無業者が54.0%となっている。

女性の場合、「他の人や社会のために役立つ仕事であること」を大切と答えた人の割合は、正規雇用者が73.2%、非正規雇用者が69.0%、無業者が56.3%となっている。

男女とも、「他の人や社会のために役立つ仕事であること」を大切と答えた人の割合は、無業者において低い。

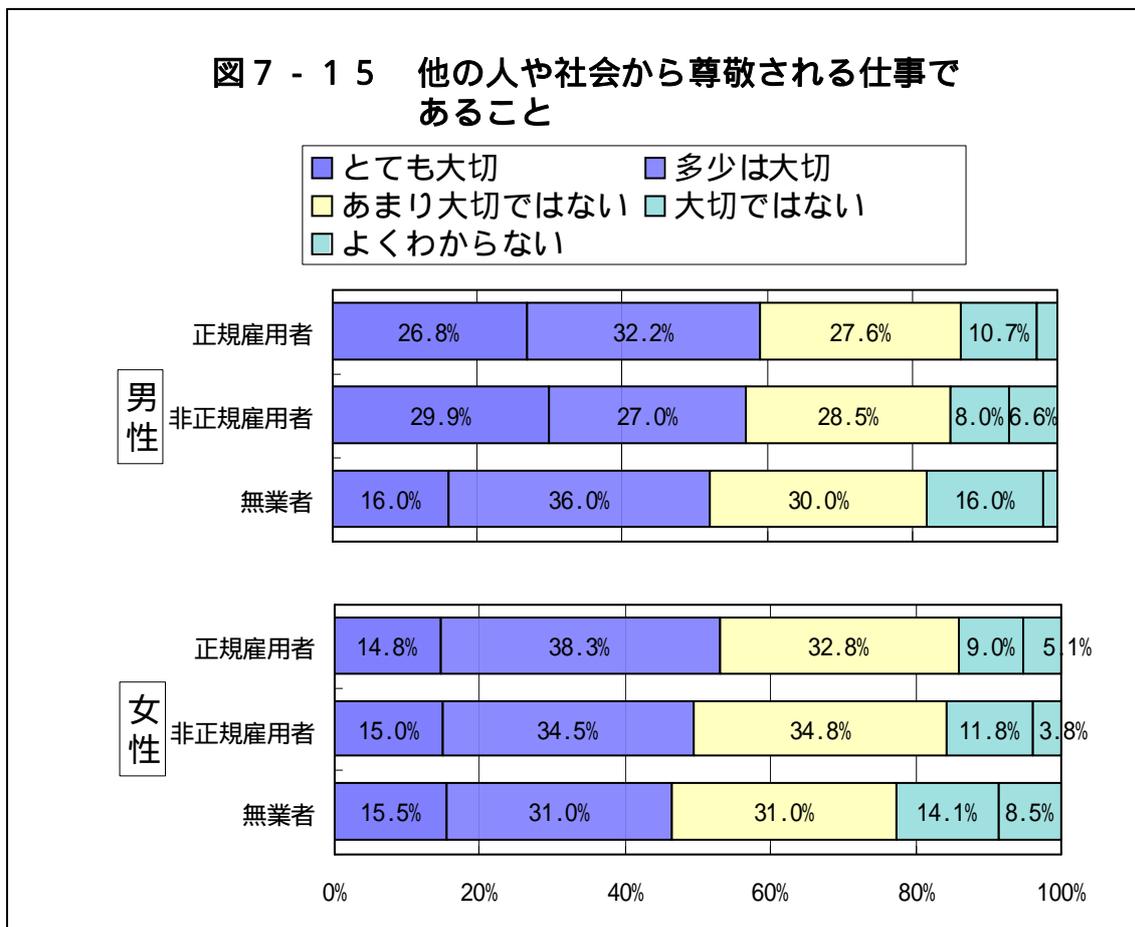


(15) 他の人や社会から尊敬される仕事であること

「他の人や社会から尊敬される仕事であること」を大切と答えた人の割合は、男性の正規雇用者が59.0%、非正規雇用者が56.9%、無業者が52.0%となっている。

女性の場合、「他の人や社会から尊敬される仕事であること」を大切と答えた人の割合は、正規雇用者が53.1%、非正規雇用者が49.5%、無業者が46.5%となっている。

男女とも、「他の人や社会から尊敬される仕事であること」を大切と答えた人の割合は、無業者において低い。



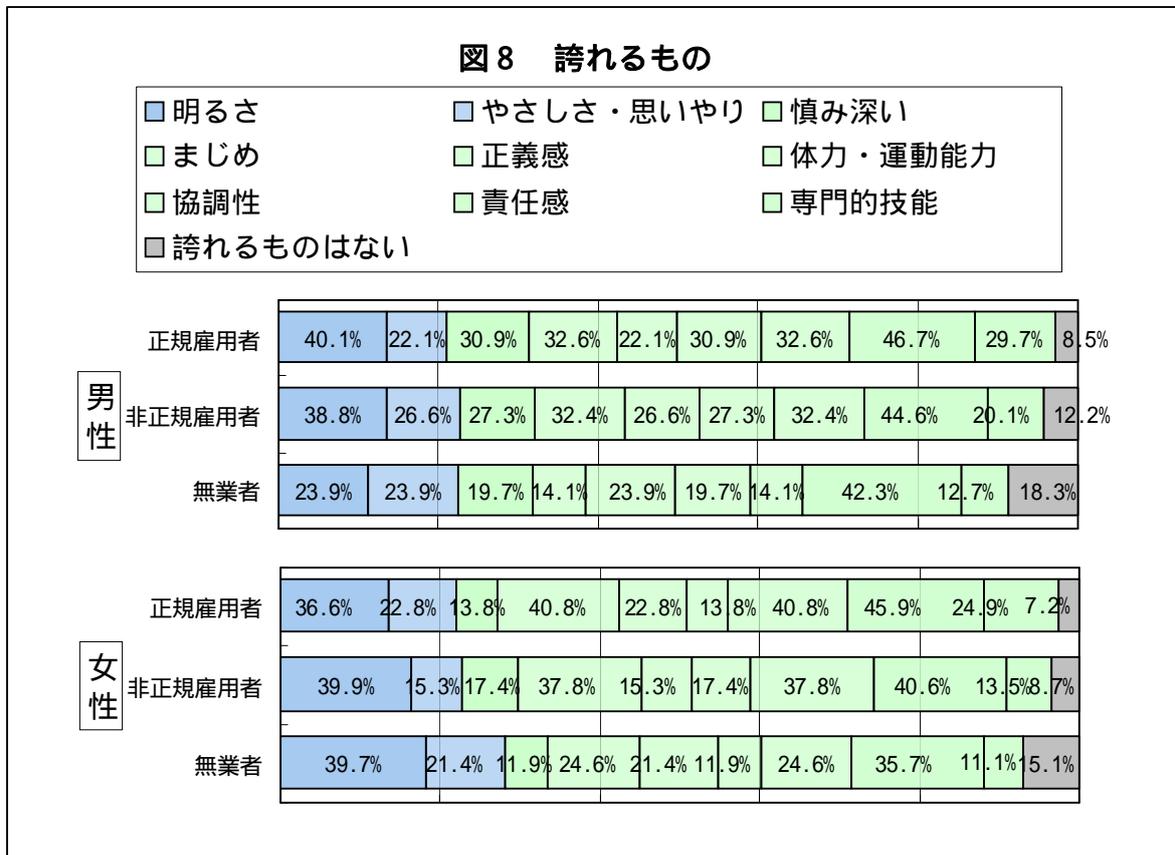
8 誇れるもの

誇れるものを複数回答で求め、差のみられた項目について取り上げている。

男性の場合、「明るさ」、「慎み深さ」、「まじめ」、「体力・運動能力」、「協調性」、「専門的技能」を誇れると答えた人の割合は、いずれも正規雇用者と非正規雇用者において高く、無業者との間に差がみられる。ほとんどの項目において、正規雇用者と非正規雇用者の間に差はみられない。「専門的技能」と答えた人の割合は、正規雇用者は29.7%、非正規雇用者が20.1%、無業者12.7%となっており、正規雇用者において高い。

女性の場合も、男性と同様、「専門的技能」に関しては、正規雇用者が24.9%、非正規雇用者が13.5%、無業者が11.1%となっており、正規雇用者においてその割合が高い。「まじめ」、「協調性」、「責任感」を誇れると答えた人の割合は、いずれも正規雇用者と非正規雇用者において高く、無業者との間に差がみられる。一方、「やさしさ・思いやり」、「正義感」に関しては、正規雇用者と無業者においてその割合が高く、非正規雇用者において低い。

男女とも、「まじめ」、「協調性」を誇れると答えた無業者の割合は、正規雇用者・非正規雇用者の半分程度となっている。「誇れるものはない」と答えた人の割合は、正規雇用者・非正規雇用者に比べ、無業者において高い。



第3章 考察

本章では、生活体験と職業生活について、正規雇用者・非正規雇用者・無業者の比較を中心に行った基本的な分析の結果を考察し、本県における今後のキャリア教育の在り方や若年層のキャリア形成支援に関する生涯学習振興関連施策の方向性を検討していく。

1 正規雇用者の傾向

(1) 職業生活について

男性の正規雇用者は、最終学歴を「短期大学・高専」又は「大学・大学院」と答えた人の割合が高い。初職の雇用形態は、8割が「正規雇用者」である。初職の就職方法に関しては、学校の先生や就職部（進路指導部）を通して就職したと答えた人の割合が5割と高い。しかし、正規雇用者として初職についても、1割が「3ヶ月以内」、3割が「1年以内」、そして7割が「3年以内」に初職を離職している。「3ヶ月以内」で離職したと答えた人の割合は、非正規雇用者・無業者の約半分の割合であるものの、早期離職に至った割合の高さは、正規雇用者も例外ではない。「今も同じ勤め先で働いている」と答えた人は2人に1人となっている。次の仕事につくまでの期間は短く、「3ヶ月以内」に7割が次の仕事についている。次の仕事も7割が「正規雇用者」である。しかし、5割が「すぐにでも転職したい」又は「よい仕事があれば転職したい」と考えている。

女性の正規雇用者の場合も、男性の正規雇用者と同様、最終学歴を「短期大学・高専」又は「大学・大学院」と答えた人の割合が高い。初職の雇用形態は、8割が「正規雇用者」である。7割が「3年以内」に初職を離職してしまい、「今も同じ勤め先で働いている」と答えた人は2人に1人となっている。「3ヶ月以内」に7割が次の仕事についており、次の仕事も6割が「正規雇用者」であるものの、5割が「すぐにでも転職したい」又は「よい仕事があれば転職したい」と考えている。

男女とも正規雇用者は、最終学歴を「短期大学・高専」又は「大学・大学院」と答えた人の割合が高い。初職の雇用形態は、「正規雇用者」である割合が高い。男女とも7割が「人間関係がうまくいかなかった」、「勤務時間が不規則」等の理由で3年以内に初職を離職しているが、「他にやりたい仕事が見つかった」という前向きな離職理由が上位に含まれることが正規雇用者の特徴でもある。次の仕事も「正規雇用者」である割合が高く、初職が「正規雇用者」の場合、次の仕事も「正規雇用者」となる割合が高い傾向にある。

(2) 生活体験について

小学生期の生活体験についてみると、男性の正規雇用者の場合、「ボランティア体験」、「職業・就業体験」、「異年齢交流体験」が「ある」と答えた人の割合が高い。また「約束ごとを守ること」や「自分の役割を果たすこと」などの生活体験が非正規雇用者・無業者に比べて多い傾向にある。女性の正規雇用者の場合、生活体験において非正規雇用者との差はほとんどみられない。しかし、無業者と比べると、「ボランティア体験」、「職業・就業体験」、「異年齢交流体験」が「ある」と答えた人の割合が高い。また、「習いごと」を「していた」と答えた人の割合も高くなっている。

中学生期の生活体験については、男性の正規雇用者の場合、「学校行事・生徒会活動」に仲間と協力して「取り組んでいた」、「部活動」に「熱心に参加していた」と答えた人の割合がかなり高い。女性の正規雇用者の場合も、「学校行事・生徒会活動」に仲間と協力して「取り組んでいた」と答えた人、「部活動」に「熱心に参加していた」と答えた人の割合がかなり高くなっている。

高校生期の生活体験については、男性の正規雇用者の場合、「仲の良い友達」が「いた」と答えた人の割合が高い。また、「学校行事・生徒会活動」に仲間と協力して「取り組んでいた」と答えた人の割合もかなり高い。「部活動」に関しても、「熱心に参加していた」と答えた人の割合は非正規雇用者とは変わらないものの、無業者と比べると非常に高く、「参加していない」と答えた人の割合が低い。女性の正規雇用者の場合も、「仲の良い友達」が「いた」と答えた人の割合が高い。また、「職業・就業体験」が「ある」と答えた人、「学校行事・生徒会活動」に仲間と協力して「取り組んでいた」と答えた人、「部活動」に「熱心に参加していた」と答えた人の割合も高くなっている。

総じて正規雇用者は、非正規雇用者・無業者に比べ、小学生期からの生活体験が多い傾向にある。つまり、生活体験が職業生活と密接につながり、その後の職業生活に大きな影響を及ぼしているということが分かる。

2 非正規雇用者の傾向

(1) 職業生活について

男性の非正規雇用者は、最終学歴を「中学校」と答えた人の割合が高く、無業者とは差がみられないものの、正規雇用者と比べると、その割合は2倍にのぼる。初職の雇用形態は、「非正規雇用者」である。正規雇用者の5割が学校の先生や就職部（進路指導部）を通して就職しているのに対し、非正規雇用者は無業者とともに学校の先生や就職部（進路指導部）を通して就職したと答えた人の割合が正規雇用者の約6割にとどまり、親戚や親の紹介による就職の割合が高い傾向にある。就職しても2割が「3ヶ月以内」、5割が「1年以内」、そして7割が「3年以内」に初職を離職している。「今も同じ勤め先で働いている」と答えた人は4人に1人しかいない。次の仕事につくまでの期間は正規雇用者より長いものの、無業者に比べて短く、「3ヶ月以内」に7割が次の仕事に

ついている。しかし、次の仕事も7割が「非正規雇用者」である。「すぐにでも転職したい」又は「よい仕事があれば転職したい」と答えた正規雇用者が5割なのに対し、非正規雇用者は8割にのぼる。

女性の非正規雇用者の場合、最終学歴を「中学校」、「高等学校」と答えた人の割合が高く、「短期大学・高専」又は「大学・大学院」と答えた人の割合が低い。初職の雇用形態は5割が「非正規雇用者」で、正規雇用者はもちろんのこと、その割合は無業者よりも高い。7割が「3年以内」に初職を離職し、「今も同じ勤め先で働いている」と答えた人は5人に1人しかいない。「3ヶ月以内」に次の仕事についた人は5割いるものの、「1年以上」の期間を要している人の割合も高い。次の仕事も8割が「非正規雇用者」である。6割が「すぐにでも転職したい」又は「よい仕事があれば転職したい」と考えている。

男女とも非正規雇用者は、最終学歴を「中学校」と答えた人の割合が高く、「短期大学・高専」又は「大学・大学院」と答えた人の割合が低い。初職の雇用形態は、「非正規雇用者」である割合が高い。7割が「人間関係がうまくいかなかった」、「仕事がつまらない、向いていない」、「勤務時間が不規則」等の理由で3年以内に初職を離職している。次の仕事が「正規雇用者」になるケースは多くはなく、初職が「非正規雇用者」の場合は、次の仕事も「非正規雇用者」となる割合が高い傾向にある。

(2) 生活体験について

非正規雇用者の生活体験は、概ね無業者に比べて多く、正規雇用者に比べてわずかに少ない傾向にある。以下、非正規雇用者の生活体験についてはこの傾向を反映しており、正規雇用者との比較の結果を中心に述べている。例外的な場合にのみ、その都度説明を加える。

小学生期の生活体験についてみると、男性の非正規雇用者の場合、「ボランティア体験」、「職業・就業体験」、「異年齢交流体験」が「ある」と答えた人の割合がわずかに低い。また、「約束ごとを守ること」や「自分の役割を果たすこと」などの生活体験についても同様である。「習いごと」を「していた」と答えた人の割合は正規雇用者に加えて無業者よりも低くなっている。女性の非正規雇用者の場合、生活体験において正規雇用者との差はほとんどみられないが、無業者と比べると「ボランティア体験」、「職業・就業体験」、「異年齢交流体験」が「ある」と答えた人の割合が高い。「習いごと」を「していた」と答えた人の割合はわずかに低い傾向にある。

中学生期の生活体験については、男性の非正規雇用者の場合、「仲の良い友達」が「いた」と答えた人の割合は、正規雇用者とともに・無業者に比べて高い。一方、「何でも話せる先生」が「いた」と答えた人の割合は正規雇用者に比べて低くなっている。「学校行事・生徒会活動」に関しては、仲間と協力して「取り組んでいた」、「部活動」に関しては、熱心に「参加していた」と答えた人の割合がわずかに低い。女性の非正規雇用者の場合、「仲の良い友達」、「何でも話せる先生」が「いた」と答えた人の割合が

わずかに低い。「学校行事・生徒会活動」に仲間と協力して「取り組んでいた」と答えた人、「部活動」に「熱心に参加していた」と答えた人の割合も低い。

高校生期の生活体験については、男性の非正規雇用者の場合、「仲の良い友達」が「いた」と答えた人の割合がわずかに低く、「学校行事・生徒会活動」に仲間と協力して「取り組んでいた」と答えた人の割合も低い。「部活動」に関しては、「熱心に参加していた」と答えた人の割合は正規雇用者と変わらないものの、「参加していない」と答えた人の割合がわずかに高い。女性の非正規雇用者の場合、「職業・就業体験」が「ある」と答えた人の割合が低い。また、「学校行事・生徒会活動」に関しては、仲間と協力して「取り組んでいた」と答えた人の割合も低い。「部活動」に関しても、「熱心に参加していた」と答えた人の割合が低く、一方「参加していない」と答えた人の割合が高い。

非正規雇用者の生活体験は、概ね無業者に比べて多く、正規雇用者に比べてわずかに少ない傾向がみられることは先にも述べたが、性別・時期により若干傾向が異なるものの、全体的な傾向としては、非正規雇用者は、無業者より正規雇用者に近く、年齢が下がるほどその傾向が大きい。正規雇用者との間にみられる一つ一つの生活体験における差は必ずしも大きなものではないものの、そのわずかな生活体験の差の積み重ねが、その後の職業生活に大きな影響を及ぼしている。

3 無業者の傾向

(1) 職業生活について

男性の無業者は、最終学歴を「中学校」と答えた人の割合が高く、また一方で、最終学歴を「短期大学・高専」又は「大学・大学院」と答えた人の割合も高い傾向にある。高学歴者が含まれるため、正規雇用者と同様、初職の雇用形態が「正規雇用者」と答えた人の割合が非正規雇用者に比べて高い。しかし、正規雇用で採用されたとしても、2割が「3ヶ月以内」、6割が「1年以内」、そして8割が「3年以内」に初職を離職している。次の仕事につくまでの期間が長く、「1年以上」の期間を要した人の割合は非正規雇用者の2倍、正規雇用者の3倍にのぼる。次の仕事の雇用形態は初職と同様、「正規雇用者」である割合が高い。しかし、「次の仕事にすぐに（一週間以内）についた」と答えた人の割合が極端に低く、5割が6ヶ月以上の期間を要していることから、次の仕事を見つけてから離職するのではなく、まず離職してしまうというケースが多いものと思われる。したがって、すぐに仕事が見つかるケースは少なく、その結果長い期間を要するようになる、あるいはそのまま無業化するといった傾向も一部見られる。無職になってからの期間が「1年以上」の人が7割もいる。9割が「すぐにでも働きたい」、あるいは「よい仕事があれば働きたい」と働く意志は持っているが、現在求職活動をしていると答えた人は7割しかいない。4割が「専門・技術職」、1割が「公務員」を希望しているが、希望する仕事にはなかなか結びつかない。

女性の無業者は、最終学歴を「中学校」と答えた人の割合が高く、また一方で、最終学歴を「短期大学・高専」又は「大学・大学院」と答えた人の割合も高い。非正規雇用

者はもちろんのこと、男性の正規雇用者よりも高学歴者の含まれる割合が高いのが特徴である。したがって、初職の雇用形態が「正規雇用者」である割合が高い。8割が3年以内に初職を離職してしまうのは正規雇用者や非正規雇用者と同様である。しかし、次の仕事につくまでの期間が短く、「3か月以内」と答えた人の割合が7割と正規雇用者・非正規雇用よりも高い点が非常に特徴的である。男性の無業者と同様、次の仕事の雇用形態も「正規雇用者」である割合が高い。働く意志のある人は8割いるが、「働くつもりはない」と答えた人も1割いる。希望する仕事内容は「何でもよい」としながらも、現在求職活動をしている人は5割と少ない。

男女とも無業者は、最終学歴を「中学校」と答えた人の割合が高く、また一方で、最終学歴を「短期大学・高専」又は「大学・大学院」と答えた人の割合も高い。初職が「正規雇用者」である場合が少なくないが、離職に至るまでの期間が特に短く、男性の6割、女性の5割が「人間関係がうまくいかなかった」、「仕事がつまらない、向いていない」、「勤務時間が不規則だった」等の理由で1年以内に初職を離職している。次の仕事が「正規雇用者」であるケースは正規雇用者の6割には及ばないものの、非正規雇用者に比べて「正規雇用者」になりうる機会が多い。

(2) 生活体験について

小学生期の生活体験についてみると、男性の無業者の場合、「ボランティア体験」、「職業・就業体験」、「異年齢交流体験」が「ある」と答えた人の割合が正規雇用者・非正規雇用者に比べて極端に低い。「自分の役割を果たす」ことについても同様である。また、非正規雇用者が正規雇用者と大きな違いがなかったのに対し、「挨拶をすること」、「約束ごとを守ること」等、多くの点で「していない」、「守っていない」と答えた人の割合が高いことが目立つ。女性の無業者の場合も「ボランティア体験」、「職業・就業体験」、「異年齢交流体験」が「ある」と答えた人の割合が低い。また、「習いごと」を「していた」と答えた人の割合も低い。

中学生期の生活体験については、男性の無業者の場合、「仲の良い友達」、「何でも話せる先生」が「いた」と答えた人の割合が正規雇用者・非正規雇用者に比べて低く、すでに学校生活における人間関係が希薄な様子がうかがえる。「ボランティア体験」、「職業・就業体験」が「ある」と答えた人の割合も正規雇用者・非正規雇用者に比べてわずかに低い。「学校行事・生徒会活動」に関しては、仲間と協力して「取り組んでいた」と答えた人の割合がかなり低い。更に「部活動」に関しても、「熱心に参加していた」と答えた人の割合がかなり低く、「熱心ではないが参加していた」と答えた人の割合が高い。「参加していない」と答えた人の割合は非正規雇用者の3倍、正規雇用者の4倍にのぼる。女性の無業者の場合、正規雇用者に比べて「仲の良い友達」が「いた」と答えた人の割合は非正規雇用者とともに低い。「職業・就業体験」に関しては、「ある」と答えた人の割合が正規雇用者・非正規雇用者に比べてわずかに低い。「学校行事・生徒会活動」に関しては、仲間と協力して「取り組んでいた」と答えた人の割合がかな

り低い。「部活動」に関しても、男性の無業者と同様、「熱心に参加していた」と答えた人の割合がかなり低く、「参加していない」と答えた人の割合が高い。

高校生期の生活体験については、男性の無業者の場合、「仲の良い友達」が「いた」と答えた人の割合が正規雇用者・非正規雇用者に比べて極端に低く、「いない」と答えた人の割合は、非正規雇用者の2倍、正規雇用者の3倍にのぼる。また、「職業・就業体験」が「ある」と答えた人の割合もかなり低い。「学校行事・生徒会活動」に関しては、非正規雇用者と差がみられないものの、正規雇用者に比べ、仲間と協力して「取り組んでいた」と答えた人の割合が低い。そして、最も大きな差がみられた「部活動」に関しては、「熱心に参加していた」と答えた人の割合が、正規雇用者・非正規雇用者が4割であるのに対し、無業者は2割と極端に低い。一方、「参加していない」と答えた人の割合は、正規雇用者の3割、非正規雇用者の4割に比べ、無業者は6割と非常に高い結果となっている。女性の無業者も、「仲の良い友達」が「いた」と答えた人の割合が正規雇用者・非正規雇用者に比べてかなり低い。また、「職業・就業体験」に関しては、非正規雇用者と差がみられないものの、正規雇用者に比べてかなり低い。「学校行事・生徒会活動」、「部活動」に関しても、仲間と協力して「取り組んでいた」、「熱心に参加していた」と答えた人の割合が正規雇用者・非正規雇用者に比べて低く、逆に「取り組んでいない」、「参加していない」と答えた人の割合がかなり高い。

総じて、男女とも無業者は、正規雇用者・非正規雇用者に比べ、いずれの時期においても生活体験が少ない。特に、正規雇用者との差は歴然としており、生活体験がいかにその後の職業生活に大きな影響を与えているかということが分かる。

4 中長期的なキャリア教育の在り方について

(1) 社会教育におけるキャリア教育

生活体験と雇用形態の関連についてみてきた今回の調査の結果、生活体験を通して形作られてきたその人の考え方や生き方は、職業生活の中で一つの傾向となって現れるということが明らかとなった。かつての生活体験は確かに職業生活に影響すると言っていることができる。キャリア教育の一環として様々な生活体験が有効であるとする根拠を得ることができたことは大きな成果である。

小学生期の生活体験に関しては、「ボランティア体験」、「職業・就業体験」、「異年齢交流体験」において正規雇用者と非正規雇用者・無業者との間に差がみられた。中学生期に関しては、「職業・就業体験」、「学校行事・生徒会活動」への取組、「部活動」への取組において、高校生期に関しては、「仲の良い友達」の有無、「職業・就業体験」、「学校行事・生徒会活動」への取組、「部活動」への取組において正規雇用者と非正規雇用者・無業者では生活体験の有無や取組状況に差がみられる。むしろ、特定の生活体験のみが有効というわけではなく、様々な生活体験の積み重ねによって勤労観や職業観、社会性が育まれていく。また、生活体験はあくまでも手段であり、生活体験の場で「他者との関わり」を持つことが重要であることは言うまでもない。「他者との

関わり」なくして、社会で生きる力を身につけることは不可能である。

小学生期の生活体験において、雇用形態による差がみられることから明らかなように、中学生期からのキャリア教育では遅いことが分かる。「小学生期からの継続的なキャリア教育」を計画的に実施する中長期的な視点を家庭・学校・地域において共有することが大切である。しかし、「キャリア教育」がまだまだ一般社会に馴染んでいない以上、まずは子どもたちに関わる多くの人が「小学生期からの継続的なキャリア教育」の必要性を認識しなければならない。例えば各学校の進路講演会や進路指導部、県・市町村で実施される講座等で広く活躍できるキャリアカウンセラーを養成する等して、その啓蒙活動と実際の支援に今後も力を注ぎ続けなければならない。

(2) 学校教育におけるキャリア教育

正規雇用者の多くが、学校の先生や就職部（進路指導部）を通して就職していることから、各学校における進路指導の役割は大きい。本県の場合、雇用形態を問わず、男性の場合は平均 97.5%、女性の場合は 98.4%⁸⁾が高等学校に進学しているという現状を踏まえれば、高等学校における進路指導が実質的なキャリア教育の面において重視されることは言うまでもない。それゆえに学校の進路指導の在り方については様々な人が様々な指摘をする。

例えば、進学させれば終わり、就職させれば終わりといういわゆる「出口指導への偏り」がそれだ。確かに「出口」を確保することは重要である。しかし、現場の教員は誰一人としてただ「出口」を見つけて終わりだとは思っていない。通常の教科指導はもちろんのこと、学校行事や生徒会活動、部活動、講習、個別の小論文の添削や面接指導を日々繰り返し、その中で「生徒と保護者の納得のいく出口」を探っているのである。

各家庭において「職業・就業体験」をさせるということは難しい。それゆえに各学校がキャリア教育実践の場として注目されざるをえない。このような状況の中で、地域で子どもを育てる点においても、また地域とともにある学校づくりを進める点においても、保護者や地域の人々に期待される役割は大きい。現場の声を聞き、学校が求める支援の在り方を社会教育の面から今後ますます実際的かつ具体的に検討していく必要があるだろう。

学校教育においては、それがキャリア教育だとは意識されていなくても、例えば、学校行事に仲間と協力して取り組んだり、部活動に熱心に参加するという日々の生活体験の積み重ねを大切にすることが何よりも重要であり、またそれを大切にすることこそがキャリア教育の実践にほかならないのだということを強調しておきたい。

⁸⁾ 文部科学省「平成 19 年度学校基本調査」

(3) 県総合社会教育センターにおける今後の若年層キャリア形成支援

ある生徒が「尊敬する人は父」と答えた。むつ市から片道2, 3時間はかかる練習試合の会場に三年間かけつけ、陰ながら自分を見守り続けてくれた父親の姿を見てきたからである。大学生となった彼はいま父親と同じ道を目指す。しばしば問題となる若者の未熟な勤労観や職業観。そもそも最初から完璧な勤労観や職業観などあるのであろうか。本来、ロールモデル(行動のお手本・模範となる存在)が身近にいれば、勤労観や職業観は自然に養われていく。コミュニケーション能力の低下はもはや若者だけの問題ではなく、若者の側だけに意識変化や資質・能力の向上を求めて若年者の雇用問題を解決しようとする偏った視点は捨てなければならない。

最後に、今後の若年層のキャリア形成支援について注目すべき点を二つ付け加えておきたい。一つは、中学校又は高等学校卒業後、1年以内で離職した若年者への支援についてである。例えば、高等学校卒業と同時に就職した生徒が、仮に6ヶ月でその勤め先をやめてしまったとする。卒業後も相談にのってあげることはできたとしても、在学中のような実質的な援助はもはや不可能だ。すでに若者自立や就職支援などは行われているところであるが、数か月前まで中学生や高校生であった彼らの不安や問題点を取り除き、早い段階で社会へ復帰させるための取組を充実させることが、文字通り「継続的なキャリア教育」を実現するために不可欠であり、越えなければならない大きな課題であると考えられる。二つ目は、雇用形態を問わず、すでに社会に出て働いている20代後半から30代前半の若年者への支援についてである。ロールモデルを持たない中で仕事をしてきた若年者の多くは、現状を理解し、将来のビジョンを見せてくれる指導者＝「メンター」を常に求めている。すでに日本でもいくつかの企業や病院、大学等では、例えば新入社員にメンターをつけ、仕事面ではもちろん、仕事をする中で生じた悩み相談に応じるなど、精神面でのバックアップも欠かさない「メンター制度」が導入されている。当センターにおいてもキャリア学習支援者(キャリアメンター)育成講座が実施されているところであるが、若年者を実際に支援できる体制確立にはまだ遠い。メンターは、豊富な知識・経験は言うまでもなく、何よりも若者が惹かれる人間的魅力を持ち合わせていなければならない。あらゆる業界におけるメンターの存在が、3年以内の離職率増加に歯止めをかけ、その都度生じる様々な悩みに対処しながら、5年後、10年後とビジョンを持って若年者が生きることを可能にする。今後は保護者や一般の理解者を増やす一方、実際に若年者に対してメンタリングを実践できるメンターの育成が望まれる。

本県における雇用環境の低迷は深刻であり、若年者の雇用問題を教育面からのみ解決することはできない。さらに、学校のみならず、社会においても若年者を育てることなくして即戦力たることを求めることはできない。だからこそ社会全体に「キャリア教育」の意義を浸透させる役割を担う人材と、実際に若者を支援する人材の養成・育成が急がれる。人材育成に携わる者は育成される者以上に自己研鑽に務めなければならない。人材育成における生涯学習・社会教育の担う役割が今こそ期待されている。このことを肝に銘じ、その具体的実践に力を注がなければならない。

参考文献

- ・文部省中央教育審議会（1996）「21世紀を展望したわが国の教育の在り方について（第一次答申）」。
- ・内閣府（2001）「日本の青少年と意識 第2回青少年の生活と意識に関する基本調査報告書」<http://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/seikatu2/html/html/hyoushi.html> [2007, June 17] 。
- ・青森県総合社会教育センター（2002）『子どもの豊かな人間性を育むための活動に関する調査報告書』。
- ・文部科学省初等・中等教育局（2002）「体験活動事例集 - 豊かな体験活動推進のために - 」http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/houshi/jirei/03071401.htm [2007, June 17]
- ・青少年体験活動研究会（2003）「（文部科学省委託調査）子どもの自然体験活動等に関する実態調査報告書」
<http://nyc.niye.go.jp/youth/14taikentop.html> [2007, June 17] 。
- ・キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協議者会議（2004）「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書～児童生徒一人一人の勤労観，職業観を育てるために～の骨子」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/023/toushin/04012801.htm [2007, June 17] 。
- ・内閣府（2004）「第7回世界青少年意識調査細分析報告書」
<http://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/worldyouth7/pdf/top.html> [2007, June 17] 。
- ・独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター（2005）「青少年の自然体験活動等に関する実態調査報告書 平成16年度調査」
<http://nyc.niye.go.jp/youth/16taikentop.html> [2007, June 17] 。
- ・青森県教育委員会（2006）「青森県教育便覧 平成18年度版」
http://www.pref.aomori.lg.jp/education/chousa/edu_handbook_h18.pdf [2007, June 17] 。
- ・青森県総合社会教育センター（2006）『若年層の職業観と学習活動に関する調査研究報告書』。
- ・明石要一（2006）『学級教育の改革シリーズ7 キャリア教育がなぜ必要か - フリーター・ニート問題解決への手がかり - 』 明治図書。
- ・寺崎文勝（2006）『ニート世代の人事マネジメント』 中央経済社。
- ・Benesse 教育研究開発センター（2006）「若者の仕事生活実態調査報告書 - 25～35歳の男女を対象に - 」
<http://benesse.jp/berd/center/open/report/wakamono/2006/index.shtml> [2007, June 17] 。
- ・小野達郎・杉原忠（2007）『部下の力を引き出す メンター入門 “新しい師弟関係” が組織を変える』 PHP研究所。
- ・内閣府（2007）『平成19年版 青少年白書 青少年の現状と施策』 時事画報社。

第4章 資料編

調査結果単純集計票

Q 1 あなたの性別を教えてください。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	男性	717	44.8%	44.9%	44.9%
	女性	881	55.0%	55.1%	100.0%
	合計	1598	99.8%	100.0%	
欠損値	無回答	3	0.2%		
合計	合計	1601	100.0%		

Q 2 あなたが生まれたのは何年ですか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	20歳～24歳	401	25.0%	25.4%	25.4%
	25歳～29歳	550	34.4%	34.8%	60.2%
	30歳～34歳	629	39.3%	39.8%	100.0%
	合計	1580	98.7%	100.0%	
欠損値	無回答	21	1.3%		
合計	合計	1601	100.0%		

* 調査票では出生年を聞いているが、この集計表では年齢に換算してある。

Q 3 あなたは現在、どちらにお住まいですか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	東青地区	421	26.3%	26.5%	26.5%
	中南地区	380	23.7%	23.9%	50.4%
	西北地区	158	9.9%	9.9%	60.3%
	三八地区	330	20.6%	20.8%	81.1%
	上北地区	224	14.0%	14.1%	95.2%
	下北地区	77	4.8%	4.8%	100.0%
	合計	1590	99.3%	100.0%	
欠損値	無回答	11	0.7%		
合計	合計	1601	100.0%		

Q 4 あなたは小学生のとき、青森県内で過ごしましたか。それとも県外で過ごしましたか。

(転校した場合は、一番長く過ごした場所をお答えください。)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	青森県内	1464	91.4%	91.6%	91.6%
	青森県外	134	8.4%	8.4%	100.0%
	合計	1598	99.8%	100.0%	
欠損値	無回答	3	0.2%		
合計	合計	1601	100.0%		

Q 5 あなたは小学生のときに転校したことがありますか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	ある	210	13.1%	13.1%	13.1%
	ない	1388	86.7%	86.9%	100.0%
	合計	1598	99.8%	100.0%	
欠損値	無回答	3	0.2%		
合計		1601	100.0%		

Q 6 小学生のとき、ボランティア活動をしたことがありますか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	ある	581	36.3%	36.5%	36.5%
	ない	1009	63.0%	63.5%	100.0%
	合計	1590	99.3%	100.0%	
欠損値	無回答	11	0.7%		
合計		1601	100.0%		

Q 7 小学生のとき、オリエンテーションや野外での炊事、テントに泊まるなど、野外体験や自然に関する体験をしたことがありますか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	ある	1476	92.2%	92.3%	92.3%
	ない	123	7.7%	7.7%	100.0%
	合計	1599	99.9%	100.0%	
欠損値	無回答	2	0.1%		
合計		1601	100.0%		

Q 8 興味のある仕事について調べたり、実際に職場訪問をするなど、職業や就業に関する体験をしたことがありますか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	ある	675	42.2%	42.2%	42.2%
	ない	923	57.7%	57.8%	100.0%
	合計	1598	99.8%	100.0%	
欠損値	無回答	3	0.2%		
合計		1601	100.0%		

Q 9 地域の行事に参加し、年齢や世代の異なる人と交流した経験がありますか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	ある	1154	72.1%	72.2%	72.2%
	ない	444	27.7%	27.8%	100.0%
	合計	1598	99.8%	100.0%	
欠損値	無回答	3	0.2%		
合計		1601	100.0%		

Q10 「おはようございます」「いただきます」「行ってきます」などの基本的な挨拶を家庭や学校でしていましたか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	していた	1479	92.4%	92.5%	92.5%
	していない	120	7.5%	7.5%	100.0%
	合計	1599	99.9%	100.0%	
欠損値	無回答	2	0.1%		
合計		1601	100.0%		

Q11 校則や提出物の期限を守るなど、学校内での基本的な決まりを守っていましたか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	守っていた	1364	85.2%	85.4%	85.4%
	守っていない	233	14.6%	14.6%	100.0%
	合計	1597	99.8%	100.0%	
欠損値	無回答	4	0.2%		
合計		1601	100.0%		

Q12 清掃分担や係の仕事など、家庭や学校で自分に割り当てられた役割を果たしていましたか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	果たしていた	1523	95.1%	95.2%	95.2%
	果たしていない	76	4.7%	4.8%	100.0%
	合計	1599	99.9%	100.0%	
欠損値	無回答	2	0.1%		
合計		1601	100.0%		

Q13 学校の部活動以外で、学習塾やスポーツ教室に通ったり、ピアノ・書道・珠算などの習いごとをしていましたか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	していた	1185	74.0%	74.1%	74.1%
	していない	414	25.9%	25.9%	100.0%
	合計	1599	99.9%	100.0%	
欠損値	無回答	2	0.1%		
合計		1601	100.0%		

Q14 中学生のとき、何でも話せる仲の良い友達がい了吗か。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	いた	1358	84.8%	85.0%	85.0%
	いない	239	14.9%	15.0%	100.0%
	合計	1597	99.8%	100.0%	
欠損値	無回答	4	0.2%		
合計		1601	100.0%		

Q15 中学生のとき、身近な話から進路についてまで、何でも話せる先生がいましたか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	いた	660	41.2%	41.3%	41.3%
	いない	939	58.7%	58.7%	100.0%
	合計	1599	99.9%	100.0%	
欠損値	無回答	2	0.1%		
合計		1601	100.0%		

Q16 中学生のとき、ボランティア活動をしたことがありますか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	ある	503	31.4%	31.5%	31.5%
	ない	1095	68.4%	68.5%	100.0%
	合計	1598	99.8%	100.0%	
欠損値	無回答	3	0.2%		
合計		1601	100.0%		

Q17 中学生のとき、興味のある仕事について調べたり、実際に職場訪問をするなど、職業や就業に関する体験をしたことがありますか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	ある	528	33.0%	33.0%	33.0%
	ない	1071	66.9%	67.0%	100.0%
	合計	1599	99.9%	100.0%	
欠損値	無回答	2	0.1%		
合計		1601	100.0%		

Q18 体育祭・文化祭などの学校行事，委員会などの生徒会活動やクラスの係活動に仲間と協力して取り組んでいましたか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	取り組んでいた	1332	83.2%	83.3%	83.3%
	取り組んでいなかった	268	16.7%	16.8%	100.0%
	合計	1600	99.9%	100.0%	
欠損値	無回答	1	0.1%		
合計		1601	100.0%		

Q19 部活動に参加していましたか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	熱心に参加していた	907	56.7%	56.7%	56.7%
	熱心ではなかったが参加していた	582	36.4%	36.4%	93.1%
	参加していない	111	6.9%	6.9%	100.0%
	合計	1600	99.9%	100.0%	
欠損値	無回答	1	0.1%		
合計		1601	100.0%		

Q20 あなたは、高等学校に進学しましたか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	進学した	1567	97.9%	97.9%	97.9%
	進学していない	33	2.1%	2.1%	100.0%
	合計	1600	99.9%	100.0%	
欠損値	無回答	1	0.1%		
合計		1601	100.0%		

Q21 高校生のとき、何でも話せる仲の良い友達がいましたか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	いた	1370	85.6%	87.7%	87.7%
	いない	193	12.1%	12.3%	100.0%
	合計	1563	97.6%	100.0%	
欠損値	無回答	5	0.3%		
	非該当	33	2.1%		
合計		1601	100.0%		

Q22 高校生のとき、身近な話から進路についてまで、何でも話せる先生がいましたか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	いた	627	39.2%	40.1%	40.1%
	いない	936	58.5%	59.9%	100.0%
	合計	1563	97.6%	100.0%	
欠損値	無回答	5	0.3%		
	非該当	33	2.1%		
合計		1601	100.0%		

Q23 高校生のとき、ボランティア活動をしたことがありますか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	ある	443	27.7%	28.4%	28.4%
	ない	1116	69.7%	71.6%	100.0%
	合計	1559	97.4%	100.0%	
欠損値	無回答	9	0.6%		
	非該当	33	2.1%		
合計		1601	100.0%		

Q24 高校生のとき、興味のある仕事について調べたり、実際に職場訪問をするなど、職業や就業に関する体験をしたことがありますか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	ある	710	44.3%	45.4%	45.4%
	ない	854	53.3%	54.6%	100.0%
	合計	1564	97.7%	100.0%	
欠損値	無回答	4	0.2%		
	非該当	33	2.1%		
合計		1601	100.0%		

Q25 体育祭・文化祭などの学校行事，委員会などの生徒会活動やクラスの係活動に仲間と協力して取り組んでいましたか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	取り組んでいた	1094	68.3%	70.1%	70.1%
	取り組んでいなかった	467	29.2%	29.9%	100.0%
	合計	1561	97.5%	100.0%	
欠損値	無回答	7	0.4%		
	非該当	33	2.1%		
合計		1601	100.0%		

Q26 部活動に参加していましたか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	熱心に参加していた	608	38.0%	38.8%	38.8%
	熱心ではなかったが参加していた	374	23.4%	23.9%	62.7%
	参加していない	583	36.4%	37.3%	100.0%
	合計	1565	97.8%	100.0%	
欠損値	無回答	3	0.2%		
	非該当	33	2.1%		
合計		1601	100.0%		

Q27 あなたの最終学歴（今までに通った一番上の学校）は、次の中のどれですか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	中学校	33	2.1%	2.1%	2.1%
	高等学校	716	44.7%	44.9%	47.0%
	専門学校・専修学校	288	18.0%	18.1%	65.1%
	短期大学・高専	176	11.0%	11.0%	76.1%
	大学・大学院	362	22.6%	22.7%	98.9%
	その他	18	1.1%	1.1%	100.0%
	合計	1593	99.5%	100.0%	
欠損値	無回答	8	0.5%		
合計		1601	100.0%		

Q28 あなたの最終学歴校はどこにありましたか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	青森県内	1202	75.1%	75.4%	75.4%
	青森県外	393	24.5%	24.6%	100.0%
	合計	1595	99.6%	100.0%	
欠損値	無回答	6	0.4%		
合計		1601	100.0%		

Q29 あなたはその学校を卒業しましたか、それとも中途退学しましたか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	卒業(修了)した	1390	86.8%	87.2%	87.2%
	中途退学した	105	6.6%	6.6%	93.8%
	現在通っている	99	6.2%	6.2%	100.0%
	合計	1594	99.6%	100.0%	
欠損値	無回答	7	0.4%		
合計		1601	100.0%		

Q30 あなたは今までに、アルバイトやパートなどを含め、お給料をもらって働いたことはありますか。(無給のボランティアや家事手伝いは除きます。)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	ある	1467	91.6%	97.8%	97.8%
	ない	33	2.1%	2.2%	100.0%
	合計	1500	93.7%	100.0%	
欠損値	無回答	2	0.1%		
	非該当	99	6.2%		
合計		1601	100.0%		

Q31 学校を卒業又は中退して、はじめてついたお仕事はそのようなお仕事でしたか。

(在学中のアルバイトは除いてください。)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	農業・林業・漁業	53	3.3%	3.7%	3.7%
	専門的・技術的職業	272	17.0%	18.8%	22.5%
	営業・事務的職業	340	21.2%	23.5%	46.0%
	サービス業	272	17.0%	18.8%	64.8%
	販売業	169	10.6%	11.7%	76.4%
	運輸・通信業	30	1.9%	2.1%	78.5%
	技能工・製造業	176	11.0%	12.2%	90.7%
	建設作業	91	5.7%	6.3%	97.0%
	保安的職業	33	2.1%	2.3%	99.2%
	労務的職業	11	0.7%	0.8%	100.0%
	合計	1447	90.4%	100.0%	
欠損値	無回答	22	1.4%		
	非該当	132	8.2%		
合計		1601	100.0%		

Q32 そのお仕事は、正社員でしたか、それとも臨時職員やアルバイト・パートでしたか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	正社員(正職員)	962	60.1%	66.2%	66.2%
	臨時職員・契約社員・派遣社員・嘱託・非常勤	224	14.0%	15.4%	81.6%
	パート・アルバイト・季節雇い	241	15.1%	16.6%	98.2%
	自営業主	2	0.1%	0.1%	98.3%
	家族従業者	25	1.7%	1.7%	100.0%
	合計	1454	91.0%	100.0%	
欠損値	無回答	15	0.9%		
	非該当	132	8.2%		
合計		1601	100.2%		

Q33 はじめてついてお仕事はどのようにして探しましたか。あてはまるものを一つだけ選んでください。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	学校の先生や就職部の紹介	639	39.9%	43.8%	43.8%
	部活やサークルの先輩の紹介	13	0.8%	0.9%	44.7%
	親戚や親の紹介	246	15.4%	16.9%	61.5%
	友達の紹介	91	5.7%	6.2%	67.8%
	在学中のアリバイト先へ就職または紹介	28	1.7%	1.9%	69.7%
	就職誌やインターネットの求人広告に応募	119	7.4%	8.2%	77.9%
	職業安定所で紹介	123	7.7%	8.4%	86.3%
	その他	200	12.5%	13.7%	100.0%
合計	1459	91.1%	100.0%		
欠損値	無回答	10	0.6%		
	非該当	132	8.2%		
合計		1601	100.0%		

Q34 はじめてついたお仕事で、最初にもらったお給料はいくらくらいでしたか。月給または一ヶ月の収入でお答えください。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	5万円以下	88	5.5%	6.0%	6.0%
	6万～10万円くらい	373	23.3%	25.5%	31.5%
	11万～15万円くらい	710	44.3%	48.5%	80.0%
	16万～20万円くらい	219	13.7%	15.0%	95.0%
	21万～25万円くらい	42	2.6%	2.9%	97.9%
	26万円以上	10	0.6%	0.7%	98.6%
	おぼえていない	21	1.3%	1.4%	100.0%
合計	1463	91.4%	100.0%		
欠損値	無回答	6	0.4%		
	非該当	132	8.2%		
合計		1601	100.0%		

Q35 あなたはその後、今も同じお勤め先で働いていますか。（勤め先から命令された配置転換や出向は、同じ勤務先としてください。）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	今も同じ勤め先で働いている	472	29.5%	32.3%	32.3%
	その勤め先をやめた	991	61.9%	67.7%	100.0%
合計		1463	91.4%	100.0%	
欠損値	無回答	2	0.1%		
	非該当	136	8.5%		
合計		1601	100.0%		

Q36 はじめてついたお仕事をやめたのは、働き始めてからそれくらいたった後でしたか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	3ヶ月以内	126	7.9%	12.7%	12.7%
	1年以内	251	15.7%	25.4%	38.1%
	3年以内	317	19.8%	32.1%	70.2%
	5年以内	137	8.6%	13.9%	84.0%
	5年以上たってから	158	9.9%	16.0%	100.0%
	合計	989	61.8%	100.0%	
欠損値	無回答	4	0.2%		
	非該当	608	38.0%		
合計		1601	100.0%		

Q37 今から振り返って、はじめてついてお仕事をやめた主な理由は何だったと思いますか。

あてはまるもの全てを選んでください。

Q37-1		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	給与が不満だった	156	9.7%	15.7%	15.7%
	非選択	837	52.3%	84.3%	100.0%
	合計	993	62.0%	100.0%	
欠損値	非該当	608	38.0%		
合計		1601	100.0%		

Q37-2		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	正社員になれなかった	68	4.2%	6.8%	6.8%
	非選択	925	57.8%	93.2%	100.0%
	合計	993	62.0%	100.0%	
欠損値	非該当	608	38.0%		
合計		1601	100.0%		

Q37-3		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	勤務時間が不規則だった	198	12.4%	19.9%	19.9%
	非選択	795	49.7%	80.1%	100.0%
	合計	993	62.0%	100.0%	
欠損値	非該当	608	38.0%		
合計		1601	100.0%		

Q37-4		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	人間関係がうまくいかなかった	258	16.1%	26.0%	26.0%
	非選択	735	45.9%	74.0%	100.0%
	合計	993	62.0%	100.0%	
欠損値	非該当	608	38.0%		
合計		1601	100.0%		

Q37-5		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	仕事がつまらない	161	10.1%	16.2%	16.2%
	非選択	834	52.1%	83.8%	100.0%
	合計	995	62.1%	100.0%	
欠損値	非該当	606	37.9%		
合計		1601	100.0%		

Q37-6		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	勤め先が倒産した、倒産しそうになった	90	5.6%	9.1%	9.1%
	非選択	903	56.4%	90.9%	100.0%
	合計	993	62.0%	100.0%	
欠損値	非該当	608	38.0%		
合計		1601	100.0%		

Q37-7		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	働く期間が最初から決まっていた	80	5.0%	8.1%	8.1%
	非選択	913	57.0%	91.9%	100.0%
	合計	993	62.0%	100.0%	
欠損値	非該当	608	38.0%		
合計		1601	100.0%		

Q37-8		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	結婚・出産 家族の介護のため	125	7.8%	12.6%	12.6%
	非選択	868	54.2%	87.4%	100.0%
	合計	993	62.0%	100.0%	
欠損値	非該当	608	38.0%		
合計		1601	100.0%		

Q37-9		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	病気やケガのため	54	3.4%	5.4%	5.4%
	非選択	939	58.7%	94.6%	100.0%
	合計	993	62.0%	100.0%	
欠損値	非該当	608	38.0%		
合計		1601	100.0%		

Q37-10		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	地元を離れたかった	84	5.2%	8.5%	8.5%
	非選択	909	56.8%	91.5%	100.0%
	合計	993	62.0%	100.0%	
欠損値	非該当	608	38.0%		
合計		1601	100.0%		

Q37-11		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	家業を継ぐことになっていた	27	1.7%	2.7%	2.7%
	非選択	966	60.3%	97.3%	100.0%
	合計	993	62.0%	100.0%	
欠損値	非該当	608	38.0%		
合計		1601	100.0%		

Q37-12		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	他にやりたい仕事が見つかった	156	9.7%	15.7%	15.7%
	非選択	837	52.3%	84.3%	100.0%
	合計	993	62.0%	100.0%	
欠損値	非該当	608	38.0%		
合計		1601	100.0%		

Q37-13		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	留学・資格取得のため	30	1.9%	3.0%	3.0%
	非選択	963	60.1%	97.0%	100.0%
	合計	993	62.0%	100.0%	
欠損値	非該当	608	38.0%		
合計		1601	100.0%		

Q38 あなたはその後、アルバイトやパートを含めて転職して働きましたか、それとも、その後にはまったく働いていませんか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	転職して別の勤め先で働いた	926	57.8%	93.4%	93.4%
	はじめてついた仕事をやめてから働いていない	65	4.1%	6.6%	100.0%
	合計	991	61.9%	100.0%	
欠損値	無回答	2	0.1%		
	非該当	608	38.0%		
合計		1601	100.0%		

Q39 はじめてついたお仕事をやめた後、次のお仕事（アルバイトやパートを含みます）に転職するまでに、どれくらいの時間がかかりましたか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	すぐ（一週間以内）についた	200	12.5%	21.8%	21.8%
	1ヶ月以内	199	12.4%	21.7%	43.4%
	3ヶ月以内	186	11.6%	20.2%	63.7%
	6ヶ月以内	123	7.7%	13.4%	77.0%
	一年以内	99	6.2%	10.8%	87.8%
	一年以上	112	7.0%	12.2%	100.0%
	合計	919	57.4%	100.0%	
欠損値	無回答	9	0.6%		
	非該当	673	42.0%		
合計		1601	100.0%		

Q40 次のお仕事は正社員（正職員）でしたか、それとも臨時職員やアルバイト・パートでしたか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	正社員（正職員）	376	23.5%	40.9%	40.9%
	臨時職員・契約社員・派遣社員・嘱託・非常勤	198	12.4%	21.5%	62.5%
	パート・アルバイト・季節雇い	321	20.0%	34.9%	97.4%
	自営業主	4	0.2%	0.4%	97.8%
	家族従業者	20	1.2%	2.2%	100.0%
	合計	919	57.4%	100.0%	
欠損値	無回答	9	0.6%		
	非該当	673	42.0%		
合計		1601	100.0%		

Q41 アルバイトやパートを含めて、今までに何回、お仕事を变えましたか。(勤め先から命令された配置転換や出向は数えないでください。)

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	1回	245	15.3%	26.7%	26.7%
	2~3回	390	24.4%	42.4%	69.1%
	4~5回	195	12.2%	21.2%	90.3%
	6~10回	76	4.7%	8.3%	98.6%
	10回以上	13	0.8%	1.4%	100.0%
	合計	919	57.4%	100.0%	
欠損値	無回答	9	0.6%		
	非該当	673	42.0%		
合計		1601	100.0%		

Q42 あなたは今、働いていますか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	働いている	770	48.1%	83.3%	83.3%
	働いていない	154	9.6%	16.7%	100.0%
	合計	924	57.7%	100.0%	
欠損値	無回答	4	0.2%		
	非該当	673	42.0%		
合計		1601	100.0%		

Q43 今のお仕事は、どのようなお仕事ですか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	農業・林業・漁業	58	3.6%	4.7%	4.7%
	専門的・技術的職業	254	15.9%	20.5%	25.2%
	管理的職業	1	0.1%	0.1%	25.3%
	営業・事務的職業	287	17.9%	23.2%	48.4%
	サービス業	209	13.1%	16.9%	65.3%
	販売業	99	6.2%	8.0%	73.3%
	運輸・通信業	42	2.6%	3.4%	76.7%
	技能工・製造業	144	9.0%	11.6%	88.3%
	建設作業	86	5.4%	6.9%	95.2%
	保安的職業	41	2.6%	3.3%	98.5%
	労働的職業	18	1.1%	1.5%	100.0%
		合計	1239	77.4%	100.0%
欠損値	無回答	8	0.5%		
	非該当	354	22.1%		
合計		1601	100.0%		

Q44 今のお仕事は正社員(正職員)ですか、それとも臨時職員やアルバイト・パートですか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	正社員(正職員)	747	46.7%	60.1%	60.1%
	臨時職員・契約社員・派遣社員・嘱託・非常勤	226	14.1%	18.2%	78.3%
	パート・アルバイト・季節雇い	202	12.6%	16.3%	94.6%
	自営業主	17	1.1%	1.4%	96.0%
	家族従業者	50	3.1%	4.0%	100.0%
	合計	1242	77.6%	100.0%	
欠損値	無回答	4	0.2%		
	非該当	355	22.2%		
合計		1601	100.0%		

Q45 今のお仕事は、どれくらいの収入がありますか。ボーナス等を含めた一年間のあなたの収入を税込みで教えてください。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	150万円以下	338	21.1%	27.3%	27.3%
	150~300万円未満	593	37.0%	47.9%	75.3%
	300~500万円未満	228	14.2%	18.4%	93.7%
	500~700万円未満	31	1.9%	2.5%	96.2%
	700~900万円未満	3	0.2%	0.2%	96.4%
	900万円以上	2	0.1%	0.2%	96.6%
	よくわからない	42	2.6%	3.4%	100.0%
合計	1237	77.3%	100.0%		
欠損値	無回答	9	0.6%		
	非該当	355	22.2%		
合計		1601	100.0%		

Q46 あなたは、これから転職したいと思いますか、それとも今のお仕事を続けたいと思いますか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	すぐにも転職したい	110	6.9%	8.9%	8.9%
	よい仕事があれば転職したい	550	34.4%	44.6%	53.6%
	今の勤め先でこのまま働き続けたい	418	26.1%	33.9%	87.5%
	よくわからない	154	9.6%	12.5%	100.0%
	合計	1232	77.0%	100.0%	
欠損値	無回答	14	0.9%		
	非該当	355	22.2%		
合計		1601	100.0%		

Q47 今までのお仕事の実験から、あなたは仕事をする上で次のような事柄はどれくらい大切だと思いますか。それぞれの項目についてお答えください。

Q47-1：自分の個性や能力・資格が活かせること

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても大切	723	45.2%	55.5%	55.5%
	多少は大切	483	30.2%	37.1%	92.6%
	あまり大切ではない	58	3.6%	4.5%	97.0%
	大切ではない	21	1.3%	1.6%	98.6%
	よくわからない	18	1.1%	1.4%	100.0%
	合計	1303	81.4%	100.0%	
欠損値	無回答	8	0.5%		
	非該当	290	18.1%		
合計		1601	100.0%		

Q47-2：自分のやりたい仕事であること

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても大切	761	47.5%	58.4%	58.4%
	多少は大切	429	26.8%	32.9%	91.4%
	あまり大切ではない	81	5.1%	6.2%	97.6%
	大切ではない	17	1.1%	1.3%	98.9%
	よくわからない	14	0.9%	1.1%	100.0%
	合計	1302	81.3%	100.0%	
欠損値	無回答	9	0.6%		
	非該当	290	18.1%		
合計		1601	100.0%		

Q47-3：仕事を通して資格や技術が身につけられること

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても大切	575	35.9%	44.3%	44.3%
	多少は大切	524	32.7%	40.4%	84.7%
	あまり大切ではない	152	9.5%	11.7%	96.4%
	大切ではない	31	1.9%	2.4%	98.8%
	よくわからない	16	1.0%	1.2%	100.0%
	合計	1298	81.1%	100.0%	
欠損値	無回答	13	0.8%		
	非該当	290	18.1%		
合計		1601	100.0%		

Q47-4：職場の雰囲気や人間関係が良いこと

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても大切	1037	64.8%	79.6%	79.6%
	多少は大切	222	13.9%	17.1%	96.7%
	あまり大切ではない	28	1.7%	2.2%	98.8%
	大切ではない	11	0.7%	0.8%	99.7%
	よくわからない	4	0.2%	0.3%	100.0%
	合計	1302	81.3%	100.0%	
欠損値	無回答	9	0.6%		
	非該当	290	18.1%		
合計		1601	100.0%		

Q47-5：給料が高いこと

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても大切	479	29.9%	36.8%	36.8%
	多少は大切	639	39.9%	49.0%	85.8%
	あまり大切ではない	159	9.9%	12.2%	98.0%
	大切ではない	18	1.1%	1.4%	99.4%
	よくわからない	8	0.5%	0.6%	100.0%
	合計	1303	81.4%	100.0%	
欠損値	無回答	8	0.5%		
	非該当	290	18.1%		
合計		1601	100.0%		

Q47-6：休みが多いこと

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても大切	281	17.6%	21.6%	21.6%
	多少は大切	575	35.9%	44.1%	65.7%
	あまり大切ではない	385	24.0%	29.5%	95.2%
	大切ではない	52	3.2%	4.0%	99.2%
	よくわからない	10	0.6%	0.8%	100.0%
	合計	1303	81.4%	100.0%	
欠損値	無回答	8	0.5%		
	非該当	290	18.1%		
合計		1601	100.0%		

Q47-7：残業や休日出勤が少ないこと

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても大切	252	15.7%	19.3%	19.3%
	多少は大切	519	32.4%	39.8%	59.2%
	あまり大切ではない	419	26.2%	32.2%	91.3%
	大切ではない	101	6.3%	7.8%	99.1%
	よくわからない	12	0.7%	0.9%	100.0%
	合計	1303	81.4%	100.0%	
欠損値	無回答	8	0.5%		
	非該当	290	18.1%		
合計		1601	100.0%		

Q47-8：家庭や趣味と両立できること

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても大切	512	32.0%	39.3%	39.3%
	多少は大切	557	34.8%	42.7%	82.0%
	あまり大切ではない	173	10.8%	13.3%	95.3%
	大切ではない	35	2.2%	2.7%	98.0%
	よくわからない	26	1.6%	2.0%	100.0%
	合計	1303	81.4%	100.0%	
欠損値	無回答	8	0.5%		
	非該当	290	18.1%		
合計		1601	100.0%		

Q47-9：通勤しやすい場所であること

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても大切	452	28.2%	34.8%	34.8%
	多少は大切	592	37.0%	45.5%	80.3%
	あまり大切ではない	208	13.0%	16.0%	96.3%
	大切ではない	41	2.6%	3.2%	99.5%
	よくわからない	7	0.4%	0.5%	100.0%
	合計	1300	81.2%	100.0%	
欠損値	無回答	11	0.7%		
	非該当	290	18.1%		
合計		1601	100.0%		

Q47-10：長い間にわたって安定して働けること

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても大切	912	57.0%	70.1%	70.1%
	多少は大切	283	17.7%	21.8%	91.9%
	あまり大切ではない	80	5.0%	6.1%	98.0%
	大切ではない	15	0.9%	1.2%	99.2%
	よくわからない	11	0.7%	0.8%	100.0%
	合計	1301	81.3%	100.0%	
欠損値	無回答	10	0.6%		
	非該当	290	18.1%		
合計		1601	100.0%		

Q47-11：有名な会社であること

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても大切	98	6.1%	7.5%	7.5%
	多少は大切	187	11.7%	14.4%	21.9%
	あまり大切ではない	604	37.7%	46.5%	68.4%
	大切ではない	376	23.5%	28.9%	97.3%
	よくわからない	35	2.2%	2.7%	100.0%
	合計	1300	81.2%	100.0%	
欠損値	無回答	11	0.7%		
	非該当	290	18.1%		
合計		1601	100.0%		

Q47-12：働く会社に将来性があること

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても大切	481	30.0%	37.0%	37.0%
	多少は大切	561	35.0%	43.1%	80.1%
	あまり大切ではない	162	10.1%	12.5%	92.5%
	大切ではない	66	4.1%	5.1%	97.6%
	よくわからない	31	1.9%	2.4%	100.0%
	合計	1301	81.3%	100.0%	
欠損値	無回答	10	0.6%		
	非該当	290	18.1%		
合計		1601	100.0%		

Q47-13：将来、独立して自分で事業が起こせること

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても大切	112	7.0%	8.6%	8.6%
	多少は大切	212	13.2%	16.3%	25.0%
	あまり大切ではない	472	29.5%	36.4%	61.3%
	大切ではない	373	23.3%	28.7%	90.1%
	よくわからない	129	8.1%	9.9%	100.0%
	合計	1298	81.1%	100.0%	
欠損値	無回答	13	0.8%		
	非該当	290	18.1%		
合計		1601	100.0%		

Q47-14：他の人や社会のために役立つ仕事であること

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても大切	369	23.0%	28.3%	28.3%
	多少は大切	562	35.1%	43.2%	71.5%
	あまり大切ではない	237	14.8%	18.2%	89.7%
	大切ではない	81	5.1%	6.2%	95.9%
	よくわからない	53	3.3%	4.1%	100.0%
	合計	1302	81.3%	100.0%	
欠損値	無回答	9	0.6%		
	非該当	290	18.1%		
合計		1601	100.0%		

Q47-15：他の人や社会から尊敬される仕事であること

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても大切	270	16.9%	20.8%	20.8%
	多少は大切	443	27.7%	34.1%	54.8%
	あまり大切ではない	396	24.7%	30.5%	85.3%
	大切ではない	133	8.3%	10.2%	95.5%
	よくわからない	58	3.6%	4.5%	100.0%
	合計	1300	81.2%	100.0%	
欠損値	無回答	11	0.7%		
	非該当	290	18.1%		
合計		1601	100.0%		

Q48 あなたが無職になってからの期間はどれくらいですか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	3ヶ月未満	34	2.1%	19.0%	19.0%
	3ヶ月～1年未満	36	2.2%	20.1%	39.1%
	1年～3年未満	46	2.9%	25.7%	64.8%
	3年～5年未満	26	1.6%	14.5%	79.3%
	5年～10年未満	32	2.0%	17.9%	97.2%
	10年以上	5	0.3%	2.8%	100.0%
		合計	179	11.2%	100.0%
欠損値	無回答	13	0.8%		
	非該当	1409	88.0%		
合計		1601	100.0%		

Q49 あなたは、これから働こうと考えていますか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	すぐにも働きたい	48	3.0%	26.8%	26.8%
	よい仕事があれば働きたい	108	6.7%	60.3%	87.2%
	あまり働きたくない	7	0.4%	3.9%	91.1%
	働くつもりはない	16	1.0%	8.9%	100.0%
	合計	179	11.2%	100.0%	
欠損値	無回答	13	0.8%		
	非該当	1409	88.0%		
合計		1601	100.0%		

Q50 現在、あなたは職探しをしていますか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	している	103	6.4%	56.6%	56.6%
	していない	79	4.9%	43.4%	100.0%
	合計	182	11.4%	100.0%	
欠損値	無回答	10	0.6%		
	非該当	1409	88.0%		
合計		1601	100.0%		

Q51 どのようなお仕事を探していますか。次の中から一つだけ選んでください。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	専門・技術職	33	2.1%	31.7%	31.7%
	一般事務職	22	1.4%	21.2%	52.9%
	公務員	5	0.3%	4.8%	57.7%
	何でもよい	44	2.7%	42.3%	100.0%
	合計	104	6.5%	100.0%	
欠損値	無回答	14	0.9%		
	非該当	1483	92.6%		
合計		1601	100.0%		

Q52 正社員とアルバイトのどちらがいいですか。

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	正社員(正職員)	50	3.1%	46.7%	46.7%
	アルバイト・パート・臨時職員	26	1.6%	24.3%	71.0%
	どちらでもよい	31	1.9%	29.0%	100.0%
	合計	107	6.7%	100.0%	
欠損値	無回答	11	0.7%		
	非該当	1483	92.6%		
合計		1601	100.0%		

Q53 新しい仕事を探す時に、次のような事柄はどれくらい大切だと思いますか。それぞれについてお答えください。

Q53-1：自分の個性や能力・資格が生かせること

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても大切	49	3.1%	46.2%	46.2%
	多少は大切	45	2.8%	42.5%	88.7%
	あまり大切ではない	7	0.4%	6.6%	95.3%
	大切ではない	3	0.2%	2.8%	98.1%
	よくわからない	2	0.1%	1.9%	100.0%
	合計	106	6.6%	100.0%	
欠損値	無回答	11	0.7%		
	非該当	1484	92.7%		
合計		1601	100.0%		

Q53-2：自分のやりたい仕事であること

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても大切	60	3.7%	56.6%	56.6%
	多少は大切	38	2.4%	35.8%	92.5%
	あまり大切ではない	6	0.4%	5.7%	98.1%
	大切ではない	1	0.1%	0.9%	99.1%
	よくわからない	1	0.1%	0.9%	100.0%
	合計	106	6.6%	100.0%	
欠損値	無回答	11	0.7%		
	非該当	1484	92.7%		
合計		1601	100.0%		

Q53-3：仕事を通して資格や技術が身につけられること

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても大切	31	1.9%	29.5%	29.5%
	多少は大切	52	3.2%	49.5%	79.0%
	あまり大切ではない	15	0.9%	14.3%	93.3%
	大切ではない	6	0.4%	5.7%	99.0%
	よくわからない	1	0.1%	1.0%	100.0%
	合計	105	6.6%	100.0%	
欠損値	無回答	12	0.7%		
	非該当	1484	92.7%		
合計		1601	100.0%		

Q53-4：職場の雰囲気や人間関係が良いこと

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても大切	73	4.6%	68.9%	68.9%
	多少は大切	30	1.9%	28.3%	97.2%
	あまり大切ではない	2	0.1%	1.9%	99.1%
	大切ではない	0	0.0%	0.0%	99.1%
	よくわからない	1	0.1%	0.9%	100.0%
	合計	106	6.6%	100.0%	
欠損値	無回答	11	0.7%		
	非該当	1484	92.7%		
合計		1601	100.0%		

Q53-5 : 給料が高いこと

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても大切	22	1.4%	20.8%	20.8%
	多少は大切	58	3.6%	54.7%	75.5%
	あまり大切ではない	22	1.4%	20.8%	96.2%
	大切ではない	3	0.2%	2.8%	99.1%
	よくわからない	1	0.1%	0.9%	100.0%
	合計	106	6.6%	100.0%	
欠損値	無回答	11	0.7%		
	非該当	1484	92.7%		
合計		1601	100.0%		

Q53-6 : 休みが多いこと

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても大切	10	0.6%	9.4%	9.4%
	多少は大切	47	2.9%	44.3%	53.8%
	あまり大切ではない	43	2.7%	40.6%	94.3%
	大切ではない	5	0.3%	4.7%	99.1%
	よくわからない	1	0.1%	0.9%	100.0%
	合計	106	6.6%	100.0%	
欠損値	無回答	11	0.7%		
	非該当	1484	92.7%		
合計		1601	100.0%		

Q53-7 : 残業や休日出勤が少ないこと

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても大切	16	1.0%	15.1%	15.1%
	多少は大切	40	2.5%	37.7%	52.8%
	あまり大切ではない	42	2.6%	39.6%	92.5%
	大切ではない	6	0.4%	5.7%	98.1%
	よくわからない	2	0.1%	1.9%	100.0%
	合計	106	6.6%	100.0%	
欠損値	無回答	11	0.7%		
	非該当	1484	92.7%		
合計		1601	100.0%		

Q53-8 : 家庭や趣味と両立できること

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても大切	34	2.1%	32.1%	32.1%
	多少は大切	46	2.9%	43.4%	75.5%
	あまり大切ではない	19	1.2%	17.9%	93.4%
	大切ではない	3	0.2%	2.8%	96.2%
	よくわからない	4	0.2%	3.8%	100.0%
	合計	106	6.6%	100.0%	
欠損値	無回答	11	0.7%		
	非該当	1484	92.7%		
合計		1601	100.0%		

Q53-9：通勤しやすい場所であること

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても大切	46	2.9%	43.4%	43.4%
	多少は大切	39	2.4%	36.8%	80.2%
	あまり大切ではない	19	1.2%	17.9%	98.1%
	大切ではない	1	0.1%	0.9%	99.1%
	よくわからない	1	0.1%	0.9%	100.0%
	合計	106	6.6%	100.0%	
欠損値	無回答	11	0.7%		
	非該当	1484	92.7%		
合計		1601	100.0%		

Q53-10：長い間にわたって安定して働けること

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても大切	69	4.3%	65.7%	65.7%
	多少は大切	23	1.4%	21.9%	87.6%
	あまり大切ではない	9	0.6%	8.6%	96.2%
	大切ではない	1	0.1%	1.0%	97.1%
	よくわからない	3	0.2%	2.9%	100.0%
	合計	105	6.6%	100.0%	
欠損値	無回答	12	0.7%		
	非該当	1484	92.7%		
合計		1601	100.0%		

Q53-11：有名な会社であること

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても大切	3	0.2%	2.8%	2.8%
	多少は大切	14	0.9%	13.2%	16.0%
	あまり大切ではない	54	3.4%	50.9%	67.0%
	大切ではない	32	2.0%	30.2%	97.2%
	よくわからない	3	0.2%	2.8%	100.0%
	合計	106	6.6%	100.0%	
欠損値	無回答	11	0.7%		
	非該当	1484	92.7%		
合計		1601	100.0%		

Q53-12：働く会社に将来性があること

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても大切	33	2.1%	31.4%	31.4%
	多少は大切	39	2.4%	37.1%	68.6%
	あまり大切ではない	24	1.5%	22.9%	91.4%
	大切ではない	6	0.4%	5.7%	97.1%
	よくわからない	3	0.2%	2.9%	100.0%
	合計	105	6.6%	100.0%	
欠損値	無回答	12	0.7%		
	非該当	1484	92.7%		
合計		1601	100.0%		

Q47-13 : 将来、独立して自分で事業が起こせること

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても大切	8	0.5%	7.5%	7.5%
	多少は大切	15	0.9%	14.2%	21.7%
	あまり大切ではない	36	2.2%	34.0%	55.7%
	大切ではない	41	2.6%	38.7%	94.3%
	よくわからない	6	0.4%	5.7%	100.0%
	合計	106	6.6%	100.0%	
欠損値	無回答	11	0.7%		
	非該当	1484	92.7%		
合計		1601	100.0%		

Q47-14 : 他の人や社会のために役立つ仕事であること

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても大切	25	1.6%	23.6%	23.6%
	多少は大切	32	2.0%	30.2%	53.8%
	あまり大切ではない	34	2.1%	32.1%	85.8%
	大切ではない	10	0.6%	9.4%	95.3%
	よくわからない	5	0.3%	4.7%	100.0%
	合計	106	6.6%	100.0%	
欠損値	無回答	11	0.7%		
	非該当	1484	92.7%		
合計		1601	100.0%		

Q47-15 : 他の人や社会から尊敬される仕事であること

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	とても大切	16	1.0%	15.1%	15.1%
	多少は大切	32	2.0%	30.2%	45.3%
	あまり大切ではない	36	2.2%	34.0%	79.2%
	大切ではない	17	1.1%	16.0%	95.3%
	よくわからない	5	0.3%	4.7%	100.0%
	合計	106	6.6%	100.0%	
欠損値	無回答	11	0.7%		
	非該当	1484	92.7%		
合計		1601	100.0%		

Q54 現在、あなたは自分自身について誇れるものを持っていますか。この中からあてはまるものをいくつでも選んでください。

Q54-1		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	明るさ	703	43.9%	44.1%	44.1%
	非選択	892	55.7%	55.9%	100.0%
	合計	1595	99.6%	100.0%	
欠損値	無回答	6	0.4%		
合計		1601	100.0%		

資料 調査結果単純集計票

Q54-2		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	やさしさ・思いやり	833	52.0%	52.2%	52.2%
	非選択	763	47.7%	47.8%	100.0%
	合計	1596	99.7%	100.0%	
欠員値	無回答	5	0.3%		
合計		1601	100.0%		

Q54-3		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	忍耐力・努力家	649	40.5%	40.6%	40.6%
	非選択	948	59.2%	59.4%	100.0%
	合計	1597	99.8%	100.0%	
欠員値	無回答	4	0.2%		
合計		1601	100.0%		

Q54-4		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	慎重深い	175	10.9%	11.0%	11.0%
	非選択	1422	88.8%	89.0%	100.0%
	合計	1597	99.8%	100.0%	
欠員値	無回答	4	0.2%		
合計		1601	100.0%		

Q54-5		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	賢さ 頭の良さ	157	9.8%	9.8%	9.8%
	非選択	1440	89.9%	90.2%	100.0%
	合計	1597	99.8%	100.0%	
欠員値	無回答	4	0.2%		
合計		1601	100.0%		

Q54-6		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	まじめ	635	39.7%	39.8%	39.8%
	非選択	961	60.0%	60.2%	100.0%
	合計	1596	99.7%	100.0%	
欠員値	無回答	5	0.3%		
合計		1601	100.0%		

Q54-7		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	正義感	353	22.0%	22.1%	22.1%
	非選択	1244	77.7%	77.9%	100.0%
	合計	1597	99.8%	100.0%	
欠員値	無回答	4	0.2%		
合計		1601	100.0%		

Q54-8		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	決断力・意志力	265	16.6%	16.6%	16.6%
	非選択	1332	83.2%	83.4%	100.0%
	合計	1597	99.8%	100.0%	
欠員値	無回答	4	0.2%		
合計		1601	100.0%		

Q54-9		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	体力・運動能力	348	21.7%	21.8%	21.8%
	非選択	1249	78.0%	78.2%	100.0%
	合計	1597	99.8%	100.0%	
欠員値	無回答	4	0.2%		
合計		1601	100.0%		

Q54-10		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	容姿	135	8.4%	8.5%	8.5%
	非選択	1462	91.3%	91.5%	100.0%
	合計	1597	99.8%	100.0%	
欠員値	無回答	4	0.2%		
合計		1601	100.0%		

Q54-11		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	協調性	547	34.2%	34.3%	34.3%
	非選択	1050	65.6%	65.7%	100.0%
	合計	1597	99.8%	100.0%	
欠員値	無回答	4	0.2%		
合計		1601	100.0%		

Q54-12		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	責任感	702	43.8%	44.0%	44.0%
	非選択	895	55.9%	56.0%	100.0%
	合計	1597	99.8%	100.0%	
欠員値	無回答	4	0.2%		
合計		1601	100.0%		

Q54-13		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	専門的技能	357	22.3%	22.4%	22.4%
	非選択	1240	77.5%	77.6%	100.0%
	合計	1597	99.8%	100.0%	
欠員値	無回答	4	0.2%		
合計		1601	100.0%		

Q54-14		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	誇れるものはない	156	9.7%	9.8%	9.8%
	非選択	1441	90.0%	90.2%	100.0%
	合計	1597	99.8%	100.0%	
欠員値	無回答	4	0.2%		
合計		1601	100.0%		

平成 1 9 年度

若年層の生活体験に関する調査

調 査 用 紙

青森県教育委員会

青森県総合社会教育センター

はじめにあなた自身のことについてお聞きします。

- Q1 あなたの性別を教えてください。
- 1 男性
 - 2 女性
- Q2 あなたが生まれたのは何年ですか。
- 昭和 _____ 年生まれ
- Q3 あなたは現在、どちらにお住まいですか。
- 1 東青地区（青森市，東津軽郡）
 - 2 中南地区（弘前市，黒石市，平川市，中津軽郡，南津軽郡）
 - 3 西北地区（五所川原市，つがる市，西津軽郡，北津軽郡）
 - 4 三八地区（八戸市，三戸郡）
 - 5 上北地区（十和田市，三沢市，上北郡）
 - 6 下北地区（むつ市，下北郡）

あなたの小学生・中学生・高校生時代のことについてお聞きします。

小学生のときを思い出してお答えください。

- Q4 あなたは小学生のとき、青森県内で過ごしましたか。それとも県外で過ごしましたか。（転校をした場合は、一番長く過ごした場所をお答えください。）
- 1 青森県内
 - 2 青森県外（都道府県名を書いてください：_____）
- Q5 あなたは小学生のときに転校したことがありますか。
- 1 ある
 - 2 ない
- Q6 小学生のとき、ボランティア活動をしたことがありますか。
- 1 ある
 - 2 ない

- Q7 小学生のとき、オリエンテーションや野外での炊事，テントに泊まるなど、野外体験や自然に関する体験をしたことがありますか。
- 1 ある
 - 2 ない
- Q8 興味のある仕事について調べたり、実際に職場訪問をするなど、職業や就業に関する体験をしたことがありますか。
- 1 ある
 - 2 ない
- Q9 地域の行事に参加し、年齢や世代の異なる人々と交流した経験がありますか。
- 1 ある
 - 2 ない
- Q10 「おはようございます」「いただきます」「行ってきます」などの基本的な挨拶を家庭や学校でしていましたか。
- 1 していた
 - 2 していない
- Q11 校則や提出物の期限を守るなど、学校内での基本的な決まりを守っていましたか。
- 1 守っていた
 - 2 守っていない
- Q12 掃除分担や係りの仕事など、家庭や学校で自分に割り当てられた役割を果たしていましたか。
- 1 果たしていた
 - 2 果たしていない
- Q13 学校の部活動以外で、学習塾やスポーツ教室に通ったり、ピアノ・書道・珠算などの習いごとをしていましたか。
- 1 していた
 - 2 していない

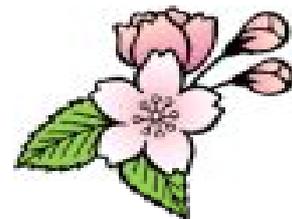
中学生のときを思い出してお答えください。

- Q14 中学生のとき、何でも話せる仲の良い友達がいきましたか。
- 1 いた
 - 2 いない
- Q15 中学生のとき、身近な話から進路についてまで、何でも話せる先生がいきましたか。
- 1 いた
 - 2 いない
- Q16 中学生のとき、ボランティア活動をしたことがありますか。
- 1 ある
 - 2 ない
- Q17 中学生のとき、興味のある仕事について調べたり、実際に職場訪問をするなど、職業や就業に関する体験をしたことがありますか。
- 1 ある
 - 2 ない
- Q18 体育祭・文化祭などの学校行事，委員会などの生徒会活動やクラスの係活動に仲間と協力して取り組んでいましたか。
- 1 取り組んでいた
 - 2 取り組んでいなかった
- Q19 部活動に参加していましたか。
- 1 熱心に参加していた
 - 2 熱心ではないが参加していた
 - 3 参加していなかった
- Q20 あなたは、高等学校に進学しましたか。
- 1 進学した（ Q21へ）
 - 2 進学しなかった（ Q27へ）



高校に進学された方にお聞きします。

- Q21 高校生のとき、何でも話せる仲の良い友達がいきましたか。
- 1 いた
 - 2 いない
- Q22 高校生のとき、身近な話から進路についてまで、何でも話せる先生がいきましたか。
- 1 いた
 - 2 いない
- Q23 高校生のとき、ボランティア活動をしたことがありますか。
- 1 ある
 - 2 ない
- Q24 興味のある仕事について調べたり、実際に職場訪問をするなど、職業や就業に関する体験をしたことがありますか。
- 1 ある
 - 2 ない
- Q25 体育祭・文化祭などの学校行事，委員会などの生徒会活動やクラスの係活動に仲間と協力して取り組んでいましたか。
- 1 取り組んでいた
 - 2 取り組んでいなかった
- Q26 部活動に参加していましたか。
- 1 熱心に参加していた
 - 2 熱心ではないが参加していた
 - 3 参加していなかった



全員にお聞きします。

- Q27 あなたの最終学歴（今までに通った一番上の学校）は、次の中のどれですか。
- 1 中学校
 - 2 高等学校
 - 3 専門学校・専修学校（高校を卒業してから行くもの）
 - 4 短期大学・高専
 - 5 大学・大学院
 - 6 その他（学校の種類を具体的に書いてください：_____）
- Q28 あなたの最終学歴校はどこにありましたか。
- 1 青森県内
 - 2 青森県外（都道府県名を書いてください：_____）
- Q29 あなたはその学校を卒業しましたか、それとも中途退学しましたか。
- 1 卒業（修了）した（ Q30へ）
 - 2 中途退学した（ Q30へ）
 - 3 現在通っている（ Q54へ）



ここからは、あなたの仕事の経験についてお聞きします。

Q30 あなたは今までに、アルバイトやパートなどを含め、お給料をもらって働いたことはありますか。（無給のボランティアや家事手伝いは除きます。）

- 1 ある（ Q31へ）
- 2 ない（ Q48へ）

働いたことのある方にうかがいます。

Q31 学校を卒業又は中退して、はじめてついたお仕事はどのようなお仕事でしたか。（在学中のアルバイトは除いてください。）

- 1 農・林・水産・造園業関係の現業職（管理職・事務職は除く）
- 2 歯科医・保育士・学校教員・司法書士などの専門職、電気・建築・医療技術者
- 3 営業職・経理職・秘書・レジ係・集金人を含む一般事務職
- 4 理容師・調理師・ウェ이터・接客業・ホームヘルパーなどのサービス職
- 5 小売店員・保険外交員・ガソリンスタンド店員・コンビニ店員などの販売職
- 6 タクシーやトラック・バスの運転手や鉄道や航空会社の地上係員、郵便局職員
- 7 工場での組み立て作業員や製造職
- 8 大工・配管工・現場監督などの建設作業職
- 9 自衛官・警察官・消防士・警備員・刑務官などの保安関係職
- 10 清掃員やビル管理人などの労務職

よく分類がわからないときは、具体的な仕事の内容を書いてください。

Q32 そのお仕事は、正社員でしたか、それとも臨時職員やアルバイト・パートでしたか。

- 1 正社員（正職員）
- 2 臨時職員・契約社員・派遣社員・嘱託・非常勤
- 3 パート・アルバイト・季節雇い
- 4 自営業主（自分で会社や事業を始めた）
- 5 家族従業者（家業を手伝った）

Q33 はじめてついたお仕事はどのようにして探しましたか。あてはまるものを一つだけ選んでください。

- 1 学校の先生や就職部の紹介
- 2 部活やサークルの先輩、OBやOGの紹介
- 3 親戚や親の紹介
- 4 友達や友人の紹介
- 5 在学中のアルバイト先へ就職した、またはアルバイト先から紹介された
- 6 就職雑誌やインターネットの求人広告に応募した
- 7 職業安定所（ハローワーク）で紹介された
- 8 その他

Q34 はじめてついたお仕事で、最初にもらったお給料はいくらくらいでしたか。月給または一ヶ月の収入でお答えください。

- 1 5万円以下
- 2 6万～10万円くらい
- 3 11～15万円くらい
- 4 16～20万円くらい
- 5 21～25万円くらい
- 6 26万円以上
- 7 おぼえていない

Q35 あなたはその後、今も同じお勤め先で働いていますか。（勤め先から命令された配置転換や出向は、同じ勤め先としてください。）

- 1 今も同じ勤め先で働いている（ Q43へ）
- 2 その勤め先をやめた（ Q36へ）



転職や離職をされた方にお聞きします。

Q36 はじめてついたお仕事をやめたのは、働き始めてからどれくらいたった後でしたか。

- 1 3ヶ月以内
- 2 1年以内
- 3 3年以内
- 4 5年以内
- 5 5年以上たってから

Q37 今から振り返って、はじめてついたお仕事をやめた主な理由はなんだったと思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。

- 1 給与が不満だった
- 2 臨時職員やアルバイトなど、正社員になれなかった
- 3 働く時間が長すぎたり、勤務時間が不規則だった
- 4 同僚や上司との人間関係がうまくいかなかった
- 5 仕事がつまらない、自分に向いていないと思った
- 6 勤め先が倒産した、倒産しそうになった
- 7 働く期間が最初から決まっていた
- 8 結婚・出産、家族の介護のため
- 9 病気やケガのため
- 10 地元に帰りたかった
- 11 家業を継ぐことになっていた
- 12 他にやりたい仕事が見つかった
- 13 留学・資格取得のため

Q38 あなたはその後、アルバイトやパートを含めて転職して働きましたか、それとも、その後はまったく働いていませんか。

- 1 転職して別の勤め先で働いた（ Q39へ）
- 2 はじめてついた仕事をやめてから働いていない（ Q47へ）



転職した方にお聞きします。

- Q39 はじめてついたお仕事をやめた後、次のお仕事（アルバイトやパートを含みます）に転職するまでに、どれくらいの時間がかかりましたか。
- 1 すぐ（一週間以内）に新しい仕事についた
 - 2 1ヶ月以内に新しい仕事についた
 - 3 3ヶ月以内に新しい仕事についた
 - 4 6ヶ月以内に新しい仕事についた
 - 5 一年以内に新しい仕事についた
 - 6 一年以上たってから新しい仕事についた
- Q40 次のお仕事は正社員（正職員）でしたか、それとも臨時職員やアルバイト・パートでしたか。
- 1 正社員（正職員）
 - 2 臨時職員・契約社員・派遣社員・嘱託・非常勤
 - 3 パート・アルバイト・季節雇い
 - 4 自営業主（自分で会社や事業を始めた）
 - 5 家族従業者（家業を手伝った）
- Q41 アルバイトやパートを含めて、今までに何回、お仕事を变えましたか。（勤め先から命令された配置転換や出向は数えないでください。）
- 1 1回
 - 2 2～3回
 - 3 4～5回
 - 4 6～10回
 - 5 10回以上
- Q42 あなたは今、働いていますか。
- 1 働いている（ Q43へ）
 - 2 働いていない（ Q48へ）



今、働いている方、全員にお聞きします。

Q43 今のお仕事は、どのようなお仕事ですか。

- 1 農・林・水産・造園業関係の現業職（管理職・事務職は除く）
- 2 歯科医・保育士・学校教員・司法書士などの専門職、電気・建築・医療技術者
- 3 営業職・経理職・秘書・レジ係・集金人を含む一般事務職
- 4 理容師・調理師・ウェ이터・接客業・ホームヘルパーなどのサービス職
- 5 小売店員・保険外交員・ガソリンスタンド店員・コンビニ店員などの販売職
- 6 タクシーやトラック・バスの運転手や鉄道や航空会社の地上係員、郵便局職員
- 7 工場での組み立て作業員や製造職
- 8 大工・配管工・現場監督などの建設作業職
- 9 自衛官・警察官・消防士・警備員・刑務官などの保安関係職
- 10 清掃員やビル管理人などの労務職

よく分類がわからないときは、具体的な仕事の内容を書いてください

Q44 今のお仕事は正社員（正職員）ですか、それとも臨時職員やアルバイト・パートですか。

- 1 正社員（正職員）
- 2 臨時職員・契約社員・派遣社員・嘱託・非常勤
- 3 パート・アルバイト・季節雇い
- 4 自営業主（自分で会社や事業を始めた）
- 5 家族従業者（家業を手伝っている）

Q45 今のお仕事は、どれくらいの収入がありますか。ボーナス等を含めた一年間のあなたの収入を税込みで教えてください。

- 1 150万円以下
- 2 150～300万円未満
- 3 300～500万円未満
- 4 500～700万円未満
- 5 700～900万円未満
- 6 900万円以上
- 7 よくわからない

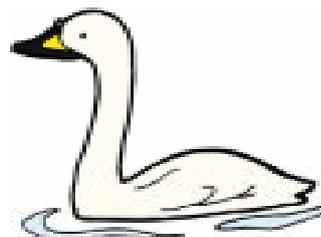
Q46 あなたは、これから転職したいと思いますか、それとも今のお仕事を続けたいと思いますか。

- 1 すぐにでも転職したい
- 2 よい仕事があれば転職したい
- 3 今の勤め先でこのまま働きたい
- 4 よくわからない

Q47 今までのお仕事の実験から、あなたは仕事をする上で次のような事柄はどれくらい大切だと思いますか。それぞれの項目についてお答えください。

	とても大切	多少は大切	あまり大切ではない	大切ではない	よくわからない
自分の個性や能力・資格が生かせること	1	2	3	4	5
自分のやりたい仕事であること	1	2	3	4	5
仕事を通して資格や技術が身につけられること	1	2	3	4	5
職場の雰囲気や人間関係が良いこと	1	2	3	4	5
給料が高いこと	1	2	3	4	5
休みが多いこと	1	2	3	4	5
残業や休日出勤がないこと	1	2	3	4	5
家庭や趣味と両立できること	1	2	3	4	5
通勤しやすい場所であること	1	2	3	4	5
長い間にわたって安定して働けること	1	2	3	4	5
有名な会社であること	1	2	3	4	5
働く会社に将来性があること	1	2	3	4	5
将来、独立して自分で事業が起こせること	1	2	3	4	5
他の人や社会のために役立つ仕事であること	1	2	3	4	5
他の人や社会から尊敬される仕事であること	1	2	3	4	5

(この質問が終わったらQ54へ)



今、働いていない方全員にうかがいます

Q48 あなたが無職になってからの期間はどれくらいですか。

- 1 3か月未満
- 2 3か月～1年未満
- 3 1年～3年未満
- 4 3年～5年未満
- 5 5年～10年未満
- 6 10年以上

Q49 あなたは、これから働こうと考えていますか。

- 1 すぐにでも働きたい
- 2 よい仕事があれば働きたい
- 3 あまり働きたくない
- 4 働くつもりはない

Q50 現在、あなたは職探しをしていますか。

- 1 している(Q51へ)
- 2 していない(Q54へ)

Q51 どのようなお仕事を探していますか。次の中から一つだけ選んでください。

- 1 専門・技術職
- 2 一般事務職
- 3 公務員
- 4 何でもよい

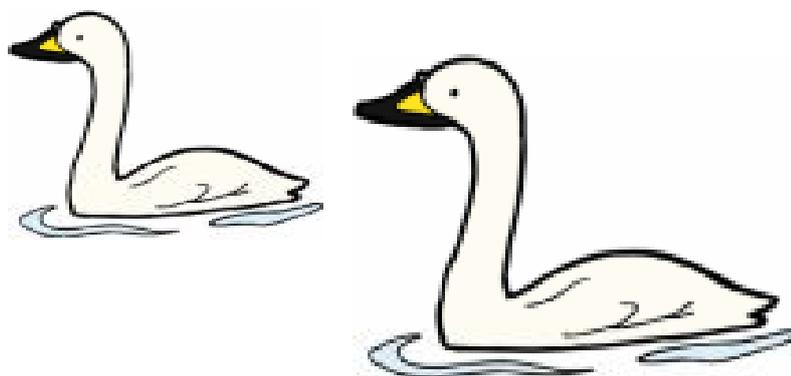
Q52 正社員とアルバイトのどちらがいいですか。

- 1 正社員(正職員)
- 2 アルバイト・パート・臨時職員
- 3 どちらでもよい



Q53 新しい仕事を探す時に、次のような事柄はどれくらい大切だと思いますか。それぞれについてお答えください。

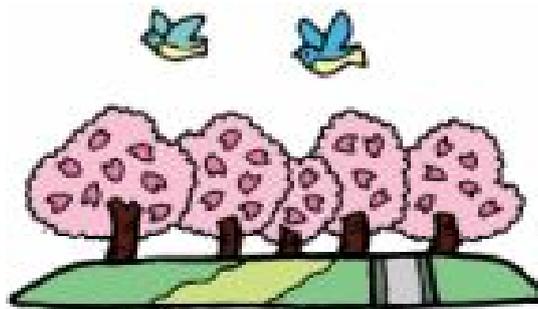
	とても大切	多少は大切	あまり大切ではない	大切ではない	よくわからない
自分の個性や能力・資格が生かせること	1	2	3	4	5
自分のやりたい仕事であること	1	2	3	4	5
仕事を通して資格や技術が身につけられること	1	2	3	4	5
職場の雰囲気や人間関係が良いこと	1	2	3	4	5
給料が高いこと	1	2	3	4	5
休みが多いこと	1	2	3	4	5
残業や休日出勤がないこと	1	2	3	4	5
家庭や趣味と両立できること	1	2	3	4	5
通勤しやすい場所であること	1	2	3	4	5
長い間にわたって安定して働けること	1	2	3	4	5
有名な会社であること	1	2	3	4	5
働く会社に将来性があること	1	2	3	4	5
将来、独立して自分で事業が起こせること	1	2	3	4	5
他の人や社会のために役立つ仕事であること	1	2	3	4	5
他の人や社会から尊敬される仕事であること	1	2	3	4	5



最後に、すべての方にお聞きします。

Q54 現在、あなたは自分自身について誇れるものを持っていますか。この中からあてはまるものをいくつでも選んでください。

- 1 明るさ
- 2 やさしさ・思いやり
- 3 忍耐力・努力家
- 4 慎み深い
- 5 賢さ、頭の良さ
- 6 まじめ
- 7 正義感
- 8 決断力・意志力
- 9 体力・運動能力
- 10 容姿
- 11 協調性
- 12 責任感
- 13 専門的スキル
- 14 誇れるものはない



-----この線に合わせて折ると返信用の封筒にきれいに入ります)-----

大変お疲れ様でした。調査はこれで終了です。記入の終わった調査用紙は、同封の返信用封筒に入れて返送してください。（切手は不要です。）なお、**返信用封筒には住所やお名前を書かないでください。**

ご協力、誠にありがとうございました。

この調査の結果は集計・分析等が終わりしだい、当センターのホームページ（<http://alis.net.pref.aomori.jp/>）でご覧いただけるようになります。

-----この線に合わせて折ると返信用の封筒にきれいに入ります)-----

この印刷物は4100部作成し、印刷経費は1部当たり23.73円です。

生涯学習・社会教育支援体制に関する調査研究顧問

氏名	所属	職名
佐藤三三	弘前大学教育学部	学部長・教授
吉村治正	青森大学社会学部	准教授

事務局

氏名	所属	職名
佐々木俊二	青森県総合社会教育センター	所長
成田正栄	青森県総合社会教育センター	副所長
佐々木昭夫	青森県総合社会教育センター 研究開発課	課長
高橋圭	青森県総合社会教育センター 研究開発課	社会教育主事
村田美佳	青森県総合社会教育センター 研究開発課	指導主事

平成 19 年度 生涯学習・社会教育支援体制に関する調査研究
若年層の生活体験に関する調査研究報告書

平成 20 年 1 月

編集・発行 青森県総合社会教育センター

〒030-0111 青森市荒川字藤戸 119-7
TEL 017-739-1251 FAX 017-739-1279
<http://alis.net.pref.aomori.jp/>
E-Mail : E-SHAKYO@pref.aomori.lg.jp

印刷 株式会社誠工社 TEL 017-729 - 1611
